



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

平成26年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報告書

一般財団法人地域創造

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、人材育成、情報提供、調査研究、財政支援などの事業に取り組んでいます。

これらの事業の一環として、平成 17 年度から「公共ホール現代ダンス活性化事業」を実施しております。

この事業は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として実施するもので、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域の公共ホールに 1 週間程度派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）と公演を実施するものです。

公共ホールを対象に、コーディネーター（コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家）による企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、この事業をとおして公共ホールのスタッフの企画制作能力を高める機会としていただくことも狙いの一つとしています。

この報告書は、平成 26 年度に実施された全国 8 か所の各地での取り組みを取りまとめたものです。この中には、実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウや事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に取り組んでいただいた実施団体、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、事業の趣旨にご賛同いただき派遣をご快諾いただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さま方のご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申しあげます。

目次

事業概要

平成 26 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要	2
平成 26 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要	5
公共ホール現代ダンス活性化事業の考え方	7
事業の流れ	8

実施内容紹介(実施日程順)・コーディネーターレポート・サブコーディネーターレポート

たきかわホール（北海道滝川市）	10
パレット市民劇場（沖縄県那覇市）	18
ひたちなか市文化会館（茨城県ひたちなか市）	26
なかの ZERO（東京都中野区）	34
うきは市文化会館（福岡県うきは市）	42
釧路市民文化会館（北海道釧路市）	50
高知市文化プラザかるぼーと（高知県高知市）	58
大船渡市民文化会館（岩手県大船渡市）	66

事業資料

公演パンフレット	80
平成 26 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	88
コーディネーター等プロフィール	93

事業概要

平成 26 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要

1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

2 実施内容

(1) 実施団体（都道府県順）

市町村名	実施団体名	実施ホール名
北海道釧路市	(一財)釧路市民文化振興財団	釧路市民文化会館
北海道滝川市	NPO 法人空知文化工房	たきかわホール
岩手県大船渡市	大船渡市	大船渡市民文化会館
茨城県ひたちなか市	(公財)ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社	ひたちなか市文化会館
東京都中野区	(株)JTB コミュニケーションズ・野村不動産パートナーズ指定管理者共同事業体	なかの ZERO
高知県高知市	(公財)高知市文化振興事業団	高知市文化プラザかるぼーと
福岡県うきは市	うきは市	うきは市文化会館
沖縄県那覇市	パレットグループ	パレット市民劇場

*対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者(原則として都道府県・政令市及びそれらが関わる公益法人や施設の指定管理者は除く)

(2) 開催時期

平成 26 年 7 月～平成 27 年 2 月

(3) 事業内容

登録アーティストを約 1 週間の日程で地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下の事業を実施

①地域交流プログラム

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募等によるホール内で実施するワークショップ(5～6回)

*アウトリーチ(3回以上)

*公募等のワークショップ(1回以上)

②公演

有料のコンテンポラリーダンス公演(1回)

③関係者向けワークショップ

現地下見(個別研修)時において、アウトリーチ先(候補を含む)の学校等の職員及びホールスタッフを対象としたワークショップ(1回)

(4) 研 修 会

①全体研修会(入門編)

日 時:平成 25 年 11 月 11 日(月)～12 日(火)

場 所:ティアラこうとう(江東公会堂)

内 容:事業の実施に必要な基礎的な考え方等についてのノウハウの提供

②全体研修会（アーティストプレゼン編）

日 時：平成 26 年 1 月 7 日（火）～8 日（水）

場 所：ティアラこうとう（江東公会堂）

内 容：事業の実施にあたっての企画・制作の進め方等の実践的ノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

③現地下見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、コーディネーター及び登録アーティスト等を現地に事前に派遣

(5) 費用負担

地域創造と開催地の市町村等が負担する主な経費区分

1) 地域創造が負担する経費

①地域交流プログラム、公演及び関係者向けワークショップ

a) 登録アーティスト（ソロ又はデュオ。ソロの場合はアシスタント 1 名まで負担可能）の派遣に係る経費

公演出演料（1 回）、地域交流プログラム（5～6 回）及び関係者向けワークショップ（1 回）講師料、宿泊費及び日当（6 泊 7 日以内）、現地移動費を除く交通費（往復 1 回分）、出演者に係る損害保険料

* 関係者向けワークショップに係る交通費は、現地下見（個別研修）に係る経費に含む。

b) 公演共演者の派遣に係る経費（1 名まで）

c) テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ 1 名まで）の派遣に係る経費

②現地下見（個別研修）

コーディネーター及び登録アーティスト（最大 2 回まで）、並びに必要と判断されたテクニカルスタッフ等（1 回まで）の派遣に係る経費

2) 開催地の市町村等が負担する主な経費

上記 1) 以外の現地移動費、会場使用料、舞台制作費（舞台・音響・照明などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費

(6) 事業実施に対する支援

①全体研修会の開催

②コーディネーターの派遣

(7) 主催・共催等

主催：開催地の市町村等 共催：一般財団法人地域創造

3 平成 26 年度コーディネーター

佐東 範一（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network 代表）

志賀 玲子（プロデューサー）

菊丸喜美子（プロデューサー）

花光 潤子（NPO 法人魁文舎代表）

平岡 久美（Dance in Deed! 代表）

4 平成 26 年度サブコーディネーター

清水 幸代（LANDSCAPE 代表）

小倉由佳子（プロデューサー）

4 平成 26 年度登録アーティスト(五十音順、ソロ・デュオ順)

登録アーティストは全国公募の選考会により選ばれた 7 組 10 名。

登録期間は 2 年間 (平成 25・26 年度)



田畑真希 ©松本和幸

3 歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トゥシューズを履いて踊ることに疑問を感じ、さらなる表現を追求するため桐朋学園短期大学演劇科に入学。演技、日舞、狂言、アクロバット等さまざまな表現を学ぶ。紆余曲折を経て再びダンスの世界へ。2007 年より振付家としての活動を始め、横浜ダンスコレクション R2009 にて「未来に羽ばたく横浜賞」「マズンザ賞」をダブル受賞。自身の主宰カンパニー「タバマ企画」を立ち上げ、国内外で精力的に活動中。



田村一行 ©松田純一

1998 年大駒駝艦に入艦。舞踏家・俳優である磨赤児に師事。緻密な振付で構成する作品は、新たな舞踏の可能性を示し注目されている。2008 年、文化庁新進芸術家海外留学制度により、フランスのジョセフ・ナジのもとへ留学。舞踏の特性を生かしたワークショップは幅広く好評を博している。演劇作品などへの客演も多数。第 34 回舞踊批評家協会賞新人賞受賞。



矢内原美邦

ニブロール主宰。日常の身ぶりをモチーフに現代の空虚さや危うさをドライに提示するその独特の振付は国内外での評価も高い。2009 年日本ダンスフォーラム大賞受賞。演劇、劇作にも挑戦し、『前向き！タイモン』で第 56 回岸田國士戯曲賞を受賞。またアート作品の制作・展示を off-Nibroll 名義で活動し、世界各地の美術展にも招聘されている。



山賀ざくろ ©小熊栄

幼少からからだを動かすのが好きで、高校在学中は器械体操部に所属。ダンスを始めたのは 25 歳の時で、わりと遅めのスタート。2002 年、43 歳にして JCDN「踊りに行くぜ!!!」で突如全国デビュー。一步一步を確実に、マイペースな長距離ダンサー。そのいい具合に力の抜けたダンスは、老若男女、世代を問わず魅了する。



赤丸急上昇(赤松美智代+丸山陽子) ©Tadashi Miyamoto

2005 年に赤丸急上昇結成。みかんの国のコンテンポラリーダンサー。お面を被って結婚式や宴の席にも出没。漫画みたいなダンスを身体を使い切って踊る肉体派。これまでに国内外 10 都市以上で作品を上演してきた。その他、車いすダンスへの振付や、知的障害者施設での楽しいダンスプロジェクトを行うなど、日々活動中。愛媛大学非常勤講師。



坂本公成+森裕子 ©Toshihiro Shimizu

京都のダンスカンパニー Monochrome Circus を率いる二人は、日本でのコンタクト・インプロヴィゼーション指導の第一人者でもある。「掌編ダンス集」と銘打った大小の作品群をはじめとする多くのレパートリー作品を、国内のみならずヨーロッパをはじめアジア、アメリカなど世界各地で上演しているほか、「瀬戸内国際芸術祭 2010」での『直島劇場』などサイトスペシフィックな作品も創作。



勝部ちこ+鹿島聖子 ©C.I.co.

二人は、コンタクト・インプロヴィゼーショングループ C.I.co.(シーあいしーおー)を主宰する。「ふれあう事から始まるダンス」として、国内外各地でのワークショップや公演、国際フェスティバルの開催等を行ってきている。保育園、小学校、大学、公共ホール、企業の研修・採用試験の面接 WS などでも活動を行い、CI をベースに「コミュニケーション」「身体」「社会性」について研究を続けている。

平成 26 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要

【入門編】

1 期 日

平成 25 年 11 月 11 日(月)～12 日(火)

2 会 場

ティアラこうとう(江東公会堂)

3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップと作品に触れ、理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。

4 プログラム内容及びスケジュール

11 月 11 日(月)

時間	会場：大会議室、中会議室
14:00～14:15	開講式・オリエンテーション
	着替え・休憩
14:30～17:30	セッション①「コンテンポラリーダンス・ワークショップ&デモンストレーション」 講 師：山田うん/川合ロン (アシスタント)
	休 憩
17:45～19:15	セッション②「フィードバック～ワークショップ&デモンストレーションの振り返り～」 講 師：山田うん コーディネーター 佐東範一 (進行)、志賀玲子、堤康彦、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美

11 月 12 日(火)

時間	会場：中会議室
10:00～12:00	セッション③「ダンスの広報を考える」 講 師：コーディネーター 志賀玲子 (進行)、佐東範一、堤康彦、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美
	休 憩
13:00～13:30	セッション④「ダン活事業概要」 説 明：地域創造
13:30～15:00	セッション⑤「ダン活アウトリーチ&ダンス制作の留意事項」 講 師：コーディネーター 佐東範一 (進行)、堤康彦 (アウトリーチ)、志賀玲子 (ダンス制作)、 菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美
	休 憩
15:15～16:15	セッション⑥「フィードバック～研修会を振り返って」 講 師：コーディネーター 佐東範一 (進行)、志賀玲子、堤康彦、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美
16:15～16:30	事務連絡・閉講式

【アーティストプレゼン編】

1 期 日

平成 26 年 1 月 7 日(火)～8 日(水)

2 会 場

ティアラこうとう(江東公会堂)

3 目 的

- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

4 プログラム内容及びスケジュール

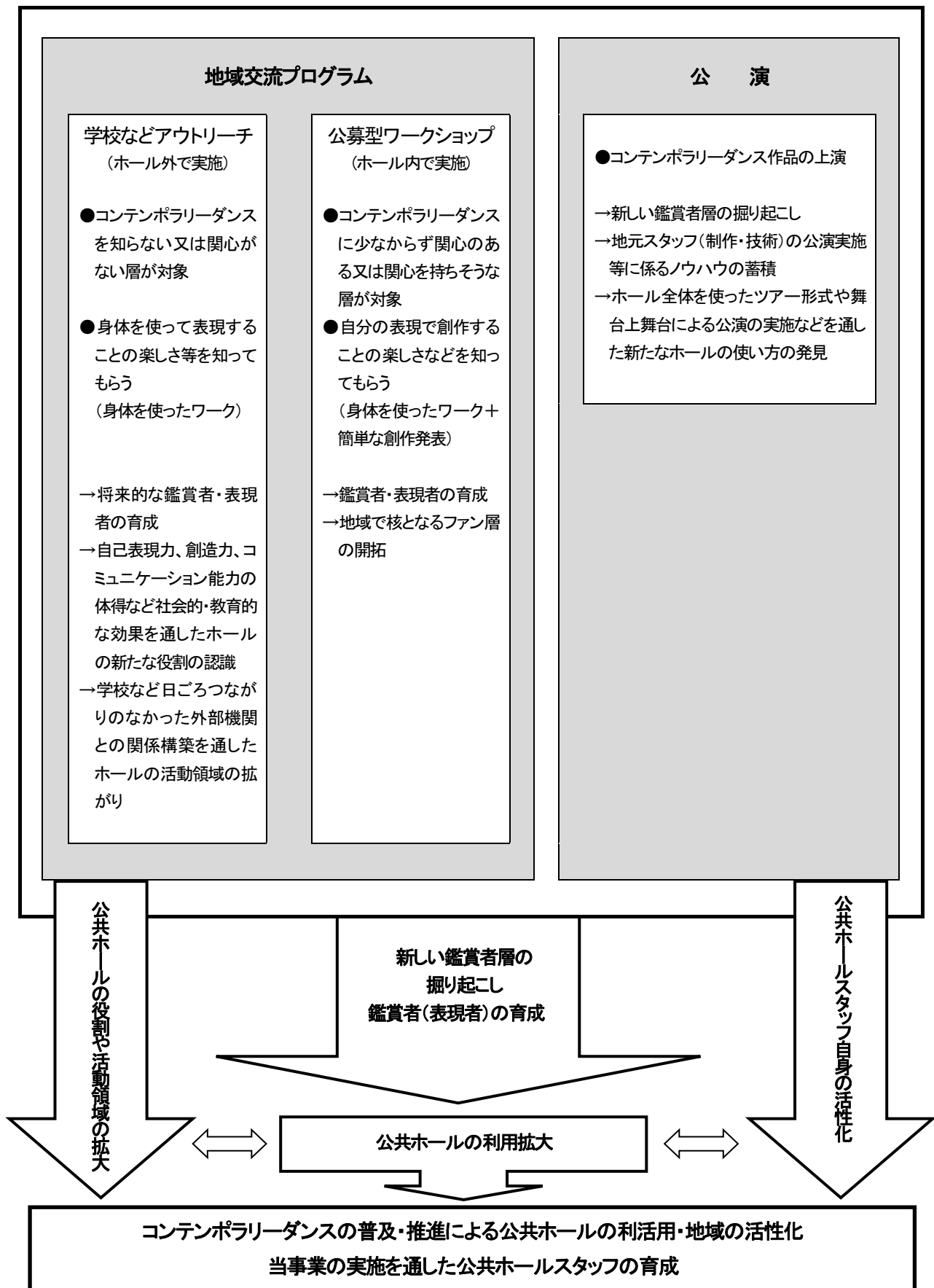
1 月 7 日(火)

時間	会場：大会議室、中会議室
15:00～15:30	オリエンテーション
	休 憩
15:45～16:50	プレゼンテーション（登録アーティスト 2 組 3 名）
	休 憩
17:00～17:30	プレゼンテーション（登録アーティスト 1 組 1 名）
	休憩・移動
17:50～19:20	交流会（情報交換会）

1 月 8 日(水)

時間	会場：大会議室、中会議室
10:30～11:35	プレゼンテーション（登録アーティスト 2 組 4 名）
	休 憩
11:45～12:15	プレゼンテーション（登録アーティスト 1 組 1 名）
	休憩・移動
12:30～14:00	昼食会（情報交換会）
	休憩・移動
14:10～16:20	フィードバック～プレゼンを振り返って 講 師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、堤康彦、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美
16:20～16:35	事務連絡・閉講式

公共ホール現代ダンス活性化事業の考え方



事業の流れ(9月実施のケース)

時期	(一財)地域創造	コーディネーター	実施団体	アーティスト
11/11~12	全体研修会(入門編)			
1/7~8	全体研修会(アーティストプレゼン編)			
1/17締切	実施計画案の確認 (仮)日程調整		実施計画案作成・提出 (仮)日程調整	
2月上旬	コーディネーター会議 (事業日程、アーティスト、担当コーディネーター決定)			
4月上旬	決定通知発送			
			各種準備 (内容詰め、宿泊手配、制作スケジュールの打合せ等)	
4月下旬	コーディネーター アーティストの派遣	個別研修(2回) (~2カ月前)		
		計画書の内容確認	実施計画書作成	
7月上旬	契約書作成 契約締結		実施計画書提出 (事業実施2カ月前)	契約締結
			広報、各種調整 (テクニカル、全体スケジュール、当日スタッフ体制等の調整)	
9月	事業実施			
10月	出演料等支払			出演料等請求
			実績報告書提出 (事業終了後1ヵ月以内)	
5月	事業報告書発行			

実施内容紹介

(実施日程順)

コーディネーターレポート
サブコーディネーターレポート

たきかわホール（北海道滝川市）

パレット市民劇場（沖縄県那覇市）

ひたちなか市文化会館（茨城県ひたちなか市）

なかの ZERO（東京都中野区）

うきは市文化会館（福岡県うきは市）

釧路市民文化会館（北海道釧路市）

高知市文化プラザかるぼーと（高知県高知市）

大船渡市民文化会館（岩手県大船渡市）

たきかわホール 実施データ

実施団体	特定非営利活動法人 空知文化工房
実施ホール	たきかわホール
実施期間	平成 26 年 7 月 8 日(火)～7 月 14 日(月)
アーティスト等	アーティスト：田畑真希 アシスタント：王下貴司 共演者：カスママリコ
コーディネーター	花光潤子
サブコーディネーター	小倉由佳子

■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)

6 月 5 日 (木) 17:00～18:00、ホール関係者等・アウトリーチ先担当者、13 名、たきかわホール

■地域交流プログラム

アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)

- ① 7 月 9 日 (水) 10:30～12:05、滝川市立滝川第一小学校、4 年生、39 名、体育館
- ② 7 月 9 日 (水) 14:30～16:00、滝川市福寿大学、学生 (60 歳以上)、44 名、たきかわホール
- ③ 7 月 10 日 (木) 9:15～10:45、國學院短期大学部、1～2 年生、33 名、体育館
- ④ 7 月 10 日 (木) 14:30～16:00、滝川市福寿大学、学生 (60 歳以上)、44 名、たきかわホール

公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 7 月 8 日 (火) 19:00～21:00、小学生以上、大人 1,500 円、高校生以下 500 円、8 名、たきかわホール
- ※参加料：それぞれ公演チケット 1 枚付き

公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『ワークショップ参加者作品』

『メルヘン』

- 7 月 13 日 (日) 15:00 開演 (14:30 開場)
- 田畑真希、王下貴司、カスママリコ、デジ(音楽)、ワークショップ参加者 6 名
- 一般 1,000 円 (当日 1,200 円)、高校生以下 500 円 (当日 700 円)
- たきかわホール
- 89 名



スケジュール

北海道滝川市／たきかわホール

	下見①	
	4/22 (火)	4/23 (水)
9:00		
10:00		福寿大学 打合せ
11:00		打合せ
12:00		↓
13:00		昼食
14:00	滝川着	会場下見 打合せ
15:00	國學院短大 打合せ・下見	帰途
16:00	第一小学校 打合せ・下見	
17:00	↓	
18:00	FM 出演	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	6/5 (木)	6/6 (金)
		新聞取材
		施設見学
		地元アーティスト 訪問
		昼食
		市内見学
	滝川着	↓
	楽器確認	帰途
	打合せ	
	インリーチ	
	交流会	

	実施期間						
	7/8 (火)	7/9 (水)	7/10 (木)	7/11 (金)	7/12 (土)	7/13 (日)	7/14 (月)
9:00			國學院短大 アウトリーチ	仕込み	明かり作り シュート	照明直し	帰途
10:00		第一小学校 アウトリーチ	↓	楽器搬入			
11:00		↓				リハーサル	
12:00		給食交流			↓	WS 作品 通し稽古	
13:00				↓		↓	
14:00		福寿大学 アウトリーチ	福寿大学 アウトリーチ	共演者合流 滝川入り		開場	
15:00		↓	↓	サウンドチェック	ゲネプロ	公演	
16:00				場当たり	直し	↓	
17:00						バラシ	
18:00	公募 WS 準備	WS 作品 づくり①	WS 作品 づくり②	場当たり	WS 作品 リハーサル	打上げ	
19:00	公募 WS	↓	↓	↓	↓		
20:00	↓	↓	↓	↓	↓		
21:00	交流会		仕込み	明かり作り	照明直し		
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ

1 回目の下見時に全てのアウトリーチ先が決定していたので、打合せは初回で終了していた。小学校は、身体を動かす楽しさや子ども達同士のコミュニケーションを発展させること、福寿大学も身体を動かし健康増進を図るということをそれぞれ目的として実施し、短大生は運動学を中心に学習しており、身体の動きを見ることが授業の主体ということだったが、実際に自分達が動いて体験してもらうこととした。

【小学校】事前に伺っていた「集団行動が苦手な子」「ダンスが大好きな（いつも踊っている）子」「恥ずかしがりやな子」などケアが必要な児童が数人いたと思われたが、担任教諭はもとより校長先生も積極的に参加して下さり、ほぼ全員が集中して行うことができた。最後までグループの創作に関わらない児童もいたが、田畑さんが途中で声をかけたこともあり、意識は常にアーティストに向いていたように見えた。男女の区別なく全員の仲が良いことを印象付けたのは、必ず誰かがその子を誘う場面を多く見たからであり、そのような状態の中でアウトリーチを実施できたことは大変良かった。

【短大】かなり恥ずかしがっていたと思われ、最初は動きもぎこちなく体育館の広さが逆に気になった。自分の名前を体で表現することを行った後半からは、移動の空間を狭めたこともあり多少は動きにも変化が見られたが、どの学生にも最後まで気恥ずかしさが残っていたようにも感じた。

【福寿大学】想像していた以上に意外と思切り体を動かす方が多く、少々驚いた。2 日間実施して、顔ぶれによりそれぞれの雰囲気若干違いはあったものの、概ね好評で楽しんで体験していたように思う。イスに座ったままでも参加できたという実感を持ってもらえたのではないだろうか。



滝川第一小学校



滝川第一小学校



福寿大学



福寿大学

●公募型ワークショップ

演劇ワークショップを行なうと、必ずと言っていいほど申し込んでくださる方々がいるので、当初はそこをかなり当てにしていたが、今回はまったく反応がなく驚いたのと同時に残念であったと感じた。やはり、自分達に関わるものには興味を示すが、関係がないと思われると見向きもされないということの表れか…。

募集対象は小学生以上として特に年齢の制限をかけず、小学生1名、中学生1名、高校生3名、一般3名とバラエティにとんだ参加者となった。参加人数は8名と少数で、初めはお互い見知らぬ同士で緊張していてそれぞれ2、3人で固まっていたが、田畑さんのリードと王下さんのアシストで徐々にその固まりがほぐれていくようになり、最後は2つのグループに分かれ舞台上でお互いの動きを見合うこともできた。ダンス経験者からは「新しいダンス」「自由な発想、決まった型がなく、どんな動きも受け入れられるのが新鮮な発見だった」という感想が聞かれた。



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチ先の先生方に、実際に体験することによって本事業に対する理解を深めていただき、当日をより有意義なものにすることを大きな目的に据え実施した。もう一方で、日頃、互いの施設でどのような事業が行われているのかということ、当法人の職員同士が具体的に理解しあうということも目的として行なった。自分達が想像していた「ダンス」という概念が取り払われ、子育て支援施設の担当者は「親子で行う行事に活かしたい」と感想を述べていたことなどもあり、ホール職員は自身がインリーチを体験したことによって、実際にワークショップ等の問合せに柔軟に対応することができた。



地域交流プログラム内容

7月9日（水） 滝川市立第一小学校 4年1組2組

●まずは自己紹介

事前に担任の先生方が話をしてくださったと思われる。田畑さん・王下さんに興味津々の子どもたちは、授業が始まる前の休み時間からすでに二人の周りに近づいて話しかけている子が何人も見られた。

まずは、お二人が自己紹介を交えつつ踊ってみせた。踊りながら子ども達の中へ入っていき、途中、何人かの児童が手を取られながら田畑さんたちに導かれるように一緒になって動いた。

●そして真似してみる

集めた子ども達の中へ入っていき、田畑さんの真似をしながら体育館を縦横無尽に動き回る田畑さんと子ども達。

子どもはとにかくおかしな（変な）動きが大好きで、常に笑顔と笑い声が絶えない。広い体育館で思い切り体を動かすことで、ウォーミングアップも兼ね、気持ちもどンドン解放されてきたようだ。

●みんなで何本足で立つ？

体と心が解放されたところで、田畑さんから「1本の足で立ってみて！」とか「2本！」「3本！」とかいうふうにお題が始まる。最初は皆ひとりでやっていたが、そのうちに「3人で」「5人で」とだんだんグループでやらなければならないものになり、自然と話し合い相談しあう様子が見られた。人数が変わるごとに仲間を確認しあい、離れていて集団に入り込まない子がいても常に誰かれとなく誘っていたのが非常に印象的であった。

●みんなのポーズ

田畑さんが吹く笛の音に合わせて様々なポーズを決めながら『だるまさんがころんだ』をやったり、二人一組で相手を手のひらで自在に操るように動きながら徐々に集団をつくり、最後はグループに分かれて5分間での創作も行なわれ、ステージ上で発表しあうことができた。最後まで集団に入ることができない児童がいたが、必ず誰かが声をかけ輪に誘い入れようとしていたのが印象的だった。



公演

『田畑真希ダンス公演「メルヘン」』



今回の事業を始めるにあたって、ワークショップの参加者による作品づくりを行ない発表するかどうかをギリギリまで悩んだ。最終的に決断して実施してみると、今度は本番直前まで出演者が定まらず（耳が痛くなったり、体調不良になったり、稽古に参加することが難しいことが続き）、本番当日まで全員が舞台上に上れるのかどうか？という状態になり、ヒヤヒヤした。その関係で、田畑さんは元よりほかのメンバーの方々にもスケジュールの微調整などのご負担を強いることになり、大変心苦しく思った。ワークショップ生の作品は、アウトリーチで体験したことにより急遽参加された方を含めて全部で8名であったが、皆さん堂々と踊っており、人数が少ない分、田畑さんも一人一人に丁寧に向き合ってくれただと感じた。

『メルヘン』はウッドベースを抱えて登場してくるデジさんの奏でる音とウクレレや鍵盤ハーモニカの生演奏が入った構成で、コンテンポラリーダンス自体を初めて観るお客さまにもとても楽しめる作品であり、当市の地域住民の方々には提供した作品としては非常にマッチしたもので、選んだことに間違いはなかったかと思う。程よい緊張感と弛緩の繰り返し、中間部分に王下さんからのメンバー紹介で会場の緊張感を緩めたあと、後半はこれでもかというほど激しく踊り続けるダンサーの姿に、来場者はただただ引き付けられ、舞台上を注視し最後まで一気に集中し続けさせてくれた。見事だ。

●来場者アンケートより（感想）

- ・飽きさせない内容でとてもすばらしかったです。振り付けも音楽も可愛らしくて好きです。
- ・ワークショップの方々、とても素晴らしい出来でした。感動しました。エネルギー！！こちらまで力が入ってきそうでした。今後もご活躍を！！
- ・第1部：予想していたよりもはるかに面白かったです。創造力をかきたてられるのか、幼い子でも楽しそうに食い入るように観ていました！
第2部：シリアスかと思うとコメディだったり・・・楽器も面白かったです。楽しい時間、ありがとうございました！お疲れ様です！
- ・大変感動しました。素晴らしい動き、汗がとびちることがしぶきのことの様でした。本当に楽しく素晴らしかったです。
- ・ワークショップ参加者の皆さん、楽しそうですごく見ていて楽しくなりました。ありがとう。お疲れ様でした！！そしてタバマの皆さん、ものすごい躍動感、ほとばしる汗、息づかい、大迫力でした。人の体ってこんなに動くのね、という感動と、人間は言葉で話すわりに言葉ではモノは伝えられない、ということを再実感しました。
- ・パワフルでユーモラス！とても面白かった。ワークショップの面々も、自分の持ち味を生かし、見応えのある内容でした。後半の皆さんは、本当に力強くスタミナがあり、面白い良いものを見させてもらいました。

●この事業への応募動機

毎年、市民参加型の音楽劇づくりを実施しているので、その参加者が体を動かして表現できるダンスパフォーマンスに触れてもらうことと、広く市民に本事業を知らせることにより様々なジャンルの表現活動に興味をもってもらいたいと思い応募しました。

●事業のねらいと企画のポイント

経験や体力のあるなしに関わらず、全ての人が行うことができるということを前提にワークショップを企画し、アウトリーチでは、高齢者には体力や年齢にかかわらず身体を動かすことで表現できることの楽しさを、子ども達や学生には、コミュニケーションづくりを体験してもらいたいと考えました。

●企画実施にあたり苦勞した点

ワークショップならびに公演の集客が、どちらも思うようになりませんでした。ワークショップは、コーディネーターの花光さんからもアドバイスがあったように、これから募集開始を予定している市民による音楽劇参加希望者のための参加強制のような働きかけが必要だったのか？自問自答しています。

アウトリーチ先は早々に決まっていたものの、事前のインリーチを実施する時間を組み立てるのが意外と難しく調整に手間取りました。受け入れはしてくれたものの、今後においても小学校・中学校へのアウトリーチの働きかけは一考の必要があると感じました。

●事業の成果

教育委員会の全面的支援をいただき、地元短大の先生と繋がりをもてたこと、また、受け入れをいただいた小学校の校長先生から、学校へのアウトリーチの働きかけについての現状を直接聞くことができ、今後も同様の事業を取り組む際の貴重な意見交換ができました。

●反省点、今後の課題など

初回（11月）の研修と翌年1月の2回目の研修に参加し、体力のなさと思いの単純さに後悔したり悩んだり、あれこれ考えながら『ダン活』に取り組みました。当初はワークショップ生の発表を考えていませんでしたが、アーティストやコーディネーターの方々から様々なアドバイスをいただき取り組むことになったため、実際のスケジュールがかなりタイトになってしまいました。ワークショップ生の発表は結果的にやってよかったと思う反面、逆算して考えると下見のスケジュールの組み立て方、インリーチからワークショップ、さらに公演へと繋ぎ広げるための行動やそれに伴う広報の仕方等は、もっと具体化して工夫する必要性がありました。そしてこれらのことを実施していく上では、全力で取り組んでいただけたアーティストの熱意と協力がなければ成り立たないということが下見の時点ではまるで想像ができませんでした。半端な気持ちでダン活に取り組んではいけない、けれども、コンテンポラリーダンスに触れてもらうためには、もっと気軽に？安直に？跳びつく、もしくは安易な発想で取り組むこともありではないか（もちろん、きちんとした考えの裏づけが必要ですが）、そうも感じました。「楽しくなければ仕事じゃない！」と常にホール事業の制作者としての想いをもち続けることが、事業を鮮明により深く実施していく上で重要であると実感しました。ダン活事業を実施したことは、今後どの事業を計画する上でも考え方の基礎になると痛感しましたので、実践するよう努力したいと思います。

●この地域のダン活の特徴



たきかわホールは、ユニークな経歴を持つ。昭和60年にSEIYUが10階建ての駅前ビルを建設、その際イベントスペースを施設内に併設したのが始まりだ。エアロビやジャズダンスの発表会に使われていたという。だが平成14年にSEIYUは撤退。その際市が譲り受け、ロールバックの200の客席を持つホールに改装し、管理運営団体（後の特定非営利活動法人空知文化工房）を作って事業に乗り出したのが始まりだ。現在商業地域が国道沿いの大型店舗に移りゆく中、ほとんどがシャッターを下ろした空きビル内に、たきかわホールは何とか踏ん張って、かつての人々の熱気を再生しようと頑張っている。長年、文化工房事務局長の長田さんを中心に、市民参加の音楽劇を実施してきた。これまでダンス公演の経験はないが、今回音楽劇の参加者の表現領域を拡げることを目的の一つとしてダン活に挑戦した。最初は田畑真希の『メルヘン』の上演のみを計画していたが、市民参加に長年の経験があるならばと、躊躇する長田さんの背中を我々が押して、市民参加作品との二本立てに決定した。彼女が躊躇したのは、数々の音楽劇やワークショップを経験してきたからこそ分かる難しさやジレンマを、誰よりも感じていたからだろう。しかしそれを乗り越え、もう一度新たな挑戦をしようと決意した覚悟に、私たちも全力を挙げて彼女をサポートし、公演を成功させようとの思いを強くした。

公演にはアウトリーチ先の一つとなった高齢者のための生涯学習事業、福寿大学の生徒さんが数多く来場し、客席はほぼ満席となった。市民参加作品に出演したのは、小学生の日菜ちゃん、玲音君と紗耶ちゃんの中学生コンビ、高校生の茜ちゃん、17歳花ちゃん、そして福寿大学からさくらちゃんの6人。中でも9歳にしてダンサーとしての将来を嘱望された日菜ちゃんや、繊細な姿態が美しい花ちゃんなど、思いがけない天性の才能に客席は驚き魅了された。稽古はたった3回だったが、指導する田畑さんの本気の情熱に触発され、子どもたちの中に眠っていた何かが開くような瞬間に出会うことができた。固い殻の中から孵化したように飛び立つ子どもたち。その過程は、長田さん始め教育委員会の土橋さんや小山さんなどそこに居合わせたスタッフ全員にとって、強い感動の体験だったと思う。「彼らのダンスの輝きを観客に伝えたい。」長田さんがダン活に応募して良かったと、さらに、市民参加に挑戦した甲斐があったと、その選択に確信を持ってくれたに違いない瞬間だった。

●課題とこれからに向けて

今回のダン活では、音楽劇の出演者のスキルアップという目的を掲げていたのだが、意に反して、出演者の中からワークショップに参加する者や舞台に立とうと手を挙げる者が出なかったのは残念だった。ダンスは演劇や音楽とは別といったジャンルのイメージに捕われ、身体で体験する楽しさを十分に伝えきれなかったのかも知れない。今回の公演がその一歩になれば良いと思う。学校へのアウトリーチは、忙しそうな学校になかなかうまくアプローチできないのが悩みだ。教育委員会との連携でどう効果的に進めて行けば良いのか、検討する余地がありそうだ。国道沿いに商業エリアが拡散してしまい、中心を持たなくなった町の様相。ホールを媒介に駅前商店街を再び活性化することはできるのだろうか。そのためには大学生や若い人をホールに呼び込む方策など、考えなければならない問題が見えてきた。地域とともにホールが抱えている課題は沢山ある。だが長田さんには、今回のダン活で成し得なかったことやこれからの課題がきちんと自覚されているように思う。何よりダン活支援に名乗りを上げ、難題を克服しようとする強い意志を持っていることが心強い。いい意味でも悪い意味でも、たきかわホールは長田さん個人の采配とがんばりによって支えられてきたように見受けられる。これまでの実績や人柄から、教育委員会や技術スタッフなど周りの人々の信頼を得て協力体制を構築してきた。だがこれからは、若い観客を惹きつけるためにも、若い人の発想を活かすことも必要だ。長田さんのガッツを次世代に伝授して、彼女の手となり足となって機動力を発揮する若いスタッフを育てて行って欲しい。孤軍奮闘から組織力で難局を乗り切って行けるよう、たきかわホールの将来を望んでいる。

パレット市民劇場 実施データ

実施団体	パレット市民劇場指定管理者(パレットグループ)
実施ホール	パレット市民劇場
実施期間	平成26年7月25日(金)、9月1日(月)～9月7日(日)
アーティスト等	アーティスト：赤丸急上昇 共演者：池内 文 テクニカルスタッフ等：長井雅浩 (映像)
コーディネーター	菊丸喜美子
サブコーディネーター	小倉由佳子
<p>■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)</p> <p>5月8日(木)18:30～20:00、ホール職員・アウトリーチ関係者・県内教育関係者、16名、パレット市民劇場</p> <p>■地域交流プログラム</p> <p>アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 7月25日(金)10:00～11:30、ポプラ保育園、くま組、45名、多目的スペース</p> <p>② 9月2日(火)13:30～15:00、那覇市立天久小学校、4年2組、35名、体育館</p> <p>③ 9月3日(水)8:50～10:20、那覇市立天久小学校、4年3組、34名、体育館</p> <p>④ 9月3日(水)10:30～12:00、那覇市立天久小学校、4年1組、34名、体育館</p> <p>公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 9月3日(水)19:00～21:00、中学生以上、無料、24名、パレット市民劇場</p>	
<p>公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)</p> <p>■ 『太陽と月』</p> <p>『ハイサイ!あなたとアカナーの物語』</p> <p>■ 9月6日(土)15:00開演(14:30開場)</p> <p>■ 赤丸急上昇(赤松美智代+丸山陽子)、池内文、下村唯、安田辰也</p> <p>■ 一般1,000円、高校生以下500円</p> <p>■ パレット市民劇場</p> <p>■ 150名</p>	
 	

スケジュール

沖縄県那覇市／パレット市民劇場

	下見①	
	5/8 (木)	5/9 (金)
9:00		公演打合せ
10:00		↓
11:00		↓
12:00		
13:00	沖縄着	ポプラ保育園 下見
14:00		チラシ写真撮影
15:00	天久小学校 下見	↓
16:00	事業打合せ	事業打合せ
17:00	↓	↓
18:00	インリーチ	沖縄発
19:00	↓	
20:00	交流会	
21:00		
22:00		

	下見②	
	7/24 (木)	7/25 (金)
		アウトリーチ①
		↓
		昼食交流
	沖縄着	事業打合せ
		コラボ作品 創作
	テクニカル 打合せ	↓
	↓	↓
	PV 撮影	沖縄発
	打合せ	

	実施期間						
	9/1 (月)	9/2 (火)	9/3 (水)	9/4 (木)	9/5 (金)	9/6 (土)	9/7 (日)
9:00			天久小学校 アウトリーチ		照明手直し		
10:00			↓		↓	準備	
11:00			↓	打合せ 手直し	↓	通し	
12:00			振り返り		稽古	↓	
13:00	沖縄着	天久小学校 アウトリーチ		赤丸作品 映像仕込み	リハーサル		帰途
14:00		↓	コラボ作品 テクリハ	↓		開場	
15:00	打合せ		↓	赤丸作品 テクリハ	↓	公演	
16:00	↓		↓	↓	↓		
17:00	コラボ作品 創作	コラボ作品 稽古	↓	↓	ゲネプロ	バラシ	
18:00	↓	↓		↓	↓		
19:00	↓	↓	公募 WS	コラボ作品 テクリハ	↓	打ち上げ	
20:00	↓	↓	↓	↓	稽古 手直し		
21:00	↓	↓		↓	↓		
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ

アウトリーチでは、ポブラ保育園（5歳児）と天久小学校（4年生全クラス）の児童を対象として実施した。感受性の豊かな年頃の子供達が「コンテンポラリーダンス」に触れることで、表現力の向上や、友達関係の修復といった身体を通じたコミュニケーションの一助となる効果があるのではないかと期待し、比較的年齢の低い園児や児童のいるアウトリーチ先を選定することにした。

【ポブラ保育園】当園では、音楽とともに身体を動かすといった「体験活動」と称したプログラムを日頃から行っており、ダンスのような自己表現活動に理解のある保育園であるということから、今回のアウトリーチ実施に至った。園児たちは開始早々盛り上がりを見せ、終始楽しそうに表現することに没頭しているようだった。保育園関係者の方々からは「園児たちの表現力の引き出し方が素晴らしい。あらためて子供達の可能性を感じることができた。」等、非常に好評な意見を頂いた。主催者側としても、沖縄の子供達の豊かな想像力に驚かされるアウトリーチであった。

【天久小学校】平成24年度に開校したばかりの新しい小学校で課外活動にも積極的に取り組んでおり、特に4年生の担任の先生方がダン活に興味を示してくれた為、4年生の全クラスを対象とすることとした。ニックネームでの赤丸急上昇の自己紹介から始まり、児童達ともニックネームで呼び合うことで、児童達はすぐに打ち解けた様子だった。ペンを使って身体を動かしたり、身体のなかの「三つのすきま」をみつけて動きやポーズを創っていくワークなど、クラスの雰囲気によって内容も変化していった。WS終了後、一人の男子児童が「思っきり楽しめたし、自分に自信が持てた。」と嬉しそうに話していたことが印象的だった。担任の先生からは「単純な動作でも表現になるのだと非常に勉強になった。ぜひ今後の授業の参考にしたい。」「恥ずかしがり屋の多いクラスだが、その子供達の表情がとても生き活きしていた。また、男子と女子の仲が良くなっていた。」「感情が豊かでない子、表情が乏しい子の笑顔が見れたことが嬉しかった。」「普段は少し支援の必要な子が、自ら進んで参加していることに驚いた。」とダンスWSの効果を実感していた。



ポブラ保育園



天久小学校



天久小学校



天久小学校

●公募型ワークショップ

「ダンス経験不問」ということで募集はしたが、特にダンス（ジャンルは問わず）に携わっている県内の方々に重点的に広報をした為、結果的にはダンス部所属の高校生、バレエや沖縄のエイサーをやっている方々などが集まった。参加者の多くが、普段から身体を動かすことや表現というものに慣れている人達なので、赤丸急上昇のお二人が参加者の高いポテンシャルをどんどん引き出していくことによって、一般対象のWSとは思えないレベルの高いものとなった。参加者からは「みんなの動きがまるで芸術作品のようで、自分もその芸術作品の一部になれた気がして、とても素敵な気持ちになれた。」「ダンスが嫌いになりかけていたけれど、今回のWSがただただ面白く、またダンスが大好きになった。」といった感想があり、WS終了後も参加者たちは「興奮冷めやらず」といった感じであった。



関係者向けワークショップ（インリーチ）

ホール職員やアウトリーチ先候補の担当者、県内の教育関係者などが参加した。参加したホール職員の多くは、普段は裏方に徹していることもあり「人前で踊る」ということにかかなりの抵抗感を示していたが、WSが始まると赤丸急上昇のお二人の自然なリードによって、皆とても楽しんで身体を動かしており、普段見られないような笑顔がこぼれていたのが非常に印象的だった。このWSにより、アウトリーチ先関係者とホール職員との良好な関係を築くことができ、また主催するホール職員同士の関係も深めることができた。ダン活を進めていく上での、とても良いスタートがされたように思う。



地域交流プログラム内容

7月25日（金） ポプラ保育園くま組

●お誕生日会へ飛び入り参加！

アウトリーチ当日は、当園で毎月開催されているお誕生日会と重なっていた為、赤丸急上昇のパフォーマンスをそのプログラムに組み込むこととして、WSを受けない園児も含めた約180名の子供達がパフォーマンスを鑑賞した。

●くま組さんワークショップ

お誕生日会でのパフォーマンス鑑賞後、くま組の児童達は「興奮冷めやらず」といった状態でWSへ突入した。実際にはないボールをイメージして空に飛ばしてみたり、見えない泡を想像して捕まえてみたり、子供達の想像力が最大限に引き出されるWSとなった。WSが進むにつれて園児たちは赤丸急上昇の二人にリードされて動くだけではなく、いつの間にか自分達のイメージで動き出しており、子供達の想像力の豊かさに圧倒された。

●テレビ局からインタビュー

マスコミ取材をNHKと民放3局、新聞社1社から受けた。園児の数名は、赤丸急上昇のパフォーマンスやWSについてのインタビューを受け、子供らしい素直な感想を述べていた。その模様は当日の昼・夕方・夜のローカルニュースで放送された。

●昼食交流会（振り返り）

WS終了後は、園長先生とそのご家族のご厚意で、昼食を兼ねた交流会を開いて頂いた。保育園関係者の方々からは「子供達に豊かな創造力が元々あったとしても、それを引き出してあげる機会はなかなかないので、とても良い機会になったと思う。」といった好評な感想を沢山いただいた。

●公演時の写真の展示

今回のアウトリーチや公募WSの際に撮影した写真を、ダンス公演に来場してくれたお客様にも「ダン活那覇市」の成果を知ってもらう為に、公演の際にロビーで写真の展示を行なった。公演を観に来たポプラ保育園の皆さんも、嬉しそうにご覧になっていた。



公演

『うりひゃー！でーじなとん！赤丸急上昇来るってよー！』



「芸能の島おきなわ」と呼ばれるほどに、琉球舞踊やエイサーなど独自の踊りの文化が盛んな沖縄においてダン活事業を実施するならば、ただ単にコンテンポラリーダンスの公演をするのではなく、何等かの形で「沖縄」の要素を加味したものを上演したいというコンセプトが、ダン活応募当初から担当者の中にあった。しかし、地元のアーティストとの創作や共演は、限られた事業期間内では難しいのではないか？という不安はあったが、赤丸急上昇さんをはじめ、地域創造の担当者やコーディネーターの方々に企画の意図をご理解頂き、また皆さんからのアドバイスにも助けられ、沖縄出身の演出家である安田辰也さんとのコラボ作品の創作・上演にチャレンジするという運びとなった。

広報では、県内関係機関へのチラシの配布、地元新聞への記事掲載依頼の他、劇場 HP や facebook を活用して、下見の際に撮影した公演の PV（映像の長井さんが作成）を流すといったインターネットでの情報発信も行なった。広報・宣伝の手法としていまだ改善の余地はあると思うが、これらの取り組みにより、目標を上回る 150 名という集客数を達成することができた。

公演は、第一部に赤丸急上昇さんのオリジナル『太陽と月』（新バージョン）、そして第二部に沖縄の説話をモチーフにしたコラボ作品の上演という二部構成とした。ホール職員が一丸となって公演に臨んだ結果、二作品ともに沖縄の観客を魅了する内容になったのではないかと思う。最後のカーテンコールでは、沖縄独特のカチャーシー（演者が歌三線と手踊りによって観客を巻き込んでいく）演出で、出演者と観客が一体となって盛り上がり、幕を閉じた。

●来場者アンケートより（感想）

- ・舞台と客との垣根のないステージ。「舞台ってこんなにおもしろい！！」って思えた。
- ・りんごを食べる！衝撃的でした。
- ・赤丸さんの表現力と、見た事ない世界観…。全てが色々考えさせられ、私の心に残ります。
- ・衝撃的なことが沢山あって、夢を見ているようでした。
- ・最後のカチャーシーとても良かった。みんなで一つになれて感動。
- ・（コンテンポラリーダンスを）初めて鑑賞しましたが、不思議な空間でとても癒されました。
- ・これまで観た事のないリンゴの演出に驚きました。リンゴを取り合う醜い姿に涙が出ました。
- ・私も踊りたくなりました。
- ・新しい安田さんも観られて感動！！
- ・夢中になって観ていたら、疲れがふっとびました。
- ・お客さんが少ないのが残念。もっとよい宣伝の仕方があったのでは？
- ・コンテンポラリーダンスと沖縄の三線やアカナーの話が一緒に見られて嬉しかったです。

●この事業への応募動機

沖縄という地域は、琉球舞踊やエイサーといった「踊り」の文化がもともと盛んではあるが、「コンテンポラリーダンス」というジャンルに触れる機会はまだまだ少ない。ダン活を実施することで、地域住民や芸能に携わる人々に新しいジャンルに触れてもらう機会を提供し、今後の沖縄の文化の発展や新しい可能性を拓ける絶好の機会となると考えた。また、これまで当劇場では、自主企画公演やアウトリーチ等の実施の経験がなく、自主事業を企画・制作・運営するノウハウがなかった為、ダン活を通してそのスキルを効率的に学べるのではないかと考え、応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

アウトリーチの実施を通じたホールと教育現場との新たな関係性の構築や、「コンテンポラリーダンス」の刺激による沖縄の芸術・文化の新たな可能性の拓がり、またそれに携わる人達の意識や技術の向上など、将来的に沖縄の芸術・文化の発展に貢献することを目的とした。

企画のポイントとしては、公演タイトルに沖縄の方言（「うりひゃー」「でーじなとん」等）を使用、また、演目の一つに「沖縄」を絡めた作品を組み込むといった、地元の人達の興味を引く内容にすることを心掛けた。

●企画実施にあたり苦労した点

やはりなんといっても公演の集客が一番苦労した。「コンテンポラリーダンス」の公演なのである程度は想定していたが、予想以上に売れ行きが悪く、アーティストが現地入りしてからもあまり状況は変わらなかった。その打開策として、チケットの関係者割引や公募WS参加者割引を設定してはどうか？とコーディネーターの菊丸さんから提案があり、公演直前の数日でなんとか100名程度の集客を見込めるところまでもっていくことはできた。

また、アウトリーチ先の小学校とのやり取りにおいても難航することが度々あり、学校という特殊な環境との連絡・調整はなかなか難しいということを実感した。

●事業の成果

ダン活事業を終えてみて、当初から掲げていた「地域との新たな関係性の構築」「沖縄を絡めたコンテンポラリーダンスの上演」といった目標は、おおそ達成できたのではないかと感じている。保育園や小学校でのアウトリーチといった地域交流プログラムを実施したことや、コンテンポラリーダンスという沖縄県内ではまだまだ馴染みのない新しいジャンルの公演にチャレンジしたことによって、「パレット市民劇場が何やら色々やっているらしい」と地域住民や県内の舞台関係者に対してホールとしてのアピールができた。

また、今回のダン活のプロセスにおいて、一つのを皆で協力して作り上げていくなかで、ホール職員同士の連帯感がどんどん強まっていき、ダン活が終わる頃にはホール内の人間関係が以前より良好になっていたことが、何よりの収穫だったのではないと思う。

広報・宣伝においては、マスコミ等のメディアの活用や、公演のPVを作成してfacebookに載せるといった当劇場では初めての試みをしたことで、事業の周知にそれなりの効果が上げられたと感じている。

●反省点、今後の課題など

公演の際の受付業務や上演中の客席への誘導など、公演当日の業務に配慮が足りなかったことが反省点として挙げられる。また、集客面では目標数は達成したが、会場が約400席あるホールではやはり空席が目立ってしまったことが残念だった。広報・宣伝の手法等も含めて、今後の自主事業では今回の反省点を改善していけるよう心掛けたい。

●この地域のダン活の特徴

沖縄には、古来より脈々と受け継がれてきた独自の伝統芸能がある。

「琉球舞踊」「琉球古典音楽」「琉球民謡」「沖縄芝居」など幅広いジャンルで歴史を経て現代に受け継がれ、沖縄の全域に根をおろしている。

ダン活では、これらの確固とした地盤に支えられた伝統芸能の上に、コンテンポラリーダンスという新しいジャンルのダンスを融合した作品を上演したいとの強い考えが担当者にあった。この考えこそ「沖縄チャンプルー文化」そのものであり、いかにして定型を受け入れて新しいジャンルに風を呼び込むかという柔軟な創造性が試されることになった。

そのために沖縄で活動しているアーティストとダン活アーティストとの出会いが生まれ、作品創作が始まった。

地域の伝統文化・芸能は、社会的・歴史的背景、文化的な意味合い、古より伝わる独特の慣習などを礎に長き時間の流れの中で伝承されてきている所以から、表面上だけを捉えても真の理解からはかけ離れてしまう恐れがある。

コラボレーション作品を創作するにあたって、お互いの考え、作品について、とりわけ沖縄の特徴などについて回を重ねて話し合い、できる限りクリエーションの時間に当てた。この作業には、劇場のテクニカルスタッフも付き合い、事業担当者をはじめ、関わる人々皆の多大な協力が結集した。

その地域の文化を内から見ることで外から見ることで感慨に違いがあるだろうし、個人によっても異なるであろうが、コラボ企画と赤丸さんのレパートリーの2本立てを上演することによって、沖縄的要素を取り入れた作品とコンテンポラリーダンスという両世界を提示し、観客に対して、親しみやすさと新しさに触れていただくことは達成できたと思う。そして、フィナーレに観客も舞台に上がって、三線の演奏にのって踊り出した光景は、これぞ沖縄的楽しみ方という感じで賑わった。

アウトリーチ先では幼・保育園の校長先生はじめ皆さんがあたたかく迎えてくださり、また、小学校の休み時間にエイサーを練習している生徒達を眺めるにつけ、ほのぼのとした気分でワークショップが開催できたと思う。

パレット市民劇場として自主事業を手がけるのは初めてということではあったが、事業全体の進行において、主・副担当両者の準備は完璧であった。

気配り、心遣いなど周囲が気持ちよく仕事ができる環境づくりが配慮され、また、館長の広い視野に立った許容がスタッフを育てているのだと感心した。

チラシに掲載する写真を1回目の下見で撮影するために、「ちゅらさん」で有名な名所、首里やガジュマルのある公園などを回ったり、キャッチコピーに沖縄方言を打ち出したり、PVを作成してFacebookにアップするなど、新しいアイデアにも挑戦した。

また、アウトリーチやワークショップの記録を劇場内に展示して、来場者に見ていただくという工夫も良かった。

●課題とこれからに向けて

昨今、劇場の年間文化事業予算、スタッフ数などの削減といった厳しい条件は少なくない、むしろさらに厳しい傾向にあると言っても過言ではなく、パレット市民劇場もその例に漏れない。

実際、常駐スタッフが2人だけということで、今回も公演チケットの販促のために物理的な時間をさくのは、現実的に難しかった。

それでも、抜群に良い立地条件、今回の事業を通して知りあった地元の文化・芸術活動家、文化団体、アウトリーチ先などとのネットワーク、自主事業のノウハウを生かして、今後も新たな試みに次々とチャレンジしていただきたい。

ひたちなか市文化会館 実施データ

実施団体	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
実施ホール	ひたちなか市文化会館
実施期間	平成 26 年 9 月 23 日(火)～9 月 29 日(月)
アーティスト等	アーティスト：赤丸急上昇 共演者：池内文 テクニカルスタッフ等：長井雅浩（映像）
コーディネーター	志賀玲子

■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)

4 月 25 日 (金) 18:00～19:30、アウトリーチ先関係者・ホールスタッフ他、13 名、ひたちなか市文化会館大ホール

■地域交流プログラム

アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)

- ① 9 月 24 日 (水) 8:45～10:20、ひたちなか市立勝倉小学校、5 年 2 組、32 名、体育館
- ② 9 月 24 日 (水) 10:45～12:20、ひたちなか市立勝倉小学校、5 年 1 組、32 名、体育館
- ③ 9 月 25 日 (木) 10:40～12:15、ひたちなか市立堀口小学校、4 年 1 組、23 名、体育館
- ④ 9 月 25 日 (木) 13:50～15:25、ひたちなか市立堀口小学校、4 年 2 組、21 名、体育館
- ⑤ 9 月 26 日 (金) 13:30～14:30、ひたちなか市総合福祉センター、成人利用者、介助含め 70 名、3F ホール

公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 9 月 23 日 (火) 14:30～16:30、3 歳から小学生までのこどもと大人のペア、ペアー組 300 円、20 組(40 名)、ひたちなか市文化会館大ホール

公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『ウェルカムダンス』
- 『One Day』(ワークショップ参加者作品)
- 『太陽と月』
- 9 月 28 日 (日) 14:00 開演 (13:30 開場)
- 赤丸急上昇 (赤松美智代+丸山陽子)、池内文、佐野和幸、ワークショップ参加者 14 名
- 一般 1,000 円、小学生～高校生 500 円
- ひたちなか市文化会館 大ホール
- 103 名



スケジュール

	下見①	
	4/25 (金)	4/26 (土)
9:00		移動
10:00		ポスチラ用 撮影会
11:00		↓
12:00	ひたちなか市着	移動・昼食
13:00	昼食・打合せ	打合せ
14:00	↓	↓
15:00	福祉センター 下見	↓
16:00	勝倉小学校 下見	帰途
17:00	移動・準備	
18:00	インリーチ	
19:00	↓	
20:00	交流会	
21:00	↓	
22:00	↓	

	下見②	
	9/11 (木)	9/12 (金)
		打合せ
		↓
		NHK 水戸生出演
ひたちなか市着		移動・昼食
昼食・打合せ		水戸芸術館視察
↓		↓
↓		移動
堀口小学校 下見		帰途
移動・準備		
お試しWS		
↓		

	実施期間						
	9/23 (火)	9/24 (水)	9/25 (木)	9/26 (金)	9/27 (土)	9/28 (日)	9/29 (月)
9:00	舞台準備	勝倉小学校 アウトリーチ①	移 動	移 動	移 動	移 動	移 動
10:00	↓	↓		公演準備 (音響・照明等)	公演準備 (直し等)	ミーティング	ひたちなか市発
11:00	↓	勝倉小学校 アウトリーチ②	堀口小学校 アウトリーチ①	↓	↓	リハーサル	帰 途
12:00	ひたちなか市着	給食交流	給食交流	↓	↓	↓	
13:00	市内作品用撮影			市総合福祉センター アウトリーチ	舞台に立とう WS	公演準備	
14:00	こどもと大人ペア WS	公演準備 (音響・照明等)	堀口小学校 アウトリーチ②	↓	↓	公 演	
15:00	↓	↓	↓	公演準備 (舞台稽古等)	↓	↓	
16:00	↓	↓	公演準備 (映像関係等)	↓	↓	WS 懇親会 バラシ	
17:00	公演準備 (音響・照明等)	↓	↓	↓	↓	↓	
18:00	↓	懇親会	↓	↓	ゲネプロ	↓	
19:00	↓	↓	↓	↓	↓	打上げ	
20:00	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
21:00	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
22:00	↓	↓	ミーティング	ミーティング	ミーティング	↓	

地域交流プログラム

●アウトリーチ

アウトリーチ先について、小学校は前年度に演劇ネットワーク事業に取り組んだ際、同様のアウトリーチを継続したい意向があった。演ネットの演出家と、ダン活のアーティストでそれぞれアウトリーチの手法は異なるが、言葉ではない身体を使っての自己表現、コミュニケーションの楽しさ・大切さについて学ぶ点では共通性も感じられアウトリーチ先として選定した。福祉センターについては、以前におんかつの手法で訪問したことはあったが近年は関係が疎遠となっていた。ダンスは身体を動かすことでより大きな効果が期待でき、福祉センターとの新たな関係構築にもつながると考え選定に至った。

【小学校】勝倉小学校は、担任の先生がインリーチやお試しワークショップにも参加くださり、また2組の先生はワークショップ参加者作品で公演にも出演され、本事業について大いに理解・協力をいただいた。堀口小学校は、校長会の説明の後、最初に手を挙げてくれた。アウトリーチの前から児童もとても楽しみにしてくれて、みんな真剣に集中して取り組んでいたのが印象に残った。両校ともワークショップの内容は概ね同様で、いくつかの動作を曲に合わせて行ったり、2人組で相手の身体の間隙に自分の身体を入れる“3つの隙間”などを行った。また、ワークショップ後の給食交流も、アーティストを囲んで大変盛り上がった。

【ひたちなか市総合福祉センター】心身に障害を持つ方の通所施設で、当初は就学前の児童と18歳以上の通所者を一緒に実施したいと考えていたが、現地を見後にアーティストとコーディネーターからアドバイスを受け、18歳以上の方のみを対象として行うこととなった。当日は想定以上の数の方に参加いただき、普段あまり身体を動かしていないという方々が、最後は全員でつながってホール中を楽しく“ダンス”しながら行進した。



勝倉小学校



勝倉小学校



堀口小学校



総合福祉センター

●公募型ワークショップ①

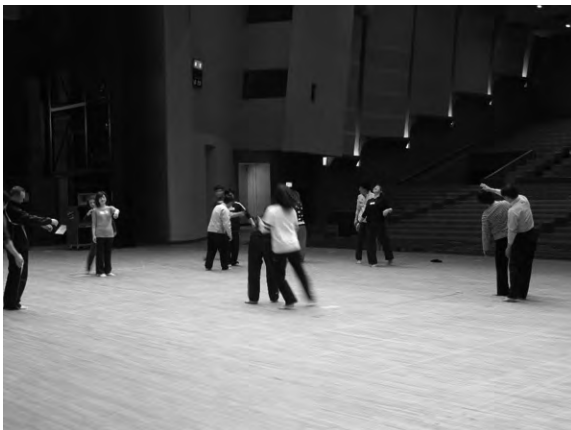
公募型ワークショップとしては、当館と良好な関係にあるおやこ劇場関係者を主なターゲットと考え、「こどもと大人ペアでワークショップ」を行ったが、先方との日程が合わず関係者は3組だけで、かえって公募型らしくなった。こどもが親にくっつき大人もしっかり楽しんでいて微笑ましかった。参加者の中にジャズダンスの先生がいらした。先生には今回の事業を通していろいろなお願いをしたところ、逆に会館の運営などについてご批判をいただき期待していた協力を得られなかった。そんな先生がご参加くださり「とても楽しかった。良い企画ですね。」と言っただけで大変うれしかった。この他、第2回下見時に「お試しワークショップ」を、事業実施期間で「作品創りワークショップ」を実施した。



関係者向けワークショップ（インリーチ）

4月にインリーチを行うことになったのでやや準備不足の感があったが、所用のないホールスタッフには全員参加してもらい、アウトリーチ先の小学校と福祉施設、市所管課にはそれぞれ文章を作成し参加を促した。また、コンテンポラリーダンスやアーティストについて、口で説明するよりもこのワークショップに参加いただければきっと理解いただけると話し、福祉施設以外の担当者は概ね参加いただけた。

参加者の感想としては、もっとリズムで踊らされるようなことを想像していたようだが、例えば二人組で手をつなぎ一人が目をつぶって舞台上を誘導されるなど、身体を使ったコンタクトやコミュニケーションがダンスになることを体験し、新しい発見となったようであった。終了後には円になって感想などを話し合った。



地域交流プログラム内容

9月26日(金)ひたちなか市総合福祉センター利用者

ひたちなか市総合福祉センターは、市社会福祉協議会が、心身障害者が社会に適用できるような訓練や作業、身体障害者のリハビリや交流などを行っている施設。以前におんかつの手法で訪問したことはあったが、ダンスは皆で一緒になって身体を動かせ、より大きな効果が期待できたので実施したいと考えた。

●ニックネーム付け

アーティストの手法で、どのワークショップでも行われたものだが、最初にアーティスト自ら白ガムテープに個人のニックネームを書いて胸に貼っていった。中には戸惑う方もいたが、多くの方は普段の呼び名と違うニックネームに互いに嬉しそうにしていた。

●デモンストレーション

小さな舞台を使い、アーティストの得意なデモンストレーションで幕を開けた。最初は訳が解からないといった感じの方もいたが、徐々に興味を示していった。中にはお面の被り物を怖がる方もいた。

●ゴミ袋に丸めた新聞紙を詰め込んで

ゴミ袋に丸めた新聞紙を詰め込んだものを皆で作って、それを頭に乗せたり、二人組で背中にはさみ音楽に合わせてゆっくり動いたりした。二人で協力協同して身体を動かすことでダンスの原型ともとれる動きが見られた。

●そして最後は皆で“ダンス”しながら…

当初の想定以上の方々に参加いただき、会場のホールは満杯であった。介助の方も数名いらっしやったが、アーティストの指示が伝わりきらない場面もあり、担当者はもとより、コーディネーターから当館館長まで関係者全員でサポートし、一体となってワークショップを楽しんだ。最後は車椅子の方も一緒に皆でつながって、音楽に合わせてホール中を“ダンス”しながら行進した。

●フィードバック(福祉センター職員と)

普段は単純作業が多く身体を動かすことが少ない就労している方たちは、身体を動かすことでリフレッシュできたとのことだった。身体が温まるまでに時間がかかり最初は戸惑っていても直に活発になっていった。福祉センター職員からは、この1回だけのワークショップでは記憶に残りにくいかもしれないが、一緒になって身体を動かして楽しんだという事実が大切、と感想をいただいた。



公演

『赤丸急上昇コンテンポラリーダンス公演「赤丸と夢の舞台へひとつ飛び！～表も裏も飛び越えて～」』



第1回目の現地地下見時に大ホールの客席を見て、アーティストがこの客席を活用した構想を練ってくれた。公演のサブタイトルに「～表も裏も飛び越えて～」と付け、大ホールの舞台と客席の構造を存分に生かした公演となった。最初にロビーでのウェルカムダンスで観客をつかみ、アーティストが観客を先導して本来の客席を通り舞台上の仮設客席へ案内した。舞台上の客席は舞台奥に設置され、舞台後方から舞台全体と本来の客席を望むものとなった。第1部のワークショップ参加者作品は、舞台上舞台と本来の客席をダンスエリアにするというアイデア溢れる演出であった。そして、休憩中に観客は本来の客席に移動し舞台上の客席を撤去した。第2部はアーティストの作品を通常の客席から鑑賞した。正に舞台と客席が入れ替わり、表も裏も飛び越えるような感覚で、観客は普段は見ることのできない劇場空間を堪能することとなった。

ワークショップ参加者作品について一言述べたい。東日本大震災で会場となった大ホールは客席天井が崩壊し廃墟となった。それに加え原子力関連施設が近隣に点在する当市の状況を省みたアーティストの強い思いが込められた作品であった。当初アーティストが用意した曲に対しコーディネーターからワークショップ参加者との議論が不十分との指摘を受け、公演当日の午前中に参加者・関係者全員でディスカッションし曲を決めた。少ない時間の中ではあったが、小中学生も真剣に自分の意見を語り、大変濃密で有意義な時間を共有できた。

●来場者アンケートより（感想）

- ・素敵でした！息子がWS作品に参加させていただきました。表現することが大好きなのでこのような場を設けていただき感謝です。第1部終わって涙が出ました。第2部何回かの転生が浄化された感じです。
- ・初めてのジャンルでドキドキした。難しくて分からないこともあったが最後は何だか暖かい気持ちになれた。
- ・とても独創的でダイナミックですごくおもしろかった。また観たい。食べ物を粗末に扱うのはどうかなー？
- ・強烈なインパクトを受けました。涙が自然に流れました。どうしてなのか…心が動かされました。
- ・第1部で舞台上から客席を見られる演出がおもしろかった。ワークショップの方たちの作品も素敵でしたね。
- ・今とても必要な愛や優しさ、笑いをとても感じました。キラキラした時間をありがとう！
- ・舞台の上から客席でのパフォーマンスを観るなんてとても感動した。イマジンの詩が心にしみました。
- ・いろいろな体の動かし方があるのだなーと思いました！！（10代女子）
- ・今までにない、ホール全体が舞台になり新鮮でした。お二人の親しみ易い感じもすごく良かったです。
- ・笑いあり狂気ありのダンスがとてもおもしろかった。第1部のダンスは一般の方がやっていたと知り驚いた。
- ・非常に芸術的な催し物でした。会場との一体感が良かったと思う。（アンケート60部回収）

●この事業への応募動機

当館では「おんかつ」の手法によるアウトリーチやホールコンサートを継続して行っており、公共ホールが舞台芸術を上演する場としてだけでなく、より深く社会と関わっていく役割を重要と捉え、地域との関わりを意識した事業展開により、芸術との接点をより多く市民に提供していきたいと考えており、コンテンポラリーダンスという当地としては新しいジャンルでの様々な地域交流プログラムやホール公演を行う中で、地域住民の芸術に対する潜在意識の覚醒を促し、その可能性を探り開拓につなげたいと考えた。また、ホールが魅力溢れるアーティストと地域住民との接点を設けることで、地域の様々な分野の個人・団体とのネットワーク作りに取り組み、その中核としてホールが位置付けられるよう努められればと考え応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

コンテンポラリーダンスを言葉で説明しても広く理解を得ることは難しい。それ自体にとらわれ過ぎずアーティストの魅力を存分に紹介し普及活動につなげたいと考えた。当館にとってコンテンポラリーダンスは未知の分野であり、地域に上手く受け入れられるためにも『元気で楽しく・明るく笑いのある・観て親しみの持てる』といった点を当館ダン活事業のコンセプトとしてアーティストを選定し、綿密な打ち合わせのもと、アーティストの魅力・個性が全開に弾けるような事業にしたいと考えた。

●企画実施にあたり苦労した点

先に「コンテンポラリーダンスにとらわれ過ぎず…」と記したが、実際にアウトリーチ先への説明、ワークショップ参加者の募集、公演の集客など全ての場面において、コンテンポラリーダンスそのものの説明は避けて通れず、また、アーティストの紹介、アウトリーチやワークショップ、公演の内容、そしてこの事業から何が得られるのか、などについて求められ上手く伝えきれないことが多かった。特にコンテンポラリーダンスの説明は、やはりそうした土壌の少ない地域では思っていた以上に難しいものであった。

チラシはインパクトがあり、手に取って読んでもらえれば内容が分かるものを作ったつもりであったが、「一目見て何のチラシか分からない。」「3つのワークショップのつながりがよく分からない。」など、チラシだけでは理解しただけでないことが多く、ターゲットにした人々や団体、グループなどにはそれぞれ別々の案内状、依頼文などを何種類も書いてチラシに添付するなどし、また何度も訪問して理解を求めていった。

●事業の成果

この事業はいかに多くの人々とつながり巻き込んでいけるかにかかっており、そうした点からはまだまだ不十分ではあったが、これまであまり接点のなかった人々や団体と関わりを持つことができた。特に参加者を集めるのに苦労したワークショップで、参加いただいた方々の評判が大変良かったことは今後の事業展開につながるものと感じられた。本事業は担当者一人で実施することは到底無理で、ホールスタッフはじめ多くの方々の協力を得られたことは大変ありがたかった。また、この事業を通して制作全般についても大いに学ぶことができた。チラシ作りから、スタッフ全体の取りまとめ、ワークショップ参加者の募集、公演全般及び集客と、いろいろ助言や激励をいただきながら多くのことを学び体験できたことが個人的成果である。

●反省点、今後の課題など

自分の力量以上の事業を抱えてしまい、ワークショップ参加者の募集や公演の集客、コンテンポラリーダンスやアーティストの紹介といった、基本であり根本的な活動のある程度のところまで妥協してしまった。もっといろいろなことができたのではないかと、より多くの人を巻き込むことができたのではないかと悔いが残る。そして、アーティストの魅力を紹介したいと言っておきながら、結局のところ、自分自身がそれを十分に理解していなかったのではないかと深く反省している。ワークショップ参加者作品に込められたアーティストの想いを公演前日の夜に伺って大変感銘を受けた。現地下見が2回だけという制約はあるが、アーティストとの意見交換が足りなかったと感じた。DVDで作品は観られるが、生の舞台に勝るものはなく、選択したアーティストが出演した前年度実施団体の公演を観に行かなかったことも非常に悔やまれる。

●この地域のダン活の特徴

ひたちなかダン活は、継続している他ジャンルの先行事例（「おんかつ」の手法を用いての音楽アウトリーチ、「自己発見表現講座～演劇ワークショップ」など）の成果の上に、ダンスという新しいジャンルの取り組みを積み重ねることができたこと、そして、たった一人の事業担当者を、事業・技術・管理などの担当や、先輩後輩を越えて会館スタッフ全員で支え協力したチームワークが、大きな特徴だったと思います。

初めてのダンス事業にとまどいがあったとずっとおっしゃっていましたが、既に音楽アウトリーチで市内の学校と関係が成立していたことは、アウトリーチ実施の大きな力となりました。また、ワークショップの参加者・公演の集客に対して大きな不安を抱えていらしたとのことですが、結果的には演劇ワークショップ関係の方々、地域劇団の方々、ダンス関係の方々を中心に、大人から子どもまで、想定した定員よりもたくさんの方が参加してくださいました。地元で舞台活動をされている方を中心に、1コマだけのワークショップで舞台に立つという大胆な企画も、参加者の想像以上の創造的クオリティで大成功だったと思います。これらのことが実現できたのは、会館の積み重ねてきた実績と実力と評価して良いと思います。ダンスをやっている方々に新しいダンスを紹介する、ということだけでなく、演劇や音楽など他ジャンルの表現活動をしている方々、まったく自分とは縁がないと思っていた方々に、新しい表現が届くことは大きな成果だと思いました。

福祉センターでの知的・身体障がいをもつ方々を対象にしたアウトリーチは、会館としてはまったく初めての取り組みでしたが、こちらも大きな手応えを感じられたのではないのでしょうか。会館に来にくい方々、より多様な方々を対象に芸術文化の魅力を広げていってほしいと思います。

●課題とこれからに向けて

事業担当者が一人という状況の中、他の事業と平行しながら、初めてのジャンルへの取り組み、しかもダン活をやりとげることがいかに大変であったか、それは想像に難くありません。担当者の報告を読んで、アーティストとの事前コミュニケーション、下見時の意見交換では、私が思っている以上の、とまどいや遠慮、ためらいがあったのですね。そしてそんなことから、アウトリーチ先の先生と担当者とアーティストとの間で、その内容についてちょっとした齟齬が生まれたりもしました。でも1週間の最後の打上げ、それは私が経験したダン活打上げ史上、屈指の大騒ぎかつ大感動の場でした。担当者も技術スタッフもアーティストも、みなそれぞれに極度の緊張の中で限界まで挑戦し、1週間を乗り越えた。その安堵感が異常な興奮、馬鹿騒ぎ、涙、歌と踊りとなって深夜まで続いたのでしょう。私はそこにいながら感動していました。

ひたちなかにダンスの種は、もう蒔かれました。ワークショップ参加者作品に参加してくれた演劇の人たちとダンスの相性も、とても良かったのではないのでしょうか。打ち上げの感動の胸に、どうぞ少しずつでもダンス事業を続けてください。もう初めてじゃないのだから、遠慮せずなんでもアーティストと相談して、ひたちなかならではの楽しい時間を作ってください。

スケジュール

東京都中野区／なかのZERO

	下見①	
	6/13(金)	6/14(土)
9:00		ホール下見
10:00		↓
11:00		↓
12:00	ホール到着	↓
13:00	事業打合せ	
14:00	↓	打合せ
15:00	↓	↓
16:00	↓	↓
17:00		↓
18:00		交流会
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	8/26(火)	8/27(水)
	若宮小学校 下見	
	インリーチ	ホール到着
		学童クラブ下見
	広報打合せ	
		一般WS①
	WS打合せ	
	WS会場下見	事業打合せ
		↓
	交流会	
		一般WS②

	実施期間						
	9/29(月)	9/30(火)	10/1(水)	10/2(木)	10/3(金)	10/4(土)	10/5(日)
9:00		若宮小学校 アウトリーチ①			照明仕込み	テクニカル調整	
10:00		↓			↓	↓	
11:00		若宮小学校 アウトリーチ②					リハーサル
12:00		給食交流			↓	↓	↓
13:00	ホール到着	フィードバック	学童クラブ アウトリーチ③		テクニカル確認	WS参加者 リハーサル	
14:00	アウトリーチ 打合せ	公演打合せ	↓		↓		公演
15:00	↓	↓	フィードバック		↓		WS参加者 交流会
16:00	公演打合せ		音響仕込み		↓	ゲネプロ	バラシ
17:00	↓		↓			↓	
18:00			↓	舞台／音響 仕込み		↓	打ち上げ
19:00			創作WS①	創作WS②	創作WS③	↓	
20:00			↓	↓	↓	再調整	
21:00			撤収	衣裳確認			
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ

身体を使い自由な表現を生み出すダンス（コンテンポラリーダンス）を通じて、子どもたちの健全育成や才能の育成に貢献する目的で、子どもたちが集まる教育機関等での実施を考えていた。その考えを踏まえて、中野区より推薦された若宮小学校となかのZERO近隣の桃園第二学童クラブでの実施に至った。

【若宮小学校】校長、教職員への事前挨拶の際にコンテンポラリーダンスのワークショップについて説明したが、コンテンポラリーダンスが身近ではないため、どういうことをするのか、イメージを持ってもらいにくかった。しかし、インリーチまでのやりとりや、実際にインリーチに参加してもらうことで、イメージをつかんでもらうことができた。若宮小学校でのアウトリーチは2クラスで行ったが、最初に実施した5年2組は素直な子どもが多く、積極的に挑戦してみようという意識が高いクラスだった。1組は、2組に比べて、さらに元気がよく、反応がよい子どもが多かった。終了後、給食交流で先生と子どもたちから積極的に感想などが発表されたが、楽しかったとの声が多く、とても刺激的な時間となったようだった。今回の経験は子どもたちにとって特別な時間になったと思う。先生より、子どもたち同士が身体を動かして触れ合い、協力し合う姿をみて、今後も取り入れていきたいという感想をもらった。

【桃園第二学童クラブ】当館のプラネタリウムを毎年利用している近隣の学童クラブより小学1年生から3年生までの希望者7名が来館してワークショップを行った。小学校での実施内容と違い、学童クラブの特徴を踏まえて、遊びやゲームといった要素を取り入れたため、子どもたちがダンサー達に心を開くまであまり時間を要さなかった。子どもたちの動きは活発で、最初はダンサー達の真似をして動いていたが、やがては積極的に独自の動きやリズムを取り始めた。自由奔放に動きまわる子どももいたが、身体を使ったトンネル遊び、ゴム遊びには集中してみんなで取り組んだ。今回参加した子どもたちからは来てよかった！楽しかった！と興奮しながら、ダンサーに感想を伝える場面もあった。先生からも来年も実施したいとの要望があった。



若宮小学校



若宮小学校



桃園第二学童クラブ



桃園第二学童クラブ

●公募型ワークショップ

気軽に参加できる高齢者向けの内容と夜からの参加が可能な学生や社会人対象の内容とに分けて実施。1回目のワークショップは、昼間に外出できる高齢者を対象にしているため、60歳以上からの参加条件とした。参加人数は3名と少なかったが、ダンサー達と密にコミュニケーションを取りながら、積極的に身体を動かしていた。初めてダンスをする参加者もいたが、アーティストの世界に徐々に引き込まれていく様子が伺えた。このような機会があればまた参加したいという声があり、新たな地域交流の可能性を見出すことができた。2回目のワークショップでは、対象を中学生以上としていたが、参加者の平均は30代の女性が多く、参加者は11名だった。参加者の多くがコンテンポラリーダンスに触れるのが初めてで、どのようなことをするのか想像がつかなかったようだが、実際、ワークショップを始めてみると、自然に参加者が好きなように動き、独自の表現をするようになっていった。日常ではあまり使わない動きをすることで、逆にリフレッシュできたという参加者の声もあった。ワークショップを終えて、参加者2名がもみじ山ダンサーズとして公演に出演する希望があった。実際に感じ、触れることでコンテンポラリーダンスの魅力を伝えることができ、担当者としてやりがいを感じた。



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチ先小学校の教職員を対象に、コンテンポラリーダンスを知ってもらい、体験してもらうことを目的に、アウトリーチで子どもたちと一緒にを行うプログラムを実施した。あわせて、なかのZEROのスタッフ数名も参加。言葉を使ったコミュニケーションではなく、体を動かして人と人が触れ合うことで、新たな自分を出し、そして相手の気持ちを知るといった、また違うコミュニケーションの効果を体感してもらったと思う。はじめの戸惑いから徐々にリズムに乗って、楽しい時間となっているのが伺えた。1か月後にアウトリーチで再度、小学校を訪れた際に、廊下には教職員が参加したインリーチの様子が貼り出されて、子どもたちにコンテンポラリーダンスの楽しさを紹介していたので、理解が深まっていると感じた。



地域交流プログラム内容

9月30日（火） 中野区立若宮小学校 5年1組

●デモンストレーション

学校側からの希望で体育館に集合した子どもたちの前で、アーティストの自己紹介を兼ねたダンスを披露。お辞儀をしたダンサーが急に静止し、突如、踊り始めることで子どもたちの興味関心を高めた。プロのダンサーの来校を事前に告知していたため、高い期待をもって当日を迎えたことが伺えた。ダンサー達と子どもたちの距離を縮めるために踊りの途中から子どもたちの手を引っ張って、踊りの空間に巻き込んでいった。

●おいかけっこ→0%から100%への変化を表す

ダンサーの一人をみんなで追いかける。途中でストップの掛け声とともに、全員静止し、また掛け声とともに追いかけっこが始まり、身体全体を動かす準備をする。その後立ち止まり、「手を伸ばす」、「団子の形になる」などを繰り返し、身体の緊張をほぐしていく。「身体を100%に広げる」、また「力を抜いて身体を萎ませながら0%の状態」をつくるなどを繰り返すことで、好きなように100%の自分、0%の自分を表現できるようになった。

●スローモーション→手と顔を合わせる

スローモーションで0%→100%までの身体の動きを表現。子どもたちそれぞれの動きの変化の過程が見られた。その後、2人1組になり、1人が手のひらを相手の顔の前に置き、距離を変えずに、相手の動きをリードする。女子と男子のペアでも相手を気遣いながら、活発に動きまわっていた。

●オリジナルダンス

6グループに分かれて、各自でダンスを考えて発表する。前半のワークショップの流れを踏襲したダンスもあれば、間近に控えた体育祭で踊るダンスを取り入れたグループや、または組体操をするグループもあり、みんな工夫をしながら短時間で創作ダンスを作り上げた。このワークショップを通じて、身体を自由に動かすことを楽しんでいる様子が伺えた。



公演

『カーニバル～老若男女集まって「今」を彩るもみじ山カーニバル!～』



本公演は、田畑真希が主宰するダンスカンパニー・タバマ企画を中心に、もみじ山ダンサーズとして集まった老若男女のダンサー13名と共に、古い風景と新しい風景が共存する中野の姿を田畑真希の新作公演として、発表した。当初は、2部構成で第1部はワークショップ参加者の作品、第2部は田畑真希の作品発表の予定だったが、なかのZEROで新作を発表する田畑真希の想いと、地域の方々と一緒に作り上げることで賑わいを生み出したいと考えていた私たちの想い、そして馬喰町バンドの生演奏で作品を練り広げることが決まったことで、今回の公演は田畑真希の構成・演出で、なかのZEROでしかできない公演を作ることにした。初めて出演者が顔を合わせた10/1（水）から10/5（日）本番までの短期間で作品を作り上げ、出演者は、プロ・アマ、老若男女関係なく、田畑真希が描く世界、空間に魅了され、全員が一つになりエネルギッシュな公演を披露した。観客には、今しか味わえない、衝撃、感動、驚きを十分に体感してもらえる公演になったと思う。

券売が伸び悩み、公演当日は台風の影響もあったが、107名にご来場いただいた。アンケートの結果からみて、満足していることが伺えた。また、公演終了後のテクニカルスタッフ、出演者の顔は、チラシのメインビジュアルのダンサー達の表情のように、元気で晴れやかな顔となっていた。

●来場者アンケートより（感想）

- ・音楽がよく、またダンスも非常に迫力があつた。もみじ山ダンサーズの背景やリハーサルの様子などを知りたかつた。(30代・男性)
- ・踊り、音楽、衣裳すべてかわいくて、観ていて楽しかつた。年齢差があつたことで逆に作品に動きがでて良い(40代・女性)
- ・もみじ山ダンサーズの方々、素晴らしかつたです！参加された方の動機は何だつたのか、お聞きしたいです。それぞれのシーンが心に響きました。ダンスって良いですね！(40代・女性)
- ・一般公募とは思えないレベルの運動量で惹きつけられました。(40代・女性)
- ・ハッピーな気持ちになりました。ミュージシャンたちのパフォーマンスも圧巻！(30代・女性)
- ・公募ワークショップに参加させて頂いて、今日の公演を見に来ました。ワークショップでは、このコンテンプラリーダンスがどう1つにまとまるのか想像つかなくかつたのですが、とても楽しく見させて頂きました。笑顔になれた時間だつたので、こういうのをもっとやって欲しいです。(30代・女性)
- ・よくわからないダンスだつたけど、楽しかつた！(10代・男性)

●この事業への応募動機

なかの ZERO では、日々、“地域の活性化と賑わいの創出”のための事業を展開している。ただし、自主事業における地域交流プログラムの実績は少ない。そのため、幅広い地域の方々が参加でき、楽しさを共感できるコンテンポラリーダンス事業を、今まで以上の地域住民との交流を増やすきっかけとし、新しい鑑賞者（子どもや学生などの若い世代）を発掘して育てていきたいと思い、この事業に応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

中野駅周辺では、大学のキャンパスや大手企業の本社があるなど、風景や生活環境、住民層が変化してきている。そのため、今後、地域の活力となる次世代の鑑賞者・事業参加者を育てるために、子どもや若者を取り込むためのネットワークを構築できる機会としてアウトリーチやワークショップを実施。

また、中野区の特徴であるサブカルチャーの街、都心から近い街を踏まえて、「芸術性」という観点ではなく、健康や教育、自己啓発（新しい自分を発見）の観点から事業展開を考えていたため、人と人の交流で生まれるダンス＝コミュニティダンスを重視した。

●企画実施にあたり苦労した点

コンテンポラリーダンスへの興味関心が低い中で、アウトリーチ先として決定した小学校の校長・副教頭を始めとした教職員の理解を得るのに時間が掛かった。インリーチを行うまでに、何度か連絡を取り合ったことやインリーチで実際にコンテンポラリーダンスを体感してもらうことで、理解が深まったと思える。

また、広報について、通常、ホールで行っている広報展開だけでなく、コーディネーターの意見を参考に東京都内の舞踊・ダンス関連、および近隣の教育機関への宣伝を行ったが、集客に結びつかなかった。

アーティストの新作公演を披露する場として、結果を出せなかったのが残念だった。

●事業の成果

今回、中野近郊に住んでいる田畑真希氏と一緒に事業を実施できたことが、何よりも担当者として嬉しかった。田畑真希氏を希望した理由は、子どもだけでなく、幅広い年齢層を対象に、ダンスの楽しさや面白さを伝える空間を作ることができ、何よりも人に好かれる人物だからだ。この事業でアウトリーチ、ワークショップ、公演で関わった人たちは、アーティストの魅力に惹きこまれ、ファンになったと思う。担当者として、地域のことを考え、アーティストをどう生かし、どのように人々を巻き込んでいくかで悩むことが多く、不安だらけだった。しかし、公募ワークショップやアウトリーチ参加者の姿、特にもみじ山ダンサーズが公演を迎えるまでの姿をみて、個々の表情や動きで変化・成長していることを目の当たりにし、大きな喜びと楽しさを参加者にもたらすことができた実感した。今回、コンテンポラリーダンスという新しい領域で、ホールとしての可能性を感じる事業となり、とても経験になった。今後の「もみじ山ダンサーズ」の発展を見据えて、地域の賑わいを創出するための基盤作りの第一歩を踏み出すことができた。

●反省点、今後の課題など

舞台のセッティングや構造を理解した上で行う業務やホールの外に出て行う文化事業に携わることがなかったため、制作面や外とのネットワーク作りにおいて非常に良い経験になった。今回、実施したアウトリーチやワークショップなどを、一過性に終わらせず、継続できるように、小学校などの教育機関や高齢者、学生ネットワークへの参加など、実施するための環境を整えていきたい。

●この地域のダン活の特徴

東京でのダン活開催は、以前なかなか難しい経験をしたので、個人的には再挑戦の気持ちでした。難しいことは、東京のアーティストが東京で実施する場合に、自分の住んでいる地域のため通常のワークショップや公演と、ダン活での活動との違いをつくるのが難しく、どこに向かってダン活を行っているのかが見えにくくなってしまいう点であった。そのため今回の“なかのZERO”での実施は、地元アーティストだからこそ、もっとダン活を有意義にすることができるのではないだろうか、ということをはそかにコーディネーターとしての目標とした。アーティストは田畑真希さん。なかのZEROのある中野駅から2駅離れただけの阿佐ヶ谷に住んでいる。ある意味、東京というよりももっとも地元である。完全に地元のホールでダン活のシステムを使って、地域のため、ホールためいかに寄与できるのか。

最後の公演をどうするかという事前の下見のミーティングの中で、せっかく地元で公演を行うのだから、地域のダンスチームを作ろうという話になり、会館のある場所の名前をとって、市民ダンスグループ「もみじ山ダンサーズ」のメンバーをダンス経験を問わず公募することになった。そしてチラシ・ポスターの写真は“中野”をバックに新たに撮影することに。そのカメラマンは、田畑さんが以前より知り合いだった高円寺のとある飲み屋さんのマスター。かつ、共演者は、田畑さんが以前より一緒に作品を創りたいと熱望していた馬喰町で生まれたその名も「馬喰町バンド」、と超ローカルな面々がそろってきた。そうなってくるとここが東京であろうと、どこかの地方都市であろうと変わりが無い。やっている人間がどこまで熱を持って事業を推進していくかにかかってくる。なかのZEROの担当の坂田さんをはじめ職員の方全員がとても熱心に準備と実施を行ってくれた。すでにずっと一緒にやっている感じがした。このように思えることはあまりない。超ローカルのなせるわざか。

●課題とこれからに向けて

東京に住んでいない私にとっては、何か“東京”という巨大都市を考えてしまうが、ある地域を区切れば、そこは別に地方都市となら変わらせず、同じ課題があることに気が付いた。いくつかの公共ホールは、専門的なホールとして、時代の先端？を行く役割があるが、普通の地域のホールにとっては、やはり地域の人たちといかに繋がっていくか、地域のためにどのようにしたら良いのか、という全国共通の目的と課題がある。

なかのZEROは、とても地域に密着したホールである。常にロビーに人がいて賑わっている。地元の人たちによる様々な文化教室も行っているのがとても良い。あいにく最後の公演の日に大型台風にあたってしまい観客数は少なかったが、今回のなかのZEROと田畑さんの試みは、ホールにとっても、ダン活にとって大きなモデルになったと思う。

指定管理など様々な課題があるだろうけれど、そんなことに負けずに？どのような形でも良いから継続してほしい。幸いに、他の地域と違って、アーティストの田畑さんは隣の隣の駅に住んでいる。普通だったら交通費とホテル代をどこから捻出するのだろうかとなるとところが、それが不要ないということは、まったくもって大きなメリットである。ホールだけで考えようとしなくて、アーティストと一緒に、計画を考えることが大事だと思う。そのような関係性が今回のダン活で出来たと思います。1年だけではなく、10年がかりぐらいの気持ちで考えていれば、何かが起きるはず。せっかく生まれた「もみじ山ダンサーズ」をぜひ育てていって欲しい。超ローカルな繋がりを大切に、継続していくことを願っています。

スケジュール

	下見①	
	7/17(木)	7/18(金)
9:00		古墳等見学
10:00		↓
11:00		↓
12:00	うきは着	
13:00		↓
14:00	打合せ	
15:00	↓	↓
16:00		うきは発
17:00		
18:00	交流会	
19:00	↓	
20:00	↓	
21:00		
22:00		

	下見②	
	10/ 8(水)	10/ 9(木)
		山春小学校 下見
		大石小学校 下見
	うきは着	
	姫治小学校 下見	打合せ
		↓
	吉井小学校 下見	
		↓
	インリーチ	うきは発
	交流会	
	↓	
	↓	

	実施期間						
	11/25(火)	11/26(水)	11/27(木)	11/28(金)	11/29(土)	11/30(日)	12/ 1(月)
9:00		大石小学校 アウトリーチ			古墳等見学		
10:00		↓		照明仕込み	↓		
11:00	うきは着		山春小学校 アウトリーチ	↓		通し稽古	うきは発
12:00		楽屋整理等	↓	音響チェック	場当たり等	↓	
13:00	打合せ				↓	公演準備	
14:00	↓	吉井小学校 アウトリーチ	山三校 アウトリーチ	位置決め	↓	開場	
15:00	↓	↓		明かり作り	↓	公演	
16:00	↓		舞台仕込み		テクニカルリハ	撤収作業	
17:00					↓	↓	
18:00	公募 WS①	公募 WS②				↓	
19:00	↓	↓			ゲネプロ	交流会	
20:00	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
21:00					ダメ出し	↓	
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ

本市においてアウトリーチ事業がほぼ未実施であるので、これからこの様な事業を推進していく上での契機としたいとの考えに基づき取り組んだ。3年から6年までの市内6校の小学生を対象とし、4ヶ所の学校で実施した。うきは市の地域性なのか、素直な反応を示す子が多く、田村さんの分かりやすい説明とあわせて、「なじむ」のが非常に早く、スムーズで活気のあるアウトリーチとなっていた。

アウトリーチの流れとしては、最初に過去の作品の映像で、実際の舞踏を見せた。すると、児童たちは独特な雰囲気黙って見入っていた。次に、児童たちに動物の絵を描かせると、大体横向きの絵を描くが、上から見た絵や下から見た絵等、さまざまな角度から自由に見ていいことを教えてもらう。さらに美術館に便器を展示している例をあげ、発想の自由さを目の前で示す。そこからダンスの話となり、日常の生活の動きにもダンスがあり、それを見つけ出していくことから舞踏が始まったことを教えてもらう。このような心構え的なところから入っていくことで、次からの、実際に動いてみて、振付を覚えるところまでが、スムーズに展開していったようだ。お話を聞いたあとは、体の力を抜くこと、体を動かされることを学ぶ。その自由な体の動きの中で、大駱駝艦として歴史を積み重ねていくうちに、また公演をする上での必要性から、さまざまな動きが一つの型に集約していく過程を学び、実際にその型を体験した。

最後に、その体験した様々な型をつかった舞踏を見せた。間近に目の前で繰り広げられる舞踏の迫力に、児童たちは真剣に見入っていた。これは貴重な素晴らしい体験となるであろう。

実際に目の前で児童たちが楽しそうにやっているのを目にしたり、アンケートでまたやってみたいという感想を見たりすると、これからも何らかの形で継続的に事業を進めなくてはと、あらためて思った。



大石小学校



山三校（姫治・小塩・妹川小学校）



吉井小学校



吉井小学校

●公募型ワークショップ

公募型ワークショップは、うきは市民大学の事業の一つである市民ミュージカルワークショップの参加者のスキルアップも考慮し、その参加者を中心に公募した。まずは、体の力を抜くことから教えてもらった。最初はなかなか力を抜くことが難しかった参加者もいたが、だんだん慣れてきた。次にイメージすることによる体の動きを体験し、最終的には振付までしてもらい、その振りで2チームに分かれて発表をした。参加者は田村さんの説明に積極的に耳をかたむけ、一生懸命に体を動かしていたが、ワークショップを通して楽しそうな雰囲気は変わらなかった。また、貴重な経験ができたことを喜ぶ声が多かった。今後のワークショップ事業への手応えをつかめた。



関係者向けワークショップ（インリーチ）

関係者向けワークショップは、受け入れ側の生涯学習課職員と小学校教員で実施した。先生たちは子供たちに伝えなくてはいけないこともあり、特に熱心に参加されていた。力を抜くこと、体やその動きなどをイメージすることから始まり、それぞれの動きの意味などを学んでいった。過去の映像を見せてもらうなど、アーティストの分かりやすい親切な指導により、参加者は実際に自分の体を動かしながら学んでいく過程でスムーズに対応できていたようである。その結果に驚いたり喜んだり、反応が大きかったように思う。実施後の感想も、多くの参加者が楽しかったようで、ワークショップのことが後日話題になることもあり、舞踏に興味を持ってもらったようである。



11月26日（水）うきは市立大石小学校 5・6年生

●始める前

これから何があるのか興味深そうにやってくる子。友達とおしゃべりの方に夢中になっている子。さまざまな様子で会場の体育館へ入ってきて、先生の指示で並んで座る。参加者は5・6年生の39人である。

●映像を見せて～絵を描かせて

最初に田村さんたちの簡単な自己紹介の後、実際に、過去に公演した時の映像を児童に見せていただいた。児童たちはおそらく初めて観る映像に少し驚いている様子である。これから何があるのだろうという反応も見える。その後、皆に馬の絵を描かせてみた。皆が横向きの絵を描いたのを見て、田村さんが後ろから見た絵などさまざまな角度から見た絵を提示し、物事に対し柔軟に向き合うこと、自由な発想の大切さを学ぶ。

●力を抜いて～動かされる

ストレッチの後、力を抜くことを田村さんに教えてもらう。力を入れるだけでは本来の身体能力を発揮できないことを、スポーツの動きなどで実例を示してもらった。その後、床に寝て、手足を揺すってもらい、自分が水袋になったイメージで、力を抜いた状態を体験したり、人に糸で体の一部を引っ張られるイメージで動いたり、自ら動くのではなく動かされている状態を体験した。

●型

様々な自由な表現のうえに、最終的に集約された表現としての型を覚えてもらう。複数の出演者が一つの作品を作り上げていくうえで、共通した型を持つことが必要になり、その積み重ねたうえに、今の大駱駝艦の舞踏があるとのこと。ケモノの型やキリストの型などの実際の型を体験し、型から型への変化なども体験した。

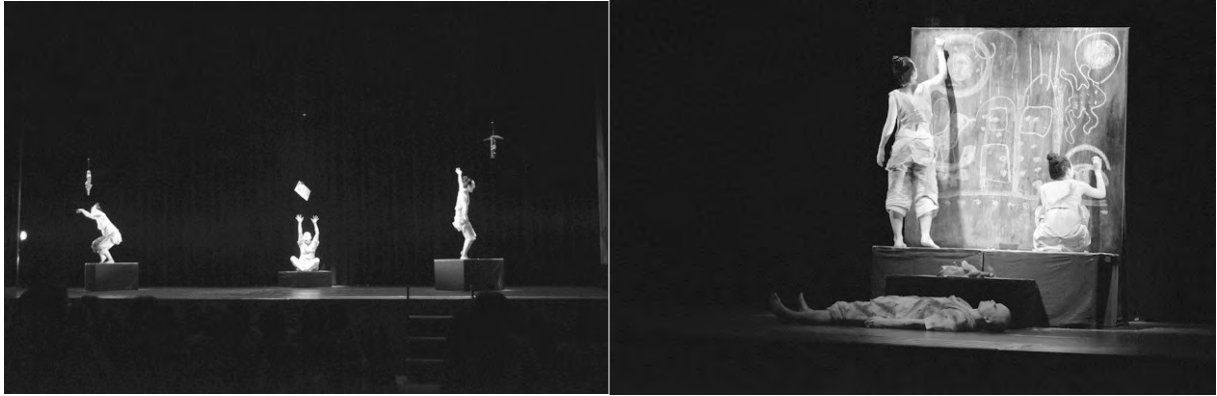
●演技を見せる

最後に、児童たちが体験した型を含めた舞踏をみせていただいた。児童たちには、目の前で練り広げられる舞踏は、照明などの効果がなくても、臨場感にあふれ、圧倒的な迫力があつたようである。



公演

『遣召 烏胡跛臣（つかわしめ うごはのおみ）』



本市がこれから対外的にアピールしていこうとしている装飾古墳について、これをモチーフとして使ってもらい、新たな創作を検討してもらうため、アーティストの田村さんには、事前下見の時に装飾古墳を中心にうきはの歴史を何ヶ所も巡ってもらった。その中でうきはのイメージの中にひたっていただき、結果的にうきは市の装飾古墳を題材にした新作を創作してもらうことができた。共演者の方々にも公演前にポイントとなる古墳を見学し、具体的なイメージを確かめてもらった。これは当初の目標の一つの柱であり、これを達成できたことが今回のダン活の最大の成果である。このことにより一般的には難解と思われる舞踏も、地元の観客により親しみやすく感じてもらえたようで、舞踏に対する敷居が低くなり今後の活動への手応えとなった。

また、当市の公演会場である文化会館の緞帳のデザインが、うきは市の代表的装飾古墳、珍敷塚古墳の壁画となっており、この壁画を公演に取り入れてもらったことで、うきは市での公演の独自性が確立できた。

これは、作品の後半部分で、珍敷塚古墳の壁画を観客の目の前で描いて見せたことである。地元の観客にとって大変感動的だったらしく、終演後に何人もの方から言葉をいただいた。他の部分についても、よく内容が分からなかったという方もかなりいたようだが、それよりも興味深く観ていただいた方が多かったようだ。再演を望む声もあり、いかに実現するかが今後の課題となるだろう。

●来場者アンケートより（感想）

- ・メインの3人の方の体のラインがとても美しく、写真の1コマ1コマのように動いていた、最初のシーン、人体とは、こんなにきれいなものなんだと感動いたしました。よく見たら、筋肉がよくついていて、けれど柔軟で、とても訓練されているのだなと思いました。
- ・羽が降ってくる場所。絵も古墳の画で、おお！と思えました。
- ・とても美しかったです！古墳の絵の前で踊られている時になぜか泣きそうになりました。うきはでこのような素晴らしい舞台を創っていただいて感無量です。また、うきはへぜひおいで下さい。お待ちしております。
- ・あまり意味がわからなかったけど、それぞれの動きだけの表現は素晴らしいと思った。
- ・生まれて初めてのショック？来てよかったと思います。
- ・最初はとてもこわかったです。でもとても不思議な感じがして、人ってこんな動きができるのだと、とても感動しました。世界にひきこまれました。ありがとうございました。

●この事業への応募動機

きっかけがなければなかなか接点のない現代ダンスの魅力を、子どもや市民の方々に知ってもらいたかったというのが、この事業への応募動機である。また、本事業にて実施される公募型ワークショップやアウトリーチ事業を通じて、参加者に少しでも劇場や芸術文化と接点をもってもらい、より身近なところでその素晴らしさや魅力を感じてほしいと考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

本市において“文化芸術”は鑑賞する機会の提供のみが先行しており、実際に参加することについては、敷居の高いものというイメージがあった。今回の事業を実施することにより、ワークショップやアウトリーチをとおして「コンテンポラリーダンス」を直接体験してもらうこととなり、より身近に文化芸術を感じてもらおうということがどういうことか、を具体的に提示する機会をつくるのがねらいであった。

特に今回の事業では、アウトリーチの受け入れ先を市内小学校としたが、これは本市の現状として、文化芸術とは鑑賞するもの、というイメージを強く持っているものが特に若年層に多く、自分たちが表現者となる機会が少ないことや、身近で文化芸術作品を感じられる機会が少ないという現状があるため、積極的に若年層への文化活動支援を行っていきたいというねらいであった。

また、うきは市内には多くの歴史的史跡が存在するため、その歴史的背景を題材とした文化芸術活動を行い、地域活性化につなげたいと考えている。よって、今回のダン活でも可能であるならば是非その意図をくみ取ってもらい、ラストの公演にはそのコンセプトを盛り込んだ形での作品を希望していたが、これを実現してもらったことについて、田村さんには感謝している。

●企画実施にあたり苦労した点

今年度当初に本市での事業を立ち上げた担当者が異動してしまったため、それまでの経過も分からずに担当になった。そのため、ダン活の事業独自の進め方などの要領がまったくわからずに事業を進めなければならず、関係各位に大変ご心配をおかけしてしまった。

●事業の成果

たくさんの方の協力があり、そのつながりで大きな意味のある事業ができたことが嬉しい。

また、田村さんの分かりやすい親しみやすい指導による舞踏のアウトリーチやワークショップを実施したことで、子どもたちやワークショップの参加者から、これまで経験したことのないものにふれる感動や喜びを多くの人々へ届ける取り組みへの協力者が出てきてくれると思う。参加型の文化芸術事業を市民にアピールしていく方法としてのヒントも、もらったように思う。

●反省点、今後の課題など

反省点としては、チラシ、チケットの出来上がりが遅れ、広報等のとりかかり自体が遅くなってしまった点があげられる。集客について、各種文化団体を中心をお願いしていたため、途中の集客状況の集約が困難で、来客数を読むことが難しかったことも反省点としてあげられる。

今後の課題としては、今回の貴重な経験をこれからどう活かして、今後のアウトリーチ事業及びワークショップ事業を推進していくかということにつける。せつかくの素晴らしいきっかけを無駄にすることなく、今後の活動に活かしていきたいと思う。そのためにも、今回かかわった人たちとのつながりを大事に継続していくことが必要になってくる。また、公演については再演を希望する声も多かったこともあり、前向きに再演の実現にむけて取り組んでいきたい。

●この地域のダン活の特徴

福岡県の久留米市、八女市、朝倉市（前年ダン活実施）と隣接する「うきは市」のダン活は、市の教育委員会が運営する「うきは市文化会館」を拠点とし、大駱駝艦舞踏手の田村一行さんをアーティストとして迎えた。このダン活では、市民が文化芸術に直に触れ、関心を深めることを目的として、ダンスを体験することや鑑賞する機会を提供。公募ワークショップの他、教育現場との協力体制を築く足がかりとして小学校でアウトリーチを行い、古墳や史跡が多く存在する街の特徴を活かし、地元の装飾古墳群をモチーフとした作品による公演を行った。


アウトリーチは、市内の小学校全 10 校の内、6 校（内、3 校は合同開催）の児童と出会い、公募ワークショップは小学生以上を対象として 2 日連続で実施。田村さんの「ステップやジャンプではないダンスとは何か」「自分の存在とは何か」という問いを実践してみる内容となり、田村さんのわかりやすいお話とイメージを持って動くワークを通して、日常生活の身体から表現を見いだす機会となった。小学校への働きかけは、校長会を通じて行われ（1 月に概要説明、希望調査の後に実施校を決定し、3 月に実施スケジュールを説明）、企画概要の他、用語解説や実施までの流れ等が紹介された説明会用資料は、今後の事業展開にも是非、活用していただきたい。

『遣召 烏胡跛臣（つかわしめ うごはのおみ）』今回のダン活公演の為に創作された作品は、アーティストとこのダン活の担当である生涯学習課社会教育係チームと、同じく文化財保護係チームのコラボレーションと言える。下見・事業実施期間中に企画いただいた史跡を巡る特別ツアーは、偶然にもこの地の装飾古墳群について田村さんが以前より興味をお持ちだった事もあり、アーティストが作品を創作するインスピレーションを得る機会となり、文化財保護係スタッフから提供された広報のメインビジュアルは、地元の身近な題材を取り上げた公演イメージを具体的な形とする事ができた。また、代表的な装飾古墳の壁画を描いたホールの緞帳も作品の一部として演出され、「古墳のまち うきは」の財産と現代ダンスが時間を超えて融合するこの地ならではの作品が誕生。ご来場者が地元のイメージを見直すきっかけになったと思う。また、課内総動員の声かけ作戦が功を奏して、当日は予想を上回る約 200 名の入場者となった。

●課題とこれからに向けて

この事業では、準備段階から市内の様々な人材とのネットワークを築いていくことも目指すところではあった。新年度にご担当の異動があり、その人脈まで引き継ぐ事はできなかったが、新体制でこのダン活を進行する中で連携頂いた学校関係、文化団体、朝倉市総合市民センターなどとの協力関係を今後も継続し、更に広げ・深めていただきたい。今回、アーティストである田村さんと市民の方々との出会いを創出することができたのは大きな成果だと考え、会館が市民と文化芸術との接点として機能する存在として、その使命を今後も担って頂きたいと考える。

釧路市民文化会館 実施データ

実施団体	一般財団法人釧路市民文化振興財団
実施ホール	釧路市民文化会館
実施期間	平成 26 年 12 月 9 日(火)～12 月 15 日(月)
アーティスト等	アーティスト:勝部ちこ+鹿島聖子 共演者:岩下清香(音楽)
コーディネーター	平岡久美
サブコーディネーター	清水幸代
<p>■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場) 6 月 27 日(金) 18:00～19:30、アウトリーチ先教員・代表生徒・地元ダンス教室生徒・会館職員、13 名、釧路市民文化会館小ホール</p> <p>■地域交流プログラム アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 12 月 9 日(火) 18:00～19:30 市内高校演劇部合同、演劇部員、12 名、釧路市民文化会館小ホール</p> <p>② 12 月 10 日(水) 8:40～10:15 釧路市立愛国小学校、6 年 3 組、29 名、体育館</p> <p>③ 12 月 10 日(水) 10:40～12:15 釧路市立愛国小学校、6 年 4 組、31 名、体育館</p> <p>④ 12 月 11 日(木) 8:40～10:15 釧路市立愛国小学校、6 年 1 組、31 名、体育館</p> <p>⑤ 12 月 11 日(木) 10:40～12:15 釧路市立愛国小学校、6 年 2 組、31 名、体育館</p> <p>⑥ 12 月 15 日(月) 10:20～11:50 釧路短期大学、幼児教育学科、18 名、308 号室 ※ダン活枠外</p> <p>公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 12 月 10 日(水) 18:30～20:30 小学校高学年以上、500 円、4 名、釧路市民文化会館大ホール</p>	
<p>公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)</p> <p>■ 『日本の本日～くしろよろしく』(ワークショップ参加者作品) 『音楽とおしゃべり』 『Phase47 in Kushiro』</p> <p>■ 12 月 14 日(日) 14:30 開演(14:00 開場)</p> <p>■ 勝部ちこ、鹿島聖子、岩下清香(音楽)、プロジェクトダンサーズ C.I.Agent(ワークショップ参加者 4 名)</p> <p>■ 一般 1,000 円(当日 1,500 円)、学生 500 円</p> <p>■ 釧路市民文化会館 大ホール 舞台上特設ステージ</p> <p>■ 44 名</p>	
	

スケジュール

	下見①	
	6/27(金)	6/28(土)
9:00		
10:00		愛国小学校 下見
11:00		ホール下見等
12:00		
13:00		打合せ
14:00	アーティスト等 到着	↓
15:00	新聞社取材	↓
16:00	短大下見	↓
17:00	打合せ	アーティスト等 帰途
18:00	インリーチ	
19:00	↓	
20:00	交流会	
21:00		
22:00		

	下見②	
	9/2(木)	9/3(金)
		テクニカル 打合せ
		↓
		打合せ
	アーティスト等 到着	↓
	打合せ	↓
	湖陵高校下見	↓
	FM番組出演	アーティスト等 帰途

	実施期間						
	12/9(火)	12/10(水)	12/11(木)	12/12(金)	12/13(土)	12/14(日)	12/15(月)
9:00		愛国小学校 アウトリーチ① (フィードバック)	愛国小学校 アウトリーチ③ (フィードバック)	場当たり等	照明等直し		
10:00		愛国小学校 アウトリーチ②	愛国小学校 アウトリーチ④	↓	↓	通し	釧路短大 アウトリーチ
11:00		↓	↓	↓	↓	↓	↓
12:00		フィードバック	フィードバック			↓	フィードバック
13:00		テクニカル 打合せ			WS 作品 稽古③		アーティスト等 帰途
14:00	アーティスト等 到着		照明等打合せ	共演者到着		開場	
15:00	愛国小学校 打合せ			音響等打合せ		公演	
16:00	打合せ			↓	↓		
17:00		↓	↓	↓		WS 参加者 との茶話会	
18:00	高校演劇 アウトリーチ	公募 WS	WS 作品 稽古①	WS 作品 稽古②	アーティスト リハーサル		
19:00	↓	↓	↓	↓	↓	交流会	
20:00		↓	↓	↓	↓		
21:00					↓		
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ

アウトリーチについては、特に会館離れが進む若い層を巻き込んで行こうという主旨の元、小学生、高校演劇部員、幼児教育学科の短大生を対象に実施した。それぞれ対象とした主な理由は、コンタクト・インプロビゼーション（CI）が持つコミュニケーションに関する特性や自由な発想は小学生にこそ体験いただきたいものであること、高校演劇部員には表現の世界観を広げていただくこと、短大生については近い将来、子供達を指導する現場で今回の体験を生かしていただくこと、そして間接的に子供達へその魅力が伝わることを目的としたもの。多くの先生、生徒が集う学校を対象とすることで周辺への情報伝播、また今後同種の事業を展開するうえで有益な連携の構築も意図とした。小学生は6年生の4クラスを対象に実施。年頃なのか最近急激に消極的な児童が増えたと担任の先生方が心配をしていたが、どのクラスの児童も笑顔一杯で参加していた。普段は交流の無い児童同士が自発的に触れ合いを持つ場面もあったとのことで、CIが持つ特性が如何なく発揮されたものと考えている。高校演劇部員の終始意欲的な姿勢はさすがといったところであった。実施に際し、顧問の先生が「シナリオでは無い自発的な表現を学ぶことができれば」と話していたが、その期待に沿う内容であった。短大生については、ゼミの一環として実施されたこともあり、楽しみながらも皆真剣な面持ちで参加していた。予め持っていたイメージとは違う内容のものだった様だが、多くの学生が後の感想で、今回の体験を将来、教育現場で生かしたいと述べていた点に意識の高さが伺えた。アウトリーチ先を多くし過ぎ、アーティストのお二人には大変なご負担を掛けてしまったが、今回150名を超える児童、学生がCI、そしてお二人のアーティストに直に触れ合い、その魅力に触れることができた。



高校演劇部合同



愛国小学校



愛国小学校



愛国小学校

●公募型ワークショップ

当初から市民参加型公演を計画していたことから、その足掛かりとなるような参加が得られればと考えていた。市民参加には老若男女、様々な方々に参加いただきたかったことから、本ワークショップの対象も“小学校高学年以上”と設定した。勧誘方法については反省しか残っておらず、各所へのアプローチ不足、時期が遅かった為、他のダンスイベントと重なってしまう等、参加を期待していた方々のスケジュールを確保できなかった。結果、成人女性3名、高校生男子1名の計4名のみの参加となってしまったが、もともとCI、アーティストに興味があった方が多く、参加者の熱意が感じられるワークショップとなった。また本ワークショップ参加を契機に市民参加へも興味を示す方が多くいらっしまったことも特筆すべき効果であったと考える。



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチ先の先生方には是非とも理解、参加をいただきたかったことから、先生方への説明に重点を置きアプローチした。CI、アーティストの紹介、ワークショップの内容、実績、効果等を手作りの資料とアーティストからいただいたDVDを用い説明をした。ある程度の理解は得られたつもりだったが、インリーチを受け初めてその魅力が分かったという方が多く、この種の魅力を伝える難しさを痛感した。多くの先生方が見学という形にはなってしまったが、参加した高校生や地元ダンス教室の生徒が、最初は緊張した様子であったものの、すぐに打ち解け、初めてのCIを楽しんでいた。これまで消極的であった先生方も実際にこの様子を見て、かなり反応が好転したことから、インリーチの重要性を改めて認識したものである。



地域交流プログラム内容

12月10日（水） 釧路市立愛国小学校 6年3組

●準備体操

頭のとっぺんから足先まで手のひらでトントンたたき、身体の各部を活性化させる。

肩などを回し軽く歩きながら身体をほぐす。その後ストレッチ。普段伸ばさない様な部分もよく伸びていく。いつもより身体の可動域が広がった様！？

●二人一組で動きを同期

二人一組で向かい合う。片方が横に歩き出せば、同じように歩く。ジャンプすれば同時にジャンプする。片方が身体の正面で手を叩く。もう一方も言葉を使わずにその瞬間に呼吸を合わせて手を叩く。動きが次第に同期していく。

●リーダーの手のひらを掴みにいく

まず二人一組でリーダーとフォロワーに分かれる。リーダーが任意のところに手のひらを差し出す。フォロワーはその手のひらを掴みにいくのだが、そこで一工夫。ストレートに手を掴みに行くのではなく、わざと遠回り、時には一回転したり、リーダーの股をくぐったり、自発的に色々なアイデアが生まれていく。不思議と身体を使った造形美に見えてくる。今度は近くにいる別のペアの手のひらを掴みに行く。4人になると益々動きは複雑になる。最後には8人が絡まり合い一つの大きなオブジェが完成する。

●ころころサーフィン

子供たちに大人気のプログラム。二人一組で一方が床を丸太の様に転がる。もう一方がその上に体を乗せることであたかもサーフボードが波に乗る様に進んでいく。二人が交互に絶え間なくこの動作を繰り返すことで、どこまでも進んでゆく。丸太役に遠慮せず体重を預けてしまうことがコツ。女の子の中には少し遠慮がちな子もいた。

●ミニジャングルジム

四つん這いになった人の身体を最小単位のジャングルジムに見立てたもの。背中合わせで乗っかる、おなかの下をくぐる、しがみつくと、ブリッジ状になる。お互いの体重をしっかりと支えつつ、思いつくまま、色々なポーズを決めていた。



公演

『コンタクト・インプロビゼーショングループ C. I. co. 勝部ちこ+鹿島聖子「First Contact」』



コンタクト・インプロビゼーションという当地では目新しいパフォーマンスを如何により多くの人に見に来ていただけるかと考えると、市民参加型公演は集客に結び付く大きな要素であることから、当初よりこのスタイルでの公演をアーティスト側をお願いしていた。事前に参加者が集まらず企画続行に不安を感じていたが、アウトリーチ先から小学生女子2名、高校生男子1名、そして公募ワークショップから成人女性1名がプロジェクトダンサーズ C.I.Agent として公演に参加した。参加者の顔ぶれが決まったのが直前となりアーティスト側も演出プランが立て難くかったと思うが、参加者の頑張りもあり3日間の稽古で見事な作品に仕上がった。また、当館では殆ど経験のなかった舞台上舞台も取り入れた。アクティビティエリアと客席を同じ高さの目線にすることで、接近させることで生まれる臨場感、1,500席の普段の客席が背景となり、その奥行と照明の効果で生まれる独特の雰囲気の中でパフォーマンスが行われ観客を魅了した。公演終了後はアフタートークとしてアーティストへの質問コーナー、C.I.Agentの紹介、公演パンフレットを用いてダン活全体の概要などを説明した。あまりかしこまらず、終始アットホームな雰囲気で進行できたのも舞台上舞台の効果であったと思う。目標の集客数には届かなかったが、来場者の関心は高く、広報の仕方によってはもう少し集客できたのではと反省点が残る。

●来場者アンケートより（感想）

- ・舞台上に客席があること、そして初めて見る動き、表現方法に目からうろこでした。
- ・不思議な動きが印象に残った。
- ・(音楽の岩下さんが)歌いながら色々な音を出していたのがすごかった。
- ・歌も動きも衣装も印象に残った。
- ・ピアノとダンスを合わせはじめた部分がきれいだった。
- ・(動きや雰囲気が)ピアノの音に合っていて、とても良かった。
- ・(市民参加演目が)発声したり、拍手をしたりではじまり面白かった。
- ・同級生が出ていたので面白かった。
- ・アフタートークが面白かった。

●この事業への応募動機

ダン活に見られる企画段階からアーティストや市民との協同に重きを置く手法、そしてアウトリーチ、ワークショップ等の普及啓発を同時に実施する手法は、単に鑑賞型事業として運営側から提供するのみの形態ではなく、これからの当館の運営における重要な要素を再認識する絶好の機会であると考えた。ダン活を機に当館職員のスキルアップ、関係団体や地域住民との連携構築を目指し、今後の会館運営、延いては停滞する当地域の活力増進の足掛かりとしたかった。

●事業のねらいと企画のポイント

老若男女を問わず参加できる CI の特性を最大限生かし、幅広い対象にアプローチし、新たな地域文化の掘り起しをねらいとした。アウトリーチでは、昨今、芸術鑑賞機会が減り、会館離れている若い年代層に今回の体験を機に芸術文化分野に興味を持ってもらうこととした。また、主に学校をアウトリーチ先に設定し先生方も巻き込んでいくことで、当館が今後この種の活動をする際の礎となる関係性が構築できればと考えた。公募ワークショップでは、直接アーティストと触れ合える機会は当地では希少であることから対象を限定せず、より多くの方に参加いただきファン層を開拓することを考えた。公演においては、当地では未だ先鋭的で敷居の高いイメージがあるコンテンポラリーダンスをより身近に感じていただける様、市民参加型公演とした。

●企画実施にあたり苦労した点

当初、舞台上舞台の必要性をあまり感じておらず、小ホールでの公演実施を予定していた。下見時に大ホールを視察した際、アーティストより大ホールの舞台上舞台での公演を提案された。当館で自主事業を実施する際は、当方で使用料を負担せねばならず、予算を大きく変更することとなった点は苦慮したが、実際に客席を組み、照明演出等を目の当たりにすると、小ホールでは決して得られなかったであろう緊密性、非日常的な空気感が生まれ、この選択が正解だったと確信した。アウトリーチ先を多く設定し過ぎ、市民参加も企画したことで、かなりの過密スケジュールとなることが懸念された。アウトリーチ先の削減等も試みたが、どのアウトリーチ先もすでに期待が膨らんでおり、断るわけにはいかなかった。結果的にアーティストにはかなりの負担を掛けてしまった。チラシ作成の際は、当地では未だ馴染みの薄いジャンルであることから、なるべく多くの情報量を掲載したい気持ちと、見やすさのバランスを調整する作業に多くの時間が掛かってしまった。協力先の各団体への依頼や参加勧誘の際の説明は非常に難しかった。殆ど見たことのないジャンル、前例の無い取り組みについては、それによって生まれる効果が容易にイメージできない様だったので、各対象に合わせ作成した資料をもとに担当者の体験談などを交え説明し、理解を得ようと努めた。

●事業の成果

今回、この事業に協力、参加いただいた方々の中の殆どが CI のその名前さえ初めて聞く人ばかりだったと思う。皆、最初は戸惑いながらも、実際に触れ、体験することで一様に笑顔がこぼれ、CI の持つ自発的な表現の面白さやコミュニケーションにおける不思議な力を肌で感じていただくことができた。そしてアウトリーチ先の小学生が自発的に公演に参加を希望してきた例を筆頭に、多くの方々に興味を持っていただいたことは、当地における芸術文化の土壌に新たな種まきができたと確信する。その魅力を伝えることは大変難しかったが、芸術文化の普及啓発を担当する者として基本的かつ重要なプロセスを学ぶことができた。また今回ご賛同いただいた関係各位との連携は今後の会館運営において大きな財産となった。テクニカル面においても舞台上舞台など新たな試みに挑戦し制作した過程はテクニカルスタッフ、会館職員双方にとって有意義な時間であった。

●反省点、今後の課題など

事業全体を通し、広報・勧誘に関する行動が遅かった為、本来、この事業に巻き込めたであろう団体、人材の確保のタイミングを逃してしまった。またアーティスト側の意向を確認せぬまま、アウトリーチ先に広く声をかけ過ぎた為、後の調整が難航した。事業全体を見通し、バランスの良い計画を十分に検討すべきであったと思う。その他反省すべき点は数多あるので今回の経験を教訓に今後の事業運営に生かしていこうと思う。また、今回のダン活を機に芽生えた、市民理解、関係団体との連携を更に拡大する様な事業展開をしていくことが今後の当館の使命と考える。

●この地域のダン活の特徴

「新たな出会い、新たな発見 First Contact !!」釧路市民文化会館のダン活は、勝部ちこ・鹿島聖子の両氏を迎え、会館が校区であり、市内小学校 28 校の中で一番児童数が多い小学校の 6 年生全 4 クラス、市内高校演劇部員（5 校合同）を対象としたアウトリーチ、小学高学年以上を対象として公演への出演者も募った公募ワークショップを開催。当初、演劇部員を対象としたアウトリーチでは、公演への参加を促す仕掛けとしても企画されたが、参加を広く呼びかける方向へ転じ、ワークショップ参加者からも出演者を募った。

公演は、ヴォーカリスト/シンガーソングライターである共演者：岩下清香さんを迎えて、市民参加のプロジェクトダンサーズ C.I.Agent（シー・アイ・エージェント）とアーティストとの共演作品の後、岩下さんのピアノの弾き語りを挟んでアーティストと共演者の作品による 3 部構成の公演を開催。来場者は、当初見込んだ観客層（ダンス愛好家や高校生など）とは異なったが、アウトリーチ先の小学生が出演したこともあり、その同級生の来場も多く見られた。

広報関係では、下見の段階から地元新聞の取材や FM ラジオ番組への出演など、早い段階からメディアへの露出があったが、公演日が衆議院議員総選挙と重なった為か、事業期間中の取上げがなかったことは、集客に多少の影響があったかもしれない。また、公演日に別会場で行われた釧路出身・北海道で活躍する若手振付家のワークショップが行われ、週明けには公演が開催されたことも集客に影響したのかもしれないが、ダン活公演とのセット券販売を企画・提案するなど、事前に情報の共有があれば、互いに広がる工夫も考えられたのではないだろうか。



釧路のダン活ではこの他に、公演の為の参加者リハーサル、事業外として公演翌日に短期大学幼児教育学科の学生を対象としたワークショップを実施。この盛りだくさんのプログラムについてアーティストは、「なるべく多くの機会提供を」という会館の希望に応えた形となった。

●課題とこれからに向けて

釧路ダン活に限らず、市民との協同事業の際に、「巻き込む」という事を耳にすることがある。会館が中心となって動く・働きかけるという意味・気負いからだと察するが、この言葉はあまり良くない事態について用いられる事が多いので、他に良い言葉を探してみたい。

さて、「このダン活の中心にあるものが何であったか」。今回のダン活プログラムへの参加には至らなかったが、釧路ダン活のタイトル通り、今回初めてコンタクトされた学校やダンス関係者などとのコミュニケーションはその後どのように継続されているだろうか。若い世代が芸術に出会う機会を提供していくことは、来館者増に直結するとは限らないが、文化芸術等の鑑賞機会を設け市民文化の向上に資するという釧路市民文化会館の使命（ミッション）を、時代や環境の変化にも呼応する形で、文化行政サイドの立場から教育行政との関係をどのように築いていくか、またそれがどのように地域の活性化へと繋がっていくのか、ダン活を経た今、長期的なビジョンに基づいた継続的な取組みの設計図を改めて引いてみたい。この事業を担当された門馬さんはじめ、サポート頂いた事業課・技術スタッフの一人一人が、釧路の芸術文化を支える貴重なソフトであり、大きな財産であるということも踏まえて。

高知市文化プラザかるぼーと 実施データ

実施団体	公益財団法人高知市文化振興事業団	
実施ホール	高知市文化プラザかるぼーと	
実施期間	平成27年1月20日(火)～1月26日(月)	
アーティスト等	アーティスト:田村一行 共演者:我妻恵美子	アシスタント:奥山ばらば テクニカルスタッフ等:銚久奈緒美
コーディネーター	菊丸喜美子	
<p>■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)</p> <p>12月3日(水)18:00～19:00、アウトリーチ先職員・ホール関係者他、13名、高知市文化プラザかるぼーと軽運動室</p> <p>■地域交流プログラム</p> <p>アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 1月20日(火)16:00～17:30、アートセンター画楽、アートセンター通用者、12名、 高知市文化プラザかるぼーと小ホール</p> <p>② 1月21日(水)10:30～12:00、高知市立土佐山小学校、3～6年生、26名、音楽室</p> <p>③ 1月21日(水)16:00～18:00、高知県立追手前高等学校、演劇部員、11名、芸術ホール</p> <p>④ 1月22日(木)10:00～11:30、高知市教育研究所、中学1～3年生、20名、高知市青年センターホール</p> <p>公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 1月20日(火)19:00～21:00、小学生以上、22名、高知市文化プラザかるぼーと小ホール</p> <p>② 1月21日(水)19:00～21:00、小学生以上、24名、高知市文化プラザかるぼーと小ホール</p> <p>※参加料 一般1,000円、学生500円(2回連続)</p>		
<p>公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)</p> <p>■『薔薇とお接待』</p> <p>■平成27年1月25日(日)14:00開演(13:30開場)</p> <p>■田村一行、奥山ばらば、我妻恵美子</p> <p>■一般2,000円・学生1,000円</p> <p>■高知市文化プラザかるぼーと 小ホール</p> <p>■95名</p>		
 		

スケジュール

	下見①	
	9/17(水)	9/18(木)
9:00		技術スタッフ 打ち合わせ
10:00		↓
11:00	アーティスト等 来高	
12:00	打ち合わせ	アートセンター画案 下見
13:00	↓	打ち合わせ
14:00	教育研究所 下見	↓
15:00		アーティスト等 帰京
16:00	追手前高校 下見	
17:00	打ち合わせ	
18:00	↓	
19:00	懇親会	
20:00	↓	
21:00		
22:00		

	下見②	
	12/3(水)	12/4(木)
		さんさんテレビ 取材
	アーティスト等 来高	
	打ち合わせ	
	↓	
	土佐山小学校 下見	技術スタッフ 打ち合わせ
		↓
	ケーブルテレビ CM撮影	高知新聞社 取材
	インリーチ	アーティスト等 帰京
	懇親会	
	↓	

	実施期間						
	1/20(火)	1/21(水)	1/22(木)	1/23(金)	1/24(土)	1/25(日)	1/26(月)
9:00				仕込み	舞台参考見学	稽古	
10:00		土佐山小学校 アウトリーチ	教育研究所 アウトリーチ	↓	↓	通し	
11:00	アーティスト等 来高	フィードバック	フィードバック	共演者等 来高	↓		
12:00					稽古	公演準備	
13:00	打ち合わせ			仕込み			
14:00	↓		仕込み			公演	
15:00						バラシ	
16:00	アートセンター画案 アウトリーチ	追手前高校 アウトリーチ				↓	アーティスト等 帰京
17:00	↓	↓				↓	
18:00	フィードバック	フィードバック					
19:00	公募 WS①	公募 WS②		↓	ゲネ		
20:00	↓	↓			打ち合わせ		
21:00			↓				
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ

公共ホールに来る機会のない方や、イベントへの来場が困難な方のいる地域や施設へ田村一行氏を派遣し、ワークショップを通して表現する楽しさを感じてもらいたいと考えた。将来的な新たな客層・支持層の獲得、また多くの人に芸術文化への興味関心を持ってもらうことを目指すものである。

【アートセンター画楽】通所者は障害を持つ方々であるが、同時にアート活動を日々行う表現者でもある。単純に身体を動かすこと以外に、表現における新たな着眼点を得る機会を提供したいと思った。当然、参加者はできること・できないこと、集中力・理解力に差があったが、一旦「自分が何をすれば良いのか」を呑み込むことができると、素晴らしい個性を開いてくれることを目の当たりにした。

【高知市立土佐山小学校】郊外の子ども達に、文化活動や表現に深く触れられる機会を提供することを目的としたもの。小学3~6年生を対象とし、事前の打ち合わせの通り素直で元気な子ども達で、すぐに田村さんとも打ち解けていた。先生方からもいつもより集中して、楽しそうにしていたと感想をいただいた。

【高知県立追手前高校演劇部】舞踏という新しい表現方法と出会うことで、演劇における表現の幅を広げること、また普段の生活においてもモノの見方を変えるきっかけを得てもらいたいと思い声を掛けた。顧問の先生からの要望で二時間のアウトリーチとなり、田村さん自身の演劇についての考えや、より高度な身体の動かし方などを実施した。

【高知市教育研究所】表現の苦手と思われる不登校の子どもたちに、自分や他人を見つめるきっかけとしてほしいと思った。プログラムの半分は「価値観を変えてみよう」という話の時間となったが、最初は散漫としていた子どもも、後半の身体を動かすプログラムでは楽しそうに過ごせていたようだった。



アートセンター画楽



アートセンター画楽



土佐山小学校



追手前高校演劇部

●公募型ワークショップ

二日間を通して、年齢、性別、ダンス経験の有無を問わず募り、10代～50代の24名（2名は二日目からの飛び入り）の参加を得られた。高知市外からも多数の参加があり、舞踏に対する一定数以上の関心があることが伺える。

一日目は「空っぽになる」という身体の動かされ方を、話と映像を導入部に、後半は実際に体を動かしながら体験した。特に「氷が解けるように身体が崩れていく」動きでは、一人ひとりの個性が表れ、参加者は皆真剣に取り組みながらも、新しい自分の身体との出会いに驚きと楽しさを感じているようだった。

二日目はより踏み込んだ身体の動きを学び、一連の振付を元に参加者同士で発表するまでに至った。参加者が皆舞踏を踊っていたことには圧倒され、改めて舞踏の面白さ・自由さを感じられた。終了後も表現についての質問や再会を望む声があがるなど、田村さんと参加者との交流があり、ワークショップの成果を感じられた瞬間であった。



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチ先や文化施設の関係者、報道関係者、事業団職員などの参加があった。アウトリーチ先関係者の方には、資料や映像などで事前に伝えた情報以上に、実際にどのようなプログラムになるのかを周知・体験してもらえ、とても良い機会となった。

プログラム自体も、基本的には本番のワークショップをなぞりながらも、過去に実施したワークショップの話盛り込むなど、田村さんから関係者向けに配慮があったことで、より本番への期待や関心が深まったと考える。特に高知市教育研究所から7名の参加があり、アウトリーチに対する不安を払拭できたことは非常に大きい。

また、インリーチ参加者は「舞踏の体験」を希望しているわけではないにも関わらず、とても集中してプログラムに臨んでいたことがとても印象的で、自分が研修で受けた感動が多くの方々と共有できるものだと、本番に対する強い後押しにもなった。



地域交流プログラム内容

1月22日（木） 高知市教育研究所

高知市教育研究所のアウトリーチは実施を断念しかけたこともあり、また繊細な子ども達であると聞かされていたため、参加してくれるか、楽しんでくれるか不安があった。開始直前の子ども達は、全体的に散漫とした印象で、挨拶に対しても反応が薄く、外部からの人間に緊張し、警戒している様子が見られた。

●舞踏の説明

まず、大駱駝艦の舞踏について、ホワイトボードや映像を交えて紹介する。力を抜くことや空っぽになることなどの実演も行うが、子ども達にはまだ緊張が見られる。

ゲルニカの絵を見せながら「わからないことはダメなことじゃない」と伝える。さらに「私は〇〇のようにあなたが好きだ」という文章を書き、誰にもわからない「〇〇のように」でも（例：私は宇宙に行って帰ってくるぐらいあなたが好きだ）、それが自分の個性になることを伝えながら「言葉になる前の、自分が得た最初の感動を大切にしよう」と話す。

●A4の紙を用いた遊び

A4の紙に馬の絵を書いてもらう。皆上手く描こうという意識が働いたようだが、一様に横から見た全体像を描く。それを受け、田村さんが馬のお尻の絵を描き、既存の価値観を疑う話をする。

続けて、「あいうえお」に色や味、感触を想像してみる遊びを行う。子ども達に戸惑いが見られたが、田村さんの「答えのない事だからこそ自由に」という発言を受け書き始める。「あ」は「赤」と書いた子を例に上げると、肯定や別の考えを言い合うといった反応が湧き、徐々に引き込まれているのが感じられる。

90分のプログラムのうち、ここまでの導入部で45分使った。不安の大きい子ども達にはちょうど良い時間だったようで、その後の身体を使った時間もすんなりと参加してもらえた。

●ストレッチやゲームで身体を動かす

休憩の後、身体のを抜く運動を実践する。普段使っていない筋肉をほぐすことで、簡単に身体が柔らかくなることなどを体験してもらう。また、寝そべって、身体が水袋になったイメージで力を抜き、身体の重さを感じながら動かし合う。全員で円になり、リズムよくジャンプする、手拍子をするというゲームでは、言葉を使わない意思の疎通を体験する。自然に笑みがこぼれ、皆が楽しんでいる様子だった。

●空っぽの身体を体験する

周囲の空気を感じて「動かされる」ことを意識し、ペアになり、パートナーに身体を動かされてみる。恥ずかしさは垣間見られるが、はしゃぎ回るような子はおらず、相手の身体を思いやった動かし方をする子が多かった。田村さんの「寝そべった状態で跳ねる」パフォーマンスには皆驚き歓声があがった。

●すり足で歩く、大切なものを運ぶ、獣の形を学ぶ

身体のを意識してすり足で歩く。次に「大切なモノを抱える形」や、「まぶしさを感じた形」を維持したまま歩くことを体験し、それぞれの「大切なモノ」「まぶしさ」といった個性が踊りになる感覚を味わう。

次に、大駱駝艦の「獣の形」を学ぶ。角が生える、牙が生える、尻尾が生えるなど、その過程を自由に想像して獣に変身してもらうことで、様々な個性が開く様を見ることができた。

●デモンストレーション、天賦典式

田村さんと奥山さんによるデモンストレーションを見る。皆初めての舞踏に目を奪われていた。

最後に、田村さんが「天賦典式（この世に生まれ入ったことこそ大いなる才能とする）」の話をしてまとめた。皆が真剣に耳を傾け、頷き、田村さんに集中していた。子ども達からは「もっと話を聞きたかった」「自由になれた気がした」と感想があり、職員の方々からも「田村さんからのメッセージが子ども達に伝わるのを感じられた」「実施して良かった」と言っていた。

公演

『大駱駝艦・田村一行 舞踏公演「薔薇とお接待」』



今回使用したホールは、舞台・客席の自由な組み替えができる特徴を持つ。2 回目の下見時に、田村さんから「高知の風土や文化を取り入れた作品」で「本舞台以外に花道を作り、アクティグエリアを広げたい」と要望があった。こちらの考えとも合致するものであったため、本番一週間のスケジュールは余裕のある仕込の時間を確保し、実際に舞台を組みながら創り上げていった。

広報としては、新聞・テレビの告知取材や CM の放映をお願いし、また文化施設以外にもチラシを置かせてもらい周知に力を入れた。チケットの売れは一週間前まで 30 枚に届かなかったが、直前で大きく伸びた。当日にたまたま来た人でも気兼ねなく鑑賞できるよう、前売券と当日券の料金を同額に設定したことも一因だと考える。また、やはり自分で直接気持ちを伝え、呼びかけることも重要だと感じる。結果として増席をしての満員となったが、直前でのキャンセルを含めると 100 名を超えることになり、徹底したチケット管理は今後の課題であると考えます。

公演は遍路文化を演出する花道や山門の仁王像を模したような舞台、土佐の酒宴等の要素を随所に盛り込み、全体として「旅」や「縁」など、人生を思わせるものでありながらも、開演直後に歌のパフォーマンスを取り入れるなど、新しい舞踏の形を来場者に味わってもらえる内容であった。下記のアンケート結果にもあるように、来場者の多くはステレオタイプな舞踏ではないことが強く印象に残ったようだった。終演後もカーテンコールの拍手が鳴りやまず、来場者の満足度を感じられた。

●来場者アンケートより（感想）

- ・身体全部を使った自由な表現が気持ちよかったです！また見たいです！
- ・奇妙な人々と出会えました。良かったです。
- ・とても明るい作品でびっくりした。
- ・遠方から来て良かったです。以前受けたことのある WS の動きも組み込まれており非常に楽しめました。身体の集中力に目がひかれました。歩くことの重さ、指先までの空気背景が目につりました。
- ・一挙一動に心が動かされました。面白かったです。
- ・出演者のカラダの中に、今なにが駆け巡っているのかたくさん想像しました。素晴らしい公演でした。
- ・いっぱい動く舞踏もあるのだと。違う分野の田村さんもいいかも。
- ・初めてで、まだ言葉で表現できないが、知ること観ることができてうれしかった。
- ・不思議な世界に迷い込んだようでした。現実から一瞬離れた感じがすごく新鮮でした。
- ・初めてこのような舞台を観させていただいて衝撃を受けました。身体の中から生の力を感じることが出来ました。言葉にしにくいですが。感激しました、ありがとうございました。
- ・県外人から見た高知の文化の特性がとても誇張されていて興味深かったです。

●この事業への応募動機

近年の文化事業は地域性を重要視する傾向にあり、当事業団も地域住民とのつながりを大きな目標に掲げている。これは長期的に継続して取り組まなければ達成し得ず、地域内外問わず、多くの分野、多くの人を巻き込みながら、常に成果を更新していく必要がある。

「ダン活」はコンテンポラリーダンスによる新たな支持層の獲得を見込め、また公演だけでなくアウトリーチや公募ワークショップの実施は、地域と新しいつながりを生む可能性のある事業であると判断した。

●事業のねらいと企画のポイント

当初はコンテンポラリーダンスの紹介という考えがあり、わかりやすさや楽しさを感じられるアーティストを選ぶ予定であった。しかし、研修での田村さんとの出会いにより、自分が思いめぐらせていた「表現」への一つの解答を得ることができ「自分の感動を多くの人々と共感したい」「田村さんを紹介したい」という意志のもと、事業にあたるようになった。

地域交流プログラムでは「表現の楽しさ」を感じてもらいたいと思い、特にアウトリーチ先の選定は、通り一遍のものにならないように意識した。参加者がどういった状況にあるのか、その人々に自分が何を伝えたいのかを明確にし、それぞれの施設・団体に自分の中でテーマを設けて企画を進めた。下見の前に直接お話をすることも、そのテーマに基づき、出来る限り自分の言葉で伝えることを大切にすることで、共感を得られたのではないと思う。他方で、直接声掛けが出来ない方にも興味を持ってもらおうと、チラシデザインは目を惹くように、また裏面には自分の考えを載せ、単なるイベント紹介に留まらないように力を入れた。

●企画実施にあたり苦労した点

自分の感動を他人に伝えられるよう言葉に落とし込むことに最も時間を要した。研修中からコンテンポラリーダンスの伝え方は苦労すると言われていたので、一ジャンルを紹介するのではなく「田村一行というすごい舞踏家」「舞踏というすごい表現」という伝え方をしようと考えていた。

この部分は本事業の根幹にあたると捉えており、また地域交流プログラムやチラシ作成、集客などの起点となるものでもあるため、何度も練り直すことになった。

●事業の成果

多くの方々とつながりが生まれたと感じている。アウトリーチ先の職員の方からも、ワークショップ参加者からも次回の実施を望む声が多く、また誘ってくださいと言っていただけた。特に教育研究所の方々はインリーチから公演まで参加・来場していただき、これからも協力し合える関係でいたいと考えている。

また、公演においては、舞踏に対する見方の変化、舞踏による価値観の転換を多くの来場者が感じ取ったようで、アンケートは7割回収され、そのほぼ全てが満足の高い公演だったと回答している。ねらいとして考えていた「表現の楽しさ」を、関わった多くの人に感じていただけたのではないだろうか。

自分自身が人とのつながりの大きさに改めて気づけたことも大きい。初めて訪れたお店で持参したチラシを褒められ、後日そのチラシを見てワークショップ、公演に来られた方もいた。今回の事業の成果は、直接的にも間接的にも人でつながって成り立ったものだと感じている。

●反省点、今後の課題など

初めて主担当として動いた事業であったため、中心に立った動きがうまく出来ず、周りが見えていない状況がいくつもあった。気づいていないところで誰かが仕事を負担してくれて、何とか終えられたという気持ち強い。田村さんをはじめ関係者の皆様には心からの感謝を申し上げたい。

また、表記の間違いなど、細かいが重いミスがいくつかあった。事業全体が滞るようなものではなかったが、注力することで防げるものが多くあることは念頭に置かなければならない。

今回、ダンスへの関心は限定的かもしれないが、表現への関心は誰しものだと確信を得た。次回も様々な方々へアプローチしたい。

●この地域のダン活の特徴

高知市にはコンテンポラリーダンスがすでに根付いているというイメージがある。今回のかるぼーとにも実績がある。しかし、ダン活の事業プログラム（公演のみならず地域交流プログラムとしてのアウトリーチやワークショップの開催）に即していえば、そうそうスムーズに一筋縄ではいかない課題が生じることは否めない。担当者は20代半ばの生粋の高知県民（大学時代に離れた時期はあったようであるが）で、この事業で初めての主担当を任された。

研修に臨む段階では、所属する財団職員の立場から、あらかじめ準備していた大きな目標があったようだが、実際、研修を終えた頃には、自分がこれだと信じるアーティストで事業を実施したい、高知の人々に紹介したいとの確たる思いが生じ、実現に至ったことが、今回の事業全般に大きく影響したと思う。その確たる熱い思いと説得が組織内の先輩方やアウトリーチ先へ十分に伝わったのを実感できたからである。一例として、最初は懸念していた施設の指導員がインリーチに参加して安心し、より積極的になられたこと、そして実施後はやってよかったと笑顔になってくださったことが挙げられる。また、別の施設では、アーティストの田村一行さんの師匠の旧友がかつてワークショップを実施された経緯から話が弾み、良き縁が必然的に導かれていると思われた。

公演では、田村さんが仮設花道など、かなりオリジナリティ溢れる劇場空間を希望されたが、すべてに応えるスタッフの意気込み、実力が結実された。

初めて主担当となった若葉マークの若者を叱咤激励し、陰に回ってサポートする様子、担当者も諸先輩たちに相談しながら指導に耳を傾ける真摯な姿勢が随所に見受けられた。

また、公演当日、スタッフ（映像収録など）として無償でヘルプに来てくれた仲間達からも、普段から皆で助け合っている良い関係性が感じられた。

さらに今回の上演作品のテーマとなったお遍路さんが巡礼するお寺を巡ったり、高知の風土・気質などについての情報や伝統的な文化（祭り、催事、食、お酒、お座敷芸など）の紹介や体験に事欠くことなく、ダン活のチーム一丸となって満喫できたことも事業を成功するための大事な要素になったと思う。

「仕事は人なり」「仕事は関わる人々の愛情の賜物」と言えるダン活となった。

●課題とこれからに向けて

高知市内には、県立、市立、民間を含めいくつかの“ハコ”が存在している。それぞれのロケーション、キャパ、運営母体などが異なる事から、自ずと担う役割に差別化が生じる。

それでは、かるぼーとが担う役割とは何か？

先輩方が培ってこられた良き関係性を大切に、継承しながら次世代へ展開していく。ダンスに限らず演劇などあらゆる文化・芸術の表現活動を以て未来の高知の夢を育てていこうとする若者達の情熱を汲み取り、公共ホールだからこそ実現できる役割を自覚し、達成していただきたい。諸先輩、同世代の仲間達、この事業を通して知りあった地元の方々とのネットワークを大切に、皆の協力を存分に得ながら、きっと実現できると確信、期待し、頼もしく思う。

大船渡市民文化会館 実施データ

実施団体	大船渡市
実施ホール	大船渡市民文化会館
実施期間	平成 27 年 2 月 17 日(火)～2 月 23 日(月)
アーティスト等	アーティスト:坂本公成+森裕子 共演者:野村香子 テクニカルスタッフ等:渡川知彦(舞台監督)
コーディネーター	花光 潤子

■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)

12 月 3 日(水) 18:30～20:00、アウトリーチ先教職員・施設職員・ホール関係者、13 名、大船渡市民文化会館

■地域交流プログラム

アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)

- ① 2 月 18 日(水) 10:35～12:10、大船渡市立吉浜小学校、1・2 年生、23 名、多目的ホール
- ② 2 月 18 日(水) 13:25～15:00、大船渡市立吉浜小学校、3・4 年生、22 名、多目的ホール
- ③ 2 月 19 日(木) 10:30～12:00、大船渡市立日頃市小学校、1・2 年生、20 名、隣接中学校多目的ホール
- ④ 2 月 19 日(木) 15:00～16:30、仮設住宅入居者および仮設住宅支援員事務局職員、8 名、ホートン&こみおか

公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 2 月 17 日(火) 18:30～20:00、小学生以上、一般 1,500 円、高校生以下 500 円、20 名、大船渡市民文化会館

※参加料:それぞれ公演チケット 1 枚付き

公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『夏の庭 2015』*ワークショップ生参加
『怪物』
『きざはし』
- 2 月 22 日(日)、14:00 開演(13:30 開場)
- 坂本公成+森裕子、野村香子、ワークショップ参加者 10 名
- 一般 1,500 円(当日 1,700 円)、高校生以下 500 円(当日 700 円)
- 大船渡市民文化会館 マルチスペース
- 59 名



スケジュール

岩手県大船渡市／大船渡市民文化会館

	下見①	
	8/19(火)	8/20(水)
9:00		
10:00		テクニカル打合せ
11:00		宿泊場所下見
12:00		
13:00		日頃市小下見
14:00	ホール入り	仮設住宅コミュニティ施設下見
15:00	吉浜小下見	ホール出発
16:00	事業打合せ	
17:00	↓	
18:00		
19:00	↓	
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	12/3(水)	12/4(木)
		コミュニティFM収録
		地元パレ教室代表面会
		事業打合せ
		↓
		↓
	ホール入り	
	事業テクニカル打合せ	ホール出発
	↓	
	インリーチ準備	
	地元新聞取材	
	インリーチ	
	1日目振返り	

	実施期間						
	2/17(火)	2/18(水)	2/19(木)	2/20(金)	2/21(土)	2/22(日)	2/23(月)
9:00		リリウム・客席 舞台仕込開始	舞台仕込続き			公演準備	アーティスト出発
10:00		吉浜小学校 アウトリーチ①	日頃市小学校 アウトリーチ	舞台仕込続き		↓	
11:00		↓	↓	↓	スタッフ・キャスト ホール入り	スタッフ・キャスト ホール入り	
12:00		給食交流		アーティスト ホール入り	リハーサル 公演準備など	創作WS参加者 集合・通し稽古	
13:00		吉浜小学校 アウトリーチ②	昼食	公演準備 調整等		開場	
14:00		↓	↓	↓	↓	公演	
15:00	アーティスト入り		サポートセンターとみおか アウトリーチ	照明シュート など	創作WS参加者 集合	↓	
16:00	打合せ 公募WS準備	創作WS準備	↓	↓	創作WS参加者 リハーサル	創作WS参加者 キャスト打上	
17:00	↓	↓	創作WS準備	↓	↓		
18:00	公募WS					舞台バラシ終了	
19:00	↓	創作WS	創作WS	場当たり	ゲネプロ	打ち上げ	
20:00		↓	↓	↓	↓	↓	
21:00	夕食兼交流会	夕食	夕食	夕食	振返りなど		
22:00							

地域交流プログラム

●アウトリーチ

ホールに足を運ぶことが難しい地区の小学生に、コンテンポラリーダンスに触れることにより、体を動かすこと、表現することの楽しさを伝えたいと考え、主にホールから遠方の小学校に声掛けして実施を企画。また、仮設住宅入居者にコンテンポラリーダンスを通じて、運動不足解消とリフレッシュ、住民同士のコミュニケーションを高めてもらいたいと考え、市内で最も大規模な仮設住宅団地内にあるコミュニティ施設での実施を企画しました。小学校でのアウトリーチを企画した背景には、ダンスや表現の授業で、先生方が指導方法に困っていると聞いたことも大きかったです。

小学校へのアウトリーチは 2 校に訪問。学校の通常授業ではどうしても「こうしなさい」という指示するような指導になってしまうのは対症的に、どんな表現・動きも自由であるコンテンポラリーダンスは、子供たちにとって新鮮な体験になり、心から解放されて自由に表現や動きに元気に取り組んでいるのが、どの学校・学年においてもとても印象的でした。担任の先生から、アウトリーチ受講後「生徒たち自ら工夫して表現に取り組むようになった。」「普段の自分たちの指導範囲の中ではできない、貴重な体験になった。」などの意見感想があり、体を動かすこと、表現することの楽しさを伝えることができたと感じました。

仮設住宅コミュニティ施設でのアウトリーチでは、実施時間帯が平日午後であったためか、ほぼ全員が 60 歳代以上（最高は 80 歳代）の高齢者で、少人数での実施となってしまいました。参加者は、リラックスした和気あいあいとした雰囲気の中で楽しんで頂いたようですが、前半 40 分程を過ぎたあたりで体力的に厳しくなり、ほぼ全員が休憩モードに入ってしまう事態。しかし、森さん坂本さんの機転により、会場内の小上がり舞台を額縁に見立ててピクチャー遊びをし、時間いっぱい参加者と楽しみました。引き篋もりがちな仮設住宅入居者の皆さんへ、楽しみながら体を動かしてリフレッシュして頂こうと企画しましたが、施設職員の方によると「ダンス」というフレーズに抵抗感があり、参加を見送った人もいたとのこと。実施する時間帯を見直すと共に、参加者について訪問先関係者にもう少し丁寧な情報収集をし、告知する際に、もう少し間口が広い＝参加しやすいと感じられるような工夫が必要と感じました。



吉浜小学校



吉浜小学校



日頃市小学校



サポートセンターとみおか

●公募型ワークショップ

より触れる機会を増やしたいと考え、ワークショップは公募型のオープンワークショップの他に、オープンワークショップを受講した上で希望する人が公演出演を目指す創作ワークショップを企画。オープンワークショップでは、コンタクトインプロビゼーションの手法、基礎的な動き、考え方を体験することを主な目標とし、表現と言える動きの一步手前までの内容となりました。アウトリーチとは違い、ワークショップでは初対面の人が多いので、戸惑う人がいるのではと思いましたが、森さん坂本さんの関西人独特の話し口によって、和気あいあいとした雰囲気で行いました。終了後、「県内でコンタクトインプロのワークショップを行っている人がいるのか？」などの質問があり、コンテンポラリーダンスへの関心の高まりが感じられました。



関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチで訪問する小学校教職員、仮設住宅コミュニティ施設職員、仮設住宅支援員事務局職員、ホール職員へ呼びかけして参加してもらい、どんなワークショップをするのか理解を深めることを目的として実施した他、地元新聞記者にも参加してもらい、その後の事業PRを円滑になるよう努めました。初対面の人もいる中で、どんな年齢対象であっても、足の揉み合いっこ&自己紹介からはじまるワークショップに、最初は戸惑いの表情も見られましたが、参加者みんなで動きを作っていくにしたがい、お互いに打ち解け、終了後はみんな清々しい笑顔で終わりました。アウトリーチ先小学校の教職員に参加して内容に対して理解頂くことで、アウトリーチ実施時に先生方のさり気ないサポートがあり、スムーズにアウトリーチが行えたと感じました。



地域交流プログラム内容

2月18日（水） 吉浜小学校1・2年生

●ウォーミングアップ

先生からの前説のあと手を繋いで円になって座り、ウォーミングアップ開始。自分の足を隣の人の腿に預けて、足の裏や指のマッサージをしあったり、カウントに合わせた太腿の揉み合いっこ。円のままみんなで四つん這いになってトンネルを作り、トンネル潜り。色んな動物になって駆けっこをしたり。この時点で、子どもたちは大はしゃぎ。

●コンタクト

ペアを作り、転がった友達を引っ張りながら駆けっこ。交互に差し出した手のひらに手のひらを合わせながら、スペースの端から端まで移動。手のひらを大きく出す事によって、色んなポーズが生まれる。人数の都合で、異性同士のペアが出来るが、嫌がらずに組んでいたのが印象に残った。

●カウンターバランス

片手を繋ぎお互いに「引っ張る&止まる」「引っ張る&止まる」を交互に繰り返しながら移動。お互いの力、動きを感じ意識する。

●人形ごっこ

ペアで動かす人と人形を決め、動かす人が人形の体を自由に動かして色んな形を作る。人形の方はその形でポーズ。出来た人形の群れを少し離れてみて修正。完成した人形たちを移動させて、一つのシーンを作る。できたらカウントに合わせて、人形たちは融けていったり、元に戻ったりする。動かす人と人形を入れ替えて、もうワンシーンを作って遊ぶ。

●ピクチャー作り

体のどこかを触れさせながらポーズをし、それを重ね合わせることで、一つの絵のようなシーンを作る。人形ごっこと同じように、カウントで融けたり戻ったり。

●形リレー

前の人が作ったポーズを真似ながら移動して、会場を一周する。

収集がつかなくなりそうな場面もありましたが、モノクロームサーカスのお二人と楽しみながら、コンタクトインプロを体験できたと思います。



公演

『ばばばっ!!コンテンポラリーダンスって何?』 Monochrome Circus コンテンポラリーダンス公演



コンテンポラリーダンスに触れる機会と関わる人をできるだけ増やしたいと考え、市民が参加する演目を組み入れて頂くようお願いして『夏の庭 2015』の上演が決まり、共演者野村さんのソロ作品『怪物』、モノクロームサーカスのお二人の作品『きざはし』を加えて3作品構成となりました。上演順は、震災後の様々な心理的感情を考慮して明るい印象で終わることができる『夏の庭 2015』を最後に上演することを検討しましたが、地元バレエ教室先生からのアドバイスも受け、コンテンポラリーダンスにまったく触れたことのない地域の人が、興味を持って飽きずに最後まで鑑賞して下さるためには、まず市民参加の作品からの上演にした方が良くと考え、『夏の庭 2015』『怪物』『きざはし』の順番での上演としました。『夏の庭 2015』は短い練習期間だったにも関わらず、市民参加部分のシーンはより印象的なものになりました。

公演タイトルやチラシのキャッチコピー部分には方言（「ばばば」は「じぇじぇじぇ」の気仙語版）を入れ、より地域の人に興味を持ってもらえるように努めました。また、下見2回目の時に収録したインタビュー形式の番組を、地域コミュニティエフエムで事業期間中放送。インリーチ時に地元新聞記者に参加してもらって最初から巻き込んだ結果、新聞記事掲載回数が最も多い事業になりました。

●来場者アンケートより（感想）

- ・（公演に参加した娘さんにとって）とても貴重な時間だったようです。短い期間でしたが、とても楽しそうでした。本番では、いつもとは違う表情・姿が見れました。また、このような企画があったら、参加させたいと思います。ありがとうございました。最後になぜか涙があふれました。（40歳代/女性）
- ・コンテンポラリーダンスをはじめて見ました。新しい世界でした。（30歳代/女性）
- ・生まれてはじめて見ましたが、とても不思議な世界でした。（40歳代/女性）
- ・初めてみました。演技はとても美しいものでした。音も自然の声で、聞き入れることができたと思います。このような表現もあるのかと思いました。何かこれについての説明があってもいいかなと思いました。（60歳代/女性）
- ・ある程度の知識を持って観に来るかどうか、とっかかりが難しい面もあるが、自分的にはかなり引き込まれた。野村さんの「怪物」は中性的な美が美しい。坂本さん・森さんの「きざはし」も興味深いものがあった。（50歳代/男性）

●この事業への応募動機

東日本大震災で被災した市民の心的ストレスは、被災直後よりも大きくなってきていると言われ、心と体のケアが重要になってきていると思われまます。また、芸術文化の様々な支援を多方面から頂いていますが、それを受け入れる器＝市民の文化度が不足しているため、その支援が一過性のもになりがちになっていると思われまます。市民が将来にわたって心身ともに健康で、心豊かな生活を送るためには、優れた芸術文化を提供するだけでなく、それに触れさせる、参加させることが当館の重要なミッションと考え、体を動かしながら芸術文化に触れることが出来るコンテンポラリーダンスを通じて、地域文化の活性化と、市民や子供たちの心身の健康と、地域の復興を後押ししたいと考えて応募しました。

●事業のねらいと企画のポイント

ほとんど触れる機会のないコンテンポラリーダンス作品の鑑賞する場を提供すると共に、コンテンポラリーダンスに参加する、触れることにより、身体表現や演ずることの楽しさを市民、子供たちに体感してもらえよう事業にし、幅広く芸術文化の裾野を広げること、次世代の舞台芸術の担い手を育成することに繋げることを目指しました。

●企画実施にあたり苦労した点

東日本大震災後、さまざまな芸術文化支援を受けることで、当市を含めた気仙地区（大船渡市、陸前高田市、住田町）住民は、知らず知らずの内にコンテンポラリーダンスを見たり参加したりしていましたが、芸術文化事業として本格的なコンテンポラリーダンスに触れることは初めてのことで認識していましたが、岩手県内でもその機会は限られています。そのため、告知広報・ワークショップ・アウトリーチ・公演、全てに渡って探りながらの事業展開となりました。また、年齢が上がるにつれて「ダンス」と言う言葉に抵抗感があり、更に「コンテンポラリー」と言う言葉は全くの未知状態。どうアプローチしたら良いか分からなくなる事も多々ありました。

●事業の成果

小学校アウトリーチで心から開放されて一生懸命に動く、表現する児童たちの様子を見て、体を動かすこと・表現することの楽しさを感じてもらうことができ、次世代の舞台芸術の担い手を育成することには繋げることができたと思います。また、オープンワークショップ、仮設住宅コミュニティ施設においては、参加者集め等で少しうまくいかなかった面もありますが、参加して頂いた人々にはコンタクトインプロという新しい体験を提供することができました。コンタクトインプロは、コンテンポラリーダンスへと繋げるきっかけとして、誰でも参加できる手法であると感じられましたし、単なる運動不足解消の他に、コミュニケーション不足などの地域コミュニティが抱える問題を解決する一つの手法として、様々な場面において活用されても良いと思われました。

●反省点、今後の課題など

全体研修会でワークショップを受けたりディスカッションしたりするなどして、コンテンポラリーダンスについて一通り理解したつもりでしたが、それを自分なりに消化し、他の人に向けて自分の言葉で説明できるようローカライズする作業に時間を割くことができないまま事業に向かってしまい、モノクロームサーカスのお二人にはご負担を掛けてしまいました。今回の事業ではアーティストの力によって当方の足りない部分を補って頂きましたが、自分なりのローカライズが完了していれば、広く参加・来場が見込め、事業効果を高めることができたと思います。

また、公演準備リハーサルを進めていく過程で気づいたことなのですが、アーティストの作品を整えられた環境において直に見ることは、自分へのローカライズ作業として、とても重要と感じられました。DVD映像資料、全体研修会でのアーティストプレゼンにおいて、作品（の一部）を見たり知ることには出来ますが、公演として照明・音響・映像がセッティングされた（作りこまれた）空間において見るのと比べて、アーティスト本人と作品から直接受けるインスピレーションに大きな差があります。コンテンポラリーダンスは、アーティストそれぞれが、それぞれ独自の表現をする芸術であるので、地方にいと大変難しいことですが、直接アーティストの公演を見ることでインスピレーションを得て、自分の地域に向けてローカライズすることへ繋げる事が必要と思われました。

●この地域のダン活の特徴

岩手県三陸海岸に位置する大船渡市は、先の東日本大震災で津波の大きな被害を受けた。幸い岩礁のように高台にそびえ立つリアスホールは浸水を免れたが、町の商店街は跡形もなく波にのまれてしまった。あれから約4年、町の復興と人々の暮らしはどうなったのだろうか。産業や経済が大きな打撃を受けた状況下で、市民の豊かな生活を象徴するような文化芸術活動は維持されているのだろうか。でもこんな時だからこそ、人々の暮らしの慰めや励ましとして、文化芸術の存在価値が発揮されるのではないだろうか。

私は震災後のボランティア支援で、ダンサーと共に三陸の避難所や仮設住宅を訪れた経験がある。リアスホールも当時は避難所として多くの人々を受け入れ、その後は次々訪れる支援コンサートやイベントに会場を提供していたのだろう。そうした一過性の娯楽が一段落し収束した今、ホールに求められているものは何だろう。壊れかけたコミュニティの輪を文化芸術によってもう一度繋ぐ、新しい地域づくりの磁場になって欲しい。そう簡単ではないけれど、そうなって欲しいと勝手な期待を抱いて現地に到着した。

人が繋がる磁場…その触媒師(?)として送り込まれたのが、モノクロームサーカスの坂本公成と森裕子の二人だった。彼らのワークショップは輪になって他人の裸足の足に触れ、揉むことから始まった。次にペアになって一方が目を瞑ったまま相手に着いて行く。わずかな身体の接触だけで、相手から発せられる方向や速さの指示を感じ取らなければならない。全身の感覚を集中させるが、目からの情報は無く真っ暗闇なので、相手に身を委ね全幅の信頼を置かなければ、怖くて一步も踏み出せない。身体の感覚だけが頼りだ。こうした相手の気持ちや意図を身体で読み取って身体で応えることをベースに、即興的に触れ合いながら踊るコンタクト・インプロが彼らのダンスの真髄だ。

上演したのは、『夏の庭 2015』『怪物』『きざはし』の三作品。『夏の庭 2015』では、ワークショップ参加者の中から7歳から39歳までの10人の有志が、モノクロームと共演した。運動会で駆け回る子どもたちの記憶の残像や夏の雲、互いに支え合い歩いていく人のイメージなどを身体いっぱい表現していた。参加した小・中学生の多くが、今回担当した中村さんの奥さんが主宰する大船渡バレエ教室の子どもたちだった。先生と一緒に自由闊達に踊る子どもたちを見てみると、日頃からのびのびと指導されているのだなあと感じた。この経験によって益々ダンスを好きになってくれたらと願う。この子どもたちの真剣なまなざしや感動の輝きが、明日の大船渡の再生を約束してくれるに違いない。

●課題とこれからのに向けて

折しも、8月の下見時期には大船渡で第一回目の三陸国際芸術祭が開催された。地元の郷土芸能とコンテンポラリーダンスなどの文化芸術を核にして、三陸の復興と発展を目指そうという試みだ。獅子躍や虎舞が勇壮な舞いを披露し、創作コミュニティダンスには沢山の子どもたちや大人が参加した。しかし残念ながら、芸術祭で湧き上がった人々の熱気を今回のダン活では活かすことができなかった。公演情報やワークショップ参加への呼びかけは、その人たちに十分届かなかった。折角ダンスの楽しさを体験した人たちが地元に住むのに、彼らの熱い夏の記憶をなぜ引き継げなかったのか。例え地元民しかわからない政治的な反目や利害関係が複雑に絡んでいたとしても、だ。外から見たら、ああ、もったいないと言わざるを得ない。

モノクロームの推奨するコンタクト・インプロ＝身体のコミュニケーションは、職業も年齢も性別も、社会的上下関係や政治的立場など関係なく、他人の裸足に触れ、撫で、信頼することから始まる。それは人と人とのコミュニケーションを可能にする手法であり、それがダンスの基盤となっている。ワークショップを経験すれば、ダンスには利害や社会的立場を超えて人を緩やかに繋ぐ力があることに気付く。担当者にはそうした信念を持って、一人でも多くの人にダンスに触れる機会を提供するために突き進んで欲しいと思う。

アウトリーチ先の小学校では、沢山の子どもたちの素敵な笑顔に出会った。創作ではおもしろいアイデアに思わず笑った。それらは大船渡の明日の希望だ。一方、仮設住宅の集会所には、数名の高齢者が参加した。その中の一人のお婆さんは、「新しい家を建てて仮設住宅を出たけれど、そこには友達もいないし昼間は家で独りきり。寂しいからここに来ている」と言った。この人たちのために、ダンスができることはまだまだある。それを提供する地域のホールの役割もまだまだたくさんあると、改めて思った。リアスホールの今後の活動を応援し叱咤激励せずにはられない。

「がんばっぺし、リアスホール！」

●地域交流プログラムの内容について

田畑さんの「タバマキです!」、アシスタントの王下さんの「ワンちゃんです!」と元気いっぱい挨拶から始まるワークショップは、小学4年生、短大生、高齢者、そして劇場で行った公募型と地域の幅広い対象に向けて行われた。どんなことが始まるのかそわそわしている参加者を大きな声とチャーミングな動きで一気に巻込んでしまう。言葉でしっかりと説明をしてから身体に意識を向けるのではなく、一緒に楽しくやっていたら「あれ!? 私、いつのまにか踊っている!」と思わされるような経験になったのではないかと思う。参加者それぞれの特徴や状況に応じて導いていく過程を変えながらも、基本的に共通した内容が展開され、段階を踏みながら抵抗感なく参加できるように工夫されていた。

- ・ルールにそって動いてみる

ペアになり、一方が相手の顔面に10cmほどの触れない距離を保って手のひらを向ける。ルールは、その手と顔の距離を変えないこと。よって、手が上下左右に動かされるのに合わせて相手は動いていかなければならない。まるで催眠術のように操り操られる。自分がどんな風に手を動かせば、相手の面白い動きを引き出せるのかを試行し、もう一方は相手に従って動くことに新鮮な楽しさを感じながら、自然とお互いを意識する関係性が立ち上がっていた。

他にも立ち方、身体力の入れ方を「何%」というように表現し、講師が指定する%に合わせて動く。例えば50%だと半分の脱力、5%だと寝転んで首だけが上がっている状態など。それを何%という言葉から、笛の音の強弱という抽象的なものに次第に置き換えられても動き続けた。

- ・動きをつくりだす

「○○○です」と名前(ニックネームもあり)を言いながら、各々ひとつのポーズあるいは動きをつくる。円になり順番に見せ合い、お互いの動きを覚え繋げていった。言葉だけでなく、短いものでも身体の動きが伴うことでパーソナリティが反映された自己紹介ダンスが生まれていた。

他にも、床に身体が触れる箇所数が制限されたなかで動くというものもあった。小学校ではこれを数名での作業に発展させ、自由に創作するパートも含め最後に少しグループ発表も行った。

特に印象的だったことは、小学校でおとなしくひとりでいることが多そうな女の子が以前からダンスには強い興味を持っており、自由に動きを考えていく作業ではみんなが悩んで動けないなか、彼女は次々にユニークなダンスを披露した。グループワークの際にはリーダー的な存在となっており、子どもたちのなかで日常の教室や生活とは違う関係が生まれていた。

●公演の内容について

作品発表を伴う公募ワークショップは、参加者集めに関しては相当苦労されていたが、少数精鋭、高校演劇部員や小学生を含む個性的な面々が集まった。現代ダンスに取り組むのはほぼ初体験だったこともあり、最初は思い切って何かをやることに対する恥ずかしさや自信のなさがみんなの身体にも現れ、リハーサルのなかではそこを克服することを厳しく指摘されていた。特に高校演劇部員にとっては、新しい表現との出会いに戸惑いや葛藤もあったかもしれない。連日続くリハーサルに時には悔し涙を流したり、体調を崩したりする人もいたが、最終的には全員がそろって舞台に立つことができた。小学生の女の子が『黒猫のタンゴ』に合わせて踊るソロ、高校演劇部員のシュールな不思議な魅力のシーンなど、それぞれの魅力を引き出した構成と振付、ダンサーのナビゲートによって素敵な作品となった。実質5日間という短い期間ながら、講師との信頼関係が築かれ充実した時間を過ごしたことが作品からも感じる事ができた。

カンパニーが上演した『メルヘン』は、3名のダンサーとコントラバスの生演奏によるアンサンブルが魅力の作品。途中、ダンサーがウクレレを片手に客席に入って行く場面もあり、脱力系のほっこりとしたシーンと緊迫したダンスシーンが縦横にちりばめられている。無音のなか田畑さんが登場しポーズを取ると同時に音楽が響きダンスが始まる。緊張の瞬間であるが、ここ滝川市ではひと味違った。「まきちゃん」「待ってましたー」とワークショップに参加した人たちから声がかかり、フレンドリーな和やかなムードに包まれた。現代ダンスは「自由」であるということが尊重されることが多い。観客も静かにじっと見つめる以外にも、もっと自由な観劇の可能性があるのでないかと考えさせられる光景だった。

●地域交流プログラムの内容について

赤丸急上昇のワークショップはいつも笑いが絶えない。終わった後には、たった数時間一緒に過ごしただけとは思えないほどの仲の良さになっている人たちも多い。それは名札をつけるところから工夫されており、ニックネームを書くときふたりが笑顔で「○○ちゃん、よろしく」と挨拶をしてくれることでまず親密さがぐっと増す。ワークショップ中も彼女たちは名前を呼ぶことを大切にしている。たとえ数時間の関わりであったとしても「誰か」ではなく、名前のある顔を合わせた個々の対象と向かい合おうとしており、自然と参加者間にもそのような意識が生まれてくる。

今回のダン活では、保育園（5歳児）、小学4年生の3クラス、そして劇場で行った公募型のワークショップが行われた。保育園でのワークショップは、いち早く7月の下見時に実施。園内の0～6歳児全員が集まり定期的に行われている「お誕生会」に合わせて行い、赤丸急上昇は秘密のスペシャルゲストとして登場。得意のお面でのダンス（余興!?）を披露し、子どもたちの人気者となっていた。その興奮が冷めやまない状況でワークショップに突入し、思いっきり大の字に寝転んで想像力を働かせたり、講師の動きを真似たりと元気に動き回った。先生たちは、普段、集団行動が苦手な子ども集中力を保って一緒にやっている様子にとっても驚かされていた。

小学生対象と公募型ワークショップで行った主な内容は以下である。

・ウォーミングアップ

歩き回りながら目が合った人とランダムに「お願いします」「めんそーれ」などの挨拶を交わしながら握手をしていく。その後、出会った人とジャンケン。負けた人は勝った人に片足を預け、ケンケンをしながら後に続いていき、最終的にはひとつの長い列になる。

他にも、2人組でお互いに身体を委ねたり、目を瞑ってエスコートされたり、相撲のように押し合ったりと丁寧なウォーミングアップを行う。最初は、このようなゲーム的な要素を取り入れたものを軽快に続けていくことで、身体を抵抗なく動かしていく導入部となっていた。

・顔ダンス

音楽に合わせて、顔面を手で上下に動かし「変顔」を作る。子どもも大人も、この動きをやるのも見るのも本当に楽しそうだった。手や足だけでなく顔なども含め、身体の全てのパーツがダンスに使える要素であり、大きく激しく動かすだけではない動きの面白さを発掘しようとしていたように思う。

・隙間を見つける、輪郭をなぞる

最初は2人組で相手の身体の間隙（例えば腕と胴体の間、足と足の間など）を見つけ、そこに入り込んで行く。または、相手の身体の間隙を自分の身体でなぞる。そうされると一方は、ゆっくりと地面に向かって解ける。それぞれの関係に作用して動きが生み出される。人数を増やし、隙間や輪郭の見つけ方をいろいろ工夫することでバリエーションが生まれた。最後には、ワークショップで行った様々な動きを組み合わせ音楽もつけ、ひとつの流れになっていた。

●公演の内容について

企画当初より、担当者には地元のアーティストや表現と現代ダンスのコラボレーションを実現したい思いが強くあった。そこで共演者として白羽の矢が立ったのが、那覇市芸術監督で演出家の安田辰也さんだった。打合せやリハーサルだけでなく、広報活動やアウトリーチなども含め時間を共有していただき、ひとつひとつ話し合いながらオリジナルの新作『ハイサイ! あなたとアカナーの物語』が創作された。沖縄のアカナーという妖怪の存在をベースにファンタジーな雰囲気が全体を包みながらも、3人の喜怒哀楽のリアリティがはっきりと感じられる舞台となった。台詞あり、三線あり、ダンスありとスウェーデンサーカスのピエロとしての活動経歴もある安田さんの多彩な魅力がいかに発揮されていた。

カンパニー作品『太陽と月』も上演された。こちらは各地域でのダン活でも上演され、ブラッシュアップが図られている作品。タイトルどおり、「陰と陽」がコンセプトとなっている。出会いと別れ、生と死、あなたと私…といった、さまざまなアプローチの両側面をモチーフにしたシーンで構成され、映像や大量のりんごといった小道具も効果的に使用されている。お面のオカンとオトンのシーンは鉄板、観客席から笑いが起こっていた。

最後のカーテンコールは沖縄らしく! 観客もたくさん舞台に呼び込み、安田さんの三線に合わせて一緒に踊り大盛り上がりで幕を閉じた。

●地域交流プログラムの内容について

①若宮小学校でのアウトリーチ（対象：若宮小学校の5年の2クラス）

田畑真希さんのダンスに触れることで、自分の身体や心を開放して、身体全体でダンスを生み出し、友達と共有する作業を深めていった。テンポの良いリズムに合わせて、身体を思いっきり動かし、身体の細部まで意識を向けるアップを行った後、身体の状態の0%～100%までを表現する。二人組になって一人のリードにより、もう一人がフォローする（追っかける）など、動きの連動や協調性から創り出すダンスを体験。

②桃園第二学童クラブへのワークショップ（対象：小学校1～3年生）

遊びを共有するのは得意な子ども達。しかし、いつも活動する仲間が固定化しており、交流が生まれにくいという話を事前に伺った。ワークショップ当日に集まった子ども達は、低学年中心である為、まずは思いっきり身体を使って遊ぶ。またロープなどを使って空間を区切り、その造形の中をくぐって移動するなど、友達との共同作業を意識したプログラムを実施。遊びの延長上にあったワークショップがいつの間にかダンスに変化する瞬間を体験。

③公募ワークショップ～作品上演まで

ワークショップ「60歳からのイケイケライフ」（対象：60歳以上）、「身体を使ってワクワクタイム」（対象：中学生以上）を実施し、その中から上演作品の創作・出演まで参加する「もみじ山ダンサーズ」を募った。

・ワークショップ「60歳からのイケイケライフ」では、身体を丁寧にほぐすことや、マッサージから始め、徐々に踊る身体を作っていく。初対面の参加者同士、最初は緊張していた表情も徐々にほぐれていく。また、ペアで作ったダンスでは、それぞれの人生がにじみ出るようなダンスが生まれる。

・ワークショップ「身体を使ってワクワクタイム」では、地域の住民だけでなく、ダンス・俳優経験のある方も多数参加する。自分のイメージを形にしてみたり、他者と交換してみたり、参加者同士で様々な反応を生み出していく。田畑真希さんのナビゲートにより身体や心がどんどん解き放たれていき、軽くなる姿がみえた。

上記二種類の一般公募ワークショップを経て、老若男女様々な経験を持つ人々が「もみじ山ダンサーズ」として集結し、作品『カーニバル』の創作と上演を試みた。参加者は、田畑真希さんのダンスや人となりに触れ、作品風景の中に少しずつ組み込まれる中、踊る楽しみをみつけ表情も豊かになっていく。参加者の潜在的な魅力や特徴をうまく引き出しダンス作品へと昇華させた。

●公演の内容について

今回の公演では、田畑真希＋タバマ企画、馬喰町バンド、もみじ山ダンサーズで作品『カーニバル』が創作上演された。

アーティストの作品コンセプトとして、今、ここ“中野”で生まれるダンスを創作するという事が大きな指針となっていたため、街のリサーチや、宣伝美術の撮影場所、もみじ山ダンサーズの起用など、地域の今の姿を反映する作品となった。老若男女が出会い、交わりあい、地域発信で生み出すダンスとして積極的な取り組みとなった。また、アーティストにとっても刺激的な体験となったのではないだろうか。

なかのZERO ホールの活動コンセプトであった地域との新たな交流を重ねながら、互いに響きあう形でオリジナルのダンスを生み出すという当初の目的も達成されていたと思う。

●地域交流プログラムの内容について

①高校演劇部員へのワークショップ（対象：湖陵高校、北洋高校、商業高校の演劇部員）

コンタクト・インプロビゼーション（以後、C.I.）の説明から、身体をあたためるアップ、その後、自分の身体の重みを感じて移動、他者や空間（環境）と呼応しながら生み出される C.I.を体験。最初は、パートナーとの共同作業を苦手とする参加者もいたが、アーティストからの言葉がけで、イメージではなく身体の具体的な反応でダンスを創っていくという方法論を学び、理解を深めていった。

②愛国小学校でのワークショップ（対象：小学校6年生、全4クラス）

はじめは自分の身体に意識をむけて細部まで動かしアップを行う。その後、身体や場があったまった状態で、二人組をつかって、身体の一部を持続的に密着させたまま空間を移動し、いろんな動きを創って即興ダンスを生み出していく。終了後の教員との振り返り時に出てきた感想として、普段は静かで奥手な児童が積極的にワークショップに取り組んでいる姿がみられた事や、今回のようにアーティストから学ぶ機会を持てた事が刺激となったという声も聞こえた。

③釧路短期大学幼児教育科でのワークショップ（対象：幼児教育科の学生）

コミュニケーションや表現について考えるワークショップを実施。早朝の授業であったこともあり、まずは身体を温めるため、時間をかけてストレッチを行う。その後、二人組になり C.I.のワークショップを行った。参加者は自分の身体と向き合い、他者とのコミュニケーションの中でダンスを見つけるという新しい体験となった。

③公募ワークショップ～作品上演まで

自分の身体と対話しながら徐々にストレッチ。当日の身体感覚やバランスなどの状態を把握していく。その後、二人組で互いの身体に体重をかけあい身体のどこか一点を密着、徐々にその一点を身体中に移動させながら、その瞬間、その場の二人にしか生まれない即興ダンスを見つける作業が続く。動きのヒントは視界から得ましようとして声掛けされると、客席や、照明、舞台機構すべてがダンス創作の種となる。みるみるうちに参加者の動きや表情が変化していった。

●公演の内容について

今回の公演は、①プロジェクトダンサーズ C.I. Agent・勝部ちこ・鹿島聖子・岩下清香による「日本の本日～くしろよろしく」②岩下清香「音楽とおしゃべり」③勝部ちこ・鹿島聖子・岩下清香による「Phase47 in Kushiro」の三部構成と終演後に開催されるアフタートークを実施。

「日本の本日～くしろよろしく」では、公募ワークショップを経て希望者からプロジェクトダンサーズ C.I. Agent を結成。小学生 WS 参加者 2 名、高校生 WS 参加者 1 名、一般公募 WS1 名の計 4 名が勝部さん、鹿島さんと共に即興ダンスを発表。3 日間にわたる稽古で生まれたモチーフと、少しルールのみ設定し、後は即興でダンスを築き上げる貴重な体験となった。

続いて、岩下清香「音楽とおしゃべり」では、音楽家として C.I.との出会いのお話と、今回の釧路での取り組みを紹介、オリジナル曲の演奏を聴く。

最後に、勝部ちこ・鹿島聖子・岩下清香による「Phase47 in Kushiro」の上演。本作も即興作品であることから、その場で生まれるダンスを発表。釧路市民文化会館の舞台上舞台で即興ダンス・音楽が生まれる瞬間に立ち会う機会となった。

終演後のアフタートークでは、アーティストから C.I.の魅力や、今回の釧路での取り組み、釧路で出会ったメンバーとの創作のプロセスや作品解説などを観客との Q&A を交えながらトークを繰り広げた。

事業資料

たきかわホール

B4 ニつ折り

地域交流プログラム

アウトリーチ

7月9日(水) 滝川市立第一小学校
4年1組、2組



7月9日(水) 滝川市福寿大学



7月10日(木) 福学院大学短期大学部



7月9日(水) 滝川市福寿大学



7月8日(火) 公舞ワークショップ



@たきかわホール

2014. 7. 13(日) 開演15:00 (開演は30分前)

平成26年度公共ホ一ル現代ダンス活性化事業/NPO法人空知文化工房10周年記念事業

主催/NPO法人空知文化工房 共催/一般財団法人空知創造
後援/滝川市、滝川市教育委員会、滝川市文化連盟



田畑真希 Maki TARATA

「タバマ企画」主宰、3歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トウシューズを履いて踊ることにギモンを感じ、更なる表現を追究するため、短期学園短期大学演劇科に入学。野余曲所を経てダンスの世界へ。以詠、ダンサーとして様々な振付家の作品に参加し、国内外の舞台に出演するが、2007年より作品を創り始め、横浜ダンスコレクションF2009にて「未来に羽ばたく横浜舞」、「マスタング舞」をW受賞し、2009年ダンスフェスティバル「MASDANZA」、オランダ、韓国、2010年シンガポール「esplanade」にて自身の作品を上演する。2010年トヨタレオグラフィーアワードファイナリスト。

【タン活】公共ホ一ル現代ダンス活性化事業について
「公共ホ一ル現代ダンス活性化事業(タン活)」は、全国公開で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストと専門家のコーディネーターを市町村の公共ホ一ルに派遣し、アーティストとホ一ルが共同で企画した地域交流プログラムと、公共ホ一ルでの公演を実施するものです。

【アーティスト】 田畑真希
【コーディネーター】 花光潤子
【サブコーディネーター】 小泉由佳子

ワークショップ参加者作品

皆等練習をやって30の練習をしました。私たちがステージをぜひお楽しみください!

梅香 心音
大空 空
小田 聖
坂藤 希音
松村 悠那

メルヘン

振付：田畑真希
ダンサー：田畑真希、山下真司、カスママリコ
音楽・演奏：デジ
衣裳：中車直志、高瀬淳子

観る人の心にどっと触れる、数珠のな作品。時にはユーモラスに、エネルギッシュに、都度感される時間と空間。

まるで大きな絵巻を眺めるように...メッセージは、置いている行むらひりひりの画に書き込んでくたさい。どこか静かしく、観る人とそれぞれの間に無言が流る男女3人のトリオ作品です。

～過ぎていったモノ達と、これから眺める未来への想は～

山下真司
広島県生まれ、高校時代に演劇と出会い、「天竺鼠」に入股、役者の道を志す中、ダンスと出会う。上京後、ダンスを中心に活動。タバマ企画には2009年「ドラマチック」の副ジョーロッパツアーより参加。
カスママリコ
7歳よりクラシックバレエを始める。ヨーロッパやアメリカに滞在、コンテンポラリーダンスを主とし種々なダンスを学ぶ。2002年School of Toronto Dance Theatre 卒業。2007年文化庁海外研修員としてドイツへ留学。2008年よりタバマ企画に参加。
デジ
GENTLE FOREST JAZZ BAND等、スウィングジャズ系のバンドで活動する傍ら、作曲家として自々に楽曲提供も行っている。見た目に似合わない、スラングリック&ノスタルジックな作風が特徴。自他、日本一自転車に詳しいベテラン・日本一ベースが弾ける自転車ライダー。

【出演者プロフィール】



赤丸急上昇

(赤松 美智代・丸山 陽子) / 振付家・ダンサー

2005年結成。山育ちの赤松(赤いもじゃもじゃ)・海育ちの丸山(黄色いもじゃもじゃ)・・・二人あわせて赤丸急上昇。対照的な二人は、性格も好きなものも真反対。そんな二人がバブルしながら絶妙な感覚で生み出す世界は、単純・明快、だけどなぜか心まる赤丸ワールド。これまでに、DANSPACE PROJECT「Food for thought」でアメリカ(NY)や、在広州日本国総領事館、Guangdong Modern Dance Company、国際交流基金主催「踊りに行くぞ!! in 中国」(北京・広州)他アジア巡回プログラムで、Indonesia(Solo / Jakarta)等、国内外10都市以上で作品を上演してきた。お面をかぶって結婚式や家の席などにも出演、人と交わるパフォーマンスをモットーに活動継続中。



池内文 / ダンサー

愛媛県出身、松山市在住。dance company MOGA-Japanの公演・活動を10年にわたって実施。その後、ダンスの社会化をめざして、(有)オフィスモガを設立。設立メンバーとして現在も松山で活動を続ける。これまでに、アマダミラー(ドイツ)、山崎広太、成瀬裕美(NY)等の振付作品にダンサーとして出演。2012年より、赤丸急上昇のダンサーとして参加し、ダンスでは、2013年の山形県(酒田市)・千葉県(野田市)共に出演している。

下村 唯 / ダンサー

山口県出身、神戸市在住。近畿大学文学部卒業。パフォーマンスユニット「モンゴルスシアターカンパニー」主宰・振付。四大学で演劇・コンテンポラリーダンスを学び、2009年以降、振付家・ダンサーとして活動。Revival! ヤザミタケン「不条理の天使」(2010@Art Theater dB)では、ソロダンサーとして森山未未と競演。独自の表現力ではなく、「一生懸命お仕事をしている際の俊敏な動き」が赤丸急上昇の目にとまり、2014年6月、松山にて「太陽と月」に出演。好評を得る。大阪府立東住吉高校身体表現クラス特別講師。



長井 雅浩(VJ mavovxx) / 映像

2002年より ELECTRIC SHOCK でVJ 活動をスタート。その後、音源(totodoko)を拠点とし、映像研究を続け、ミュージシャン・ダンサー・カメラマン・音響家など、多方面のアーティストとLABOを重ねる。2007年には長井映像研究所を設立。研究の幅を広げ、現在に至る。ダンスの赤丸急上昇公演では、全ての公演に映像担当として携わり共に活動中。



安田 辰也 / 演出家

沖縄県糸満市生まれ。1998年、スウェーデン・サーカスにスカウトされピエロとして北欧ツアーに参加。2013年、世界最大規模の芸術祭【英国国際芸術祭】にて作演出した舞台が世界に認められる「四つ風」を獲得。現在は、原野市芸術監督・演出家として数々の県内外、海外公演の舞台を手がけている。



平成 26 年度公共ホール現代ダンス活性化事業
(技術・制作スタッフ)
舞台監督 / 吉川 満 照明 / 奥那嶺 忍
音響 / 大城 達矢 舞台 / (株)ワークステージャポ
企画制作 / 軍司 愛 大城 由里 (パレットグループ)

うりひゃー!でーじなとん!

赤丸急上昇

来るってよー!

2014 9.6 土

15:00開演 (14:30開場)

2014 9.3 (水)
18:00-21:00

主催 / パレット市民劇場 松山市民ギャラリー 高定観音堂パレットグループ
共催 / 松山市民劇場 松山市民ギャラリー 高定観音堂パレットグループ

～ごあいさつ～

ありがとう。
きてくれてありがとう。
出会える時が出会いの時。



みなさま赤丸急上昇です! 四国は愛媛の松山市からやって参りました! 赤松と丸山のコンビ、漢字で縦に並べると奇しくも「赤丸急山」になります。そう、運命的な二人なのであります。二人揃うと、マンガみたいなコンビになります。赤丸急上昇のテーマは、「笑いは力!」どんな時代になっても、どんな状況でも、人は笑うと気持ちが前向きになります。前向きになると元気が出て勇気が湧く、勇気が湧くと世の中変わって行くかもしれない! ちょっと騒がしい私達ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。ダンスは、コミュニケーションで、劇場は命案(ヌチダスイ)。今日、同じ場所同じ空間を、隣や前や後ろの方と一緒にシェアしながら、ちょっと目が合ったら微笑みあってもらえたらと思います。きつと締る頃には、なんだか同じ釜の飯を食ったような感覚にされるのではないのでしょうか? 人と出会うことはシアワセです・・・。きてきて、もうすぐ暮が近づきます。我々は、日曜日のデートのように、わくわくドキドキしています。あなたに会える喜びで・・・心臓もドキドキわくわくと小躍りしております。さあ、はじまりはじまりー

赤丸急上昇 / 赤松美智代 丸山陽子

・・・ Program Note ・・・

◆「太陽と月」
～ The principles of Yin (陰) and Yang (陽) ～
振付 長井 雅浩 演出 / 赤丸急上昇
出演 / 池内文 下村 唯 赤松 美智代 丸山 陽子
陰陽がコンセプト。正反対の特徴を持ちながら、互いに依存協力して生まれる。それが陰陽です。両極端の正反対から生まれる、様々な現象。出合いがあって別れがある。生があって死がある。光があって影がある。あなただけ、私がいる。このダンスは、どこか懐かしい。お面のオカンと、オトシのダンス。

・・・ Interval ・・・

◆「ハイサイ! あなたとアカナーの物語」
作・演出 / 赤丸急上昇 安田辰也
沖縄での公演が決まった時に、パレット市民劇場の軍司さんから安田さんを紹介されました。芸術監督って名前もついてるし、こわそうな人があられるのかな? とドキドキしました。が、そこには、温かさあふれる、芸術監督もあり、沖縄の誇りも輝いて、それ以外も輝いて、非れる、三疊も輝ける、何でも素敵かつ繊細にこなせる、そんな安田さんが立ちました。安田さんから、アカナーという沖縄の妖怪の話を教えてもらい、アカナーという存在を題材に作品を進めて行くことに・・・安田さんと一緒に三人で登ったガジュマルの木に、赤い小さな生き物を見つけた時は本当に驚きました。アカナーは、ギジュマルの弟で、心優しい正直者。まるで沖縄の人のおとうとに感じます。人が大好きで、傷つきやすく、心がきれい。心の底で涙の海を有し、心の中真っ赤な太陽が輝いている。笑顔は晴れ、怒りははつきりとし、楽しさを重んじて、ここに住んでいる事に誇りを持っている。怒りの分だけ強くなって涙の分だけ笑顔になれる。人は、身体の中に感情がいっぱい詰まっています。誰かと一緒にいると溢れ出す。その人から生まれる動きは、その人の持つ歴史。この作品は、沖縄に生まれた安田さんと、沖縄に生まれていない赤丸が、出会うことで生まれたダンス。赤丸が沖縄に来て、初日に感じたことを絵にしてみました。

沖縄の空が、とてなく青く
雲の赤いスピードは早い
風が熱く、強い。
酒を食反もうまい
人は寝がめで、温かい、ものに
ちよとだけ離れたところに
すわる。

このまては
實に、溢れ出るような、
複雑で、大切な感情。

ダン活について・・・
公共ホール現代ダンス活性化事業(通称:ダン活)とは、コンテンポラリーダンスのアーティストを市町村に1週間程度派遣し、地域の公共ホールと共同でアウトリーチや公演等を企画、実施するものです。
(以下、赤丸急上昇からのコメント)
今年の1月に、担当の軍司愛さんと出会いました。出会った瞬間、何故かインスピレーションが湧きました。そしてきつと沖縄に行くことになった。と根拠の無い確信を持っていました。そして、沖縄でのダン活が決まり、下見に出向いた時、パレット市民劇場のスタッフに初対面、「何か新しい事をやってみない?」というエネルギーが伝わって来たのを覚えています。この劇場のスタッフは、努力と手間をおさない・・・本当に尊敬できる人です。舞台は、みんながいて出来るが、我と裏を覗いている人と、皆で共出し、創ります。今日何が生まれるか、本当に楽しみでなりません。それから、記憶に残るのがアラ保育園と天久小中学校で出会ったみんな・・・こんなに豊かな子ども達がいれば、このあと来る未来も楽しみですね。沖縄に幸あれ～

赤丸急上昇コンデンソールリーダンス 公演アトラクタム 2014.9.28

赤丸と夢の舞台へひとっ飛び!

～表も裏も飛び越えて～



第1部 14:00 開演
 ◆ウェルカムダンス (出演: 植田祝電) ~ 植電さんがみなさまを皆様までご案内いたします。
 ◆One day (ワークショップ参加作品)・20分 (編付: 赤丸急上昇) 休憩 10分
 第2部 14:40 開演予定
 ◆水鏡と月 ~The principles of Yin (陰) and Yang (陽) ~・50分
 [出演: 赤丸急上昇、佐野和幸、池内文、VJ mavoxxx] ~ 赤丸急上昇作品 / 15:30 終演予定
 ○ 公演終了後ロビーにて赤丸急上昇によるアフタートークを開催します。お時間のある方はぜひご参加ください!!
 ◆主催: (公財) ひたちなか市文化・スポーツ公社 ◆共催: ひたちなか市、ひたちなか市教育委員会(一部別添人地味提供)

◆ 赤丸急上昇は、茨城県松山町からひたちなか市へ2部の下見を経て、この23日(火)からは市内に滞在し、小学館や福祉センターを訪問。ダンスで交流したり、子どもと大人へのワークショップや作品制作ワークショップなどに取り組む。本日の公演を迎え、子ども赤丸急上昇からみなさまへのメッセージです!!
 ○お申し込みが、来てくれてありがとうございます。お会いする時が楽しみです。
 みなさま赤丸急上昇です! 茨城県松山町からひたちなか市へ2部の下見を経て、この23日(火)からは市内に滞在し、小学館や福祉センターを訪問。ダンスで交流したり、子どもと大人へのワークショップや作品制作ワークショップなどに取り組む。本日の公演を迎え、子ども赤丸急上昇からみなさまへのメッセージです!!
 「飛び飛び!」と人々の時代になって、どんな状況でも、人は笑うと気持ちが前向きになります。前向きになると元気が出て勇気がわく、勇気がわくと世の中が変わって行くかもしれない! ちょっとと飛び飛びたてて、どうしようもなく勇気を出して、ダンスは、コミュニケーションで、劇場も楽しむ空間。産み落とされた場所によって、見えてくる景色も変わります。探検家になった気分、発見を楽しんでください。舞台は、みんながいて出来上がる。彼と裏と裏にいる人と、みんなで見守られ、観望します。今日何が生まれるか、幸運に恵まれたいです。
 わたしは、日曜日の午後のように、わくわくドキドキしています。さあ、飛び飛び飛び飛び!!

◆ 赤丸急上昇アトラクタム 赤丸急上昇 (赤松義徳+丸山麗子) / 振付家・ダンサー
 ○2005年結成。山賀りの赤丸 (赤い毛むくじゃら) + 両者の丸山 (黄色い毛むくじゃら)・・・二人あわせて赤丸急上昇。初期の二人は、性格も好きなのも真反対。そんな二人がバトルしながら絶妙の感覚で生み出す世界は、非時・時、駆け込みで心躍らせる赤丸ワールド。これまでに、DANCE SPACE PROJECT「Food for Thought」、アメリカNYや、在日日本舞踊師等、Guangdong Modern Dance Company、国際交際基金主催「踊りに行くぜ!」in 中国(北京・廣州) 舞アジアダンスプログラム、Indonesia(Solo/Jakarta)等、国内外10都市以上で作品を上演してきた。映画をきっかけに結婚式の司会などにも出演。人と交わるパフォーマンスをモットーに活動中。

◆ 赤丸急上昇作品「水鏡と月」~The principles of Yin (陰) and Yang (陽) ~
 ○陰陽のコンセプト、正反対の特質を持ちながら互いに依存協力して生まれる。それが陰陽です。両極端の正反対から生まれる、様々な現象。出会いがあって別れがある。生があって死がある。光があって影がある。あながいる、私がいる・・・このダンスは、どこかつかつかい、お面のオカシと、オトンのダンス。

◆ ワークショップ参加作品「One day」
 ○過去・現在・未来・・・一日のつなぎ物で、つぎの年を
 今日は何に迷えるのかな? おいしいものを食べたいな。思ったことがおきたらどうしよう? ドキドキドキ、たった一つの今日という日、難しすぎる。超絶華麗に踊る。超絶華麗に踊る。そんな一日の物語。

◆ ワークショップ参加作品「One day」 出演者のご紹介!!
 ○この作品はたった1日で生まれた作品です。ひたちなか市に出迎えたことに感謝。
 ○内田昌寛 (小3) ○杉山祥 (小4) ○船田花唯 (小5) ○柳原大河 (中1) ○柳崎真 (中3) ○大地明二
 ○大西利洋 ○小林真愛 ○坂田唯実 ○鈴木由加里 ○仲田小百合 ○野沢那子 ○安田真由 ○柴田真一



20th Anniversary

田畑真希 中野と踊るプロジェクト

カーニバル

老若男女集まって「今」を彩るもみじ山カーニバル！
～ 浮かんで消える景色を携え、私達は意思を持って流されていく～

10月5日(日) 14:00 開演 なかのZERO小ホール
上演時間: 約80分(休憩なし)


構成・演出/田畑真希
出演/タバマ企画(王下貴司、カスマリコ、田畑真希)
馬喰町バンド(武蔵太郎、織田洋介、ハブヒロシ)
もみじ山ダンサーズ

本日はご来場頂きましてありがとうございます。

私達タバマ企画が新作を発表する場合、通常短くても3ヶ月から半年の時間をかけてクリエーションします。
しかし！今回、出演者全員と会えるのは、本番の4日前！
本番が近づいていくにつれて私の不安は募るばかり。想像と妄想で頭がパンクしそうでした。
10月1日…待ちに待った「もみじ山ダンサーズ」とのリハーサル、「これはイケる！」と確信しました。ちょっぴり大人の雰囲気を持つ個性豊かな「もみじ山ダンサーズ」。なかなか面白い空間が生まれました。

タバマ企画×もみじ山ダンサーズ×馬喰町バンド

このメンバーの、今だから出来る「カーニバル」。
大好きな馬喰町バンドの最高の音楽と共に、体感していただけたら幸いです。



田畑真希


主催: なかのZERO指定管理者 共催: 一般財団法人地域創造

☆田畑真希 中野と踊るプロジェクトについて☆


8月下旬から“中野”と“ダンス”を繋げて、地域に新しい賑わいを生み出していこうという思いから、なかのZERO発信で様々なダンスプロジェクトを行いました。
最終日の今日は、刺激的な田畑真希の新作公演「カーニバル」を、一般公募で結成したもみじ山ダンサーズと一緒に上演します。出演者一同、ダンスが持っている力を全身全霊で表現します。
皆様、エネルギー溢れる舞台をお楽しみください。

なかのZERO

出演者プロフィール



タバマ企画【ダンス】
(写真左から、カスマリコ、王下貴司、田畑真希)
主宰・田畑真希振付作品を軸として活動するダンスカンパニー。
消極なまでにガムシャラに、ユーモアを取りながらも丁寧な時間を紡ぐ作風には定評があり、国内外で精力的に活動中。7カ国15都市にて作品を上演し好評を得る。



馬喰町バンド【演奏】(武蔵太郎、織田洋介、ハブヒロシ)
昭和生まれ、新興住宅地育ちの3人組。懐かしいようでも何故にも無かった音楽を、バンド形式で唄って演奏する。日本各地の古い頃のフィールドワークや独自の「うたあそび」を元に奇跡的なハンス感覚で生みだされる彼らの音楽は、わらべうた・民謡・語り恋仏・アフロビート・世界各地のフォークロアが、まるで大昔からそうであったかのように自然に共存する。
2013年12月4日、待望の3rdアルバム「ゆりかご」をリリース。
2012年リリースの2ndアルバム「ヒトのつづき」発売ツアーでは日本各地とNYでライブを行う。
以降フェスやテレビ出演、大石始監修コンビ「DISCOVER NEW JAPAN 民間ニューウェーブ vol.1」への参加や「太陽と星空のサーカス」公式アニメーションのサウンドトラック制作、ドキュメンタリー映画の音楽など急速に活動の幅を広げつつある。

もみじ山ダンサーズ 【ダンス】 (50音順)
中野の賑わいを生み出す近隣の老若男女が勢揃い。“地域と踊りを繋げる”コミュニティダンスグループ！

池田仁徳	上村京仁	梅澤紀美	大島真央	北澤香	小林実了	坂口薫
高野麗子	中村とし子	廣島梨乃	丸山朋子	望月志津子	山口喜代志	

☆田畑真希 中野と踊るプロジェクトこれまでの流れ☆

- ★小学校教職員向けワークショップ
- ★カラダカラダンス1～60歳からのイキイキライフ
- ★カラダカラダンス2～身体を覚らせてワロウタイム
- ★若宮小学校アウトリーチ 5年生(2クラス)
- ★麻薬第二学童クラブワークショップ

※携帯電話、アラーム付時計などをお持ちの際は、電音をお取りください。
※出演者個人情報は、他の出演者への迷惑にもなりますので、ご遠慮ください。
※ご来場は、ロビーにてお願いいたします。
※許可のない写真撮影、録音・録画は、厳しくお断りいたします。

場面表題

1. 雨どつかわしめ
2. 壁のうちそと
3. みそくモノたち
4. 一千四百年の夜
5. 時がえがく
6. 浮羽の風が吹いてくる
7. 臣は何処へ

振付・演出・美術：田村一行

出演（大駱駝艦）：田村一行 我妻恵美子 鉢久奈緒美

テクニカルスタッフ（大駱駝艦）：湯山大一部

期日 平成26年11月30日（日） 開演 15：00

会場 うきは市文化会館（白壁ホール）

主催：うきは市教育委員会 共催：一般財団法人地域創造/平成26年度公共ホール現代ダンス活性化事業

つかわしめ

大駱駝艦

田村一行

舞踏公演

遺言

鳥胡跛臣

ご挨拶

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。昨年の朝倉市での公演に続き、筑後川流れるこの魅力的な場所を再び訪れることができ、大変嬉しく思っております。案内いただいたうきは市の文化・景色、とりわけ数箇古墳の散々は、私に多大なる作品世界のイメージを与えてくれました。太古の時間に身をゆだね、完全なる私見ではありますが、本作ではそれらのイメージを一つの作品にまとめあげた次第です。

またうきは市は、大駱駝艦の大先輩となる故・宇野萬さんの故郷でもあります。その場所に立ち、同じ風を感じながら踊ることができると、出演者一同、心より光栄に存じております。

この一週間うきは市に滞在し、小学校での授業や一般公募のワークショップなどを通じ、たくさんの方と出会うことができました。その一つ一つの皆様との出会いが、今日、自分を誇らせてくれるのだと実感しています。

最後となりましたが、本公演は多くの方のお力によって実現しました。この場をお借りしてお礼申し上げます。最後までごゆっくりとお楽しみください。

大駱駝艦・田村一行



たひら いっしろう
田村 一行

○プロフィール

日本大学芸術学部卒。

1998年大駱駝艦に入艦。舞踏家・作家である前森知子師事。02年より自らの振付・演出作品の制作を開始。様々な制作で実践する作品には、新たな舞踏の可能性が見られている。08年文化庁新進芸術家海外研修制度によりフランスへ留学。小野寺修二、宮本聖門、日村英、渡辺より、菅井敏、ジョセフ・ワジの薫育など多岐に渡る。舞踏の特性を活かしたワークショップは、各分野のアーティストらと、手塚から高齢者まで幅広く好評を得ている。平成23年より「舞踏地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」登録アーティスト。第34回舞踏批評家協会新人賞受賞。



うきは市文化会館（白壁ホール）観劇は、多数の古墳遺構をモチーフとしています。

大駱駝艦は、うきは市古井町富本にある築形古墳群の北端、再建浮野野火屋本殿のすぐ南側に位置します。舞臺の設計は、承と脊の構造を取り、景の展開を利用して多色に染め分けられています。また、大いなる船に四段構造。その上は弓矢が入った船を3艘、大きく中央に配置し、左右中央の間に1人きりラジオ文庫が置かれます。観客の視線には同心円状、その下にはゴンドラ船の船が並びます。右側が船首で左には船が止まっており、船のようなものも見えます。船を動かした人物が描かれています。観客の視線には、船もしくは弓矢を持った人物が並び、その下に日月に居住動物といわれる2匹の動物（センジロ、ヒキガエルの意）が描かれています。この古墳の遺構には線だけでなく、点を多用していることも特徴のひとつです。

釧路市民文化会館

B4 二つ折り

高校演劇部員へのワークショップ (12月9日)

湖陵高校、北陽高校、商業高校の演劇部員向けワークショップを実施しました。すぐに順応し、華麗な身のこなしが印象的でした。今回の体験で表現に関する世界観が広がった様です。CLAgentの長沢風一朗くんもこのワークショップの参加者です。



愛国小学校でのワークショップ (12月10・11日)

愛国小学校の6学年の1クラス毎、全1クラスのみなさんに体験していただきました。どのクラスの子供も楽しみに、元気に飛び回っていました。CLAgentの仁木胡桃ちゃん、池田紗花ちゃんはこの時に興味を持ち参加を決めたということです。



公募ワークショップ (12月10日)

広く一般の方々向けのワークショップを実施しました。コンタクト・インプロビゼーションに対し関心のある方々にお集まりいただき、その真剣な眼差し、熱気に圧倒されました。CLAgentの山田ゆかりさんもこのワークショップの参加者です。



プロジェクトダンサーズ「CLAgent」報告 (12月11日～13日)

本日、勝部さん、鹿島さんと一緒に出演する「CLAgent」の稽古風景です。一般募集したコンタクト・インプロビゼーション未経験の方々です。みなさん情熱的に稽古に励み、その上達ぶりには関心させられます。今後もこのAgent達が各所に散らばりコンタクト・インプロビゼーション(CI)の魅力を伝えると言うミッションを進行していただければと願っております。



釧路短期大学幼児教育学科でのワークショップ (12月15日)

近い将来、子供達の指導的立場となるみなさんにとって、コミュニケーションや表現について考えることができる機会になればと思っております。

本企画の主旨にご賛同いただき、各ワークショップ及び公演実施にあたり、ご協力いただきました先生方、参加者の皆様、そして関係各位の皆様、誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。



平成26年度公共ホール現代ダンス活性化事業

コンタクト・インプロビゼーショングループ C.I.co.
勝部ちこ + 鹿島聖子

First Contact

構成・演出・出演 : 勝部ちこ 鹿島聖子 (C.I.co.)

音楽 : 岩下清香

出演 : プロジェクトダンサーズ C.I.Agent
(池田紗花 長沢風一朗 仁木胡桃 山田ゆかり)

2014

12.14 (日) open 14:00
start 14:30

釧路市民文化会館・大ホール 舞台上特設ステージ

〒040-0855 釧路市法政町12番10号

主催/一般財団法人釧路市民文化振興財団 共催/釧路市教育委員会、一般財団法人地域創造 後援/北海道新聞釧路支社、釧路新聞社、NABK釧路放送局、FM11.5

First Contact

ふれあう事からはじまるダンス、コンタクト・インプロビゼーション、
新たな出会い、新たな発見 First Contact!! 釧路市民文化会館で初の企画です。

こんにちは。皆さま、寒波押し寄せ中。ようこそ、お越し下さいました。
勝部ちこ 鹿島聖子と申します。
私たちは鹿島島根に住んでいます。今回は、釧路のみなさんとコンタクト・インプロビゼーションする勇に参りました。

これから皆さまの前で繰り広げるパフォーマンスについて、少し、お話をしたいと思います。
私には、今週、小学校や高校へのアウトラーチと呼ぶ出張ワークショップが、この会館で開かれた公募ワークショップで素晴らしい人たちに会いました。
その中から、今日、一緒に舞台で踊って下さる4名の方と、作品を作ります。
引き続き、同じく鹿島島根から駆けつけたミュージシャン、岩下清香さんの音楽の時間。そして、鹿島、勝部、岩下によるトリオの作品。

作品は余り作りません。予め決めた事は、少しだけ。つまり、これから先がどうなるのか、誰にも解らない即興のパフォーマンスです。
ところで、見に来てくださった皆さまは、とても重要な存在です。ダンスが、音楽が、まさに生まれる瞬間に立ち会ってくださるのですから。

1時間後、何かが変わっているでしょうか。ここに、ある作品が出現した、ということでも、その時には既に、その作品は存在しません。再演は不可能です。
とても創作的でもない気持です。しかし、この事は今日のパフォーマンスに限りません。
私達人間の生活と同じ。生活は全て、即興です。人と人が絡み合い、交差しあう即興です。同じ事は二度と起こりません。一瞬一瞬が貴重です。
日常の少し延長にあるのが、パフォーマンス。どうぞ自由な解釈でお楽しみください。

勝部ちこ 鹿島聖子

本日のプログラム

- 「日本の本日へくしろよろしく」 プロジェクトダンサーズ C.I.Agent
勝部ちこ 鹿島聖子 岩下清香
- 「音楽とおしゃべり」 岩下清香
- 「Phase47 in Kushiro」 勝部ちこ 鹿島聖子 岩下清香

休憩 (10分)

アーティストによるアフタートーク

※当初出演予定でしたRicoは都合により岩下清香に変更となりました。Ricoの出演を非しみにしていただくお客様には、変更に至りましたことを心よりお詫び申し上げます。

コンタクト・インプロビゼーショングループ C.I.co.



C.I.co.は、日本のコンタクト・インプロビゼーション(CI)をトータルに運営している団体です。という主旨で、2009年春、東京に設立。国際的にも活動する種々なダンスグループ。ふたりは共にお茶の水女子大学、大学院で舞踊教育学を修めた後、ニューヨークで舞踊研修。帰国後、CIをベースに「コミュニケーション」「身体」「社会性」について研究を続け、日本各地、海外でも幅広く活動を展開中。2012年夏、C.I.co.は鹿児島県伊佐市に拠拠。県民集会所から世界各地まで、アートと社会の関連を見つめながら活動中。共催「協同と表現のワークショップ」(2014)東修堂の中でCIの事例紹介。2012年のNHK大河ドラマ「はつ恋」のエピソードに演出・出演。2014年社会福祉活動テレビ「見よこす」に出演。上げられ、1年間移住者の生活について語りながら解説し話題になる。

「コンタクト・インプロビゼーション」

この聞き慣れないコンタクト・インプロビゼーション(CI)というダンスには、ふたつの大きな特徴があります。コンタクト(=ふれあい)とインプロビゼーション(=即興、臨機応変)です。人とのふれあいや関わりを持ちながら、その瞬間に動きを生み出していくこのダンスは、与えられた振付をこなすというのではなく、他者との言葉を使わないコミュニケーションとも言えます。

この企画ではコンタクト・インプロビゼーションという当地方では目新しいパフォーマンスを取り上げ、本日の公演に連動し、様々な場所、人々に向けて、勝部さん・鹿島さんによるワークショップ(体験講座)を実施、その魅力をお伝えすることで、当会館を中心に釧路のまちを活性化していくと考えております。今回の取り組みについてご紹介します。

関係者向けワークショップ (6月27日)

後に行われる出張ワークショップの関係者の方々に体験していただくプログラムを実施しました。釧路の人々もコンタクト・インプロビゼーションのファーストコンタクト。みなさん最初は戸惑もあった様でしたが、ワークショップが進むにつれ笑顔いっぱいになって楽しんでいました。



FMくしろ「イブニングナビゲーション」に出演 (9月2日)

パーソナリティの鈴木さんの絶妙なリードのもと、今回の「First Contact」の内容についてトークを繰り広げました。

岩下清香 フォークリストシンガーソングライター

心に入り込む独特の声で、独自の世界観を表現するイオンなど、CMソングなどでもおなじみ。クラッシュを中心に活動後、東京EMIなどからソロアルバム3枚発表。現在甲田みずほ氏と mono-folio としても活動中。アマタケオムとしてバンド「アマタケ」を主宰。陸の孤島と言われる鹿児島市の武家屋敷カフェ「アタタケ」をオーナー。『身体は音楽』との思いから野口整体の活気運動や呼吸法に傾倒。身体能力研究家主催。2012年、C.I.co.の鹿島島根移住をきっかけにコンタクト・インプロビゼーションで出演。

CLAgent 一般公募のプロジェクトダンサーズ

勝部さん、鹿島さん、そしてコンタクト・インプロビゼーションに魅了された。本日の公演でパフォーマンスするべく結成されたプロジェクトダンサーズ。未経験者の集まりですが、たくさんの稽古で培ったスキルと持ち前の情熱で、華麗なパフォーマンスを披露します。



平成26年度公共ホール現代ダンス活性化事業
大駱駝艦・田村一行 舞踏公演

薔薇とお接待

【振付・演出・美術・出演】
田村 一行

【出演】
奥山 ばらば 我妻 恵美子

【テクニカルスタッフ】
鈴木 奈緒美
(大駱駝艦)

【音響】
久川 俊秀
(株) 四国舞台テレビ照明

【照明】
吉田 剛治
(公益財団法人高知市文化振興事業団)

【舞台スタッフ】
戸田 稔人 岩崎 望江子 藤原 剛大
(高知市文化プラザ共同企業体)

主催：公益財団法人高知市文化振興事業団
共催：一般財団法人地域創造
後援：高知新聞社／朝日新聞高知総局／毎日新聞高知支局／読売新聞高知支局
NHK高知放送局／RKC高知放送／KUTVテレビ高知／KSSさんさんテレビ
高知ケーブルテレビ／エフエム高知

2015年1月25日(日) 13:30開場 14:00開演
高知市文化プラザかるぼーと 小ホール

薔薇とお接待

本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。公演に先立ち、アートセンター画廊、高知市立土佐山小学校、高知県立追手前高校演劇部、高知市教育研究所、また一般公募のワークショップなどを通じ、たくさんの方々と時間を過ごすことができました。一つ一つの個性的な身体と出会い、それら全ての出会いのおかげで、本日の踊りがあるのだと実感しています。本公演は、大変多くの方のお力により実現いたしました。この場をお借りしてお礼申し上げます。それでは、三人が繰り広げるお接待、最後までごゆっくりとお楽しみください。

田村 一行

田村一行 (Ikkō Tamura)
日本大学芸術学部卒。1998年大駱駝艦に入艦。舞踏家・俳優である豊赤見に師事。2002年より自らの振付・演出作品の創作を開始。緻密な振付で構成する作品には、新たな舞踏の可能性が注目されている。2008年文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。小野寺修二、宮本聖二、白井晃、渡辺えり、笠井航、ジョセフ・ナジの舞台など客演も多数。舞踏の特性を活かしたワークショップは、各分野のアーティストのみならず、子供から高齢者まで幅広く好評を得ている。2011年より(一財)地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」登録アーティスト。第34回舞踊批評家協会新人賞受賞。
大駱駝艦オフィシャルホームページ：http://www.dairakudakan.com

場面表題

はじまりに接待

雨の旅人

流人転生

道連れ

みそぐもノたち

一千二百年の夜

薔薇とお接待

みんな何処へ

地域交流プログラム



高知市立土佐山小学校 (1/21)



公募ワークショップ (1/20,21)

「平成26年度公共ホール現代ダンス活性化事業」は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを主たる目的としています。今回、田村一行氏に7日間滞在していただき、その中でアウトリーチやワークショップといった地域交流プログラムも実施しました。アウトリーチではアートセンター画廊、高知市立土佐山小学校、高知県立追手前高校演劇部、高知市教育研究所の4つの施設・団体の皆さまに、公募ワークショップでは10代から50代までの幅広い年齢層の方々に、「身体力を抜くこと」や「空っぽになること」を通して、大駱駝艦の「舞踏」を体験していただきました。

平成 26 年度大船渡市民文化会館自主事業 (一) 地域創造公共ホール現代ダンス活性化事業

★ワークショップ・アウトリーチ活動報告

本日の公演に先立って、リアスホールにおいてオープンワークショップ・創作ワークショップを開催したほか、市内小学校、仮設住宅現地内コミュニティ施設で、アウトリーチ(お出かけワークショップ)を実施しました。



2月17日(火)
オープンワークショップ

2月18日(水) AM
高浜小学校1・2年生

2月18日(水) PM
高浜小学校3・4年生

2月18日(水)・19日(木)・21日(土)
創作ワークショップ

2月19日(木) AM
日崎市小学校1・2年生

2月19日(木) PM
サポーターセンターとみおか(奥浜側)

— (一) 地域創造 公共ホール現代ダンス活性化事業について —

公共ホールの活性化をコンテンポラリーダンスによる創造的・文化的芸術活動の広がりを実現し、あわせて公共ホールスタッフ等の芸術・創作活動の向上と創造的芸術活動の普及を目的として、当団体の(一) 地域創造と共催し、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業および地域交流プログラム等(アウトリーチ、ワークショップ等)を実施します。

ばばばっ!!
コンテンポラリーダンスって何?

→ みでけらせん!!

ダンスカンパニーモノクロームサーカス

Monochrome Circus

コンテンポラリーダンス公演

【日時】平成 27 年 2 月 22 日(日)

開場 13:30 開演 14:00

【場所】リアスホール大船渡市民文化会館
マルチスペース

【主催】大船渡市 【共催】一般財団法人地域創造 【後援】大船渡市教育委員会 京都芸術センター制作支援事業



★ごあいさつ



PheonSagih Kim

本日はご来場いただきありがとうございます。

昨年の夏に初めて大船渡を訪れ、冬場に2度目の下見を経て、やっと本日の本番にご参りました。その間、市内の小中学校の子供達や、仮設住宅で暮らす方々、舞台材のお店の方々など大船渡で暮らす様々な方々に出会うことが出来、さらに本日出演するWS参加メンバーの皆さんとも出会い、この土地の風土や人情味が少し解ってきたかなと愉んでいます。

コンテンポラリー・ダンスはこの土地に根を張ったことですが、作者の個性や自由な世界観と想いが伝わりやすいかと思えます。今回上演する3作品も基本的にストーリーは無いのですが、ご覧になりながら、ああかな? ということか? と想像を膨らませながら観て頂けたら幸いです。

最後までごゆっくりご覧下さい。

Monochrome Circus 代表 坂本公成

★ Monochrome Circus プロフィール

京都を拠点に定期的に活躍するコンテンポラリー・ダンスカンパニー。

「身体をめぐる/身体との対話」をテーマに国内外で活動を展開。作品は海外17カ国で紹介されている。『幸福ダンス集』と銘打つ大小の作品群10作品や、海外振付家による作品など多くのレパートリー作品を上演している。2009年、別府現代芸術フェスティバル「芸術温泉世界」にて商店街の中からダンサーを探し出す作品『ダンサーを探せ!!』を上演。2010年、フル・オーケストラで市民160人が踊った『オーケストラで踊ろう!!』。2012年にはフィンランドのダンサーとのコラボレーションで『HAIGAFURU』を上演。その後、日本、フィンランドの4都市で上演を行う。

学校や多様な人々を対象とする「コンタクト・インプロヴィゼーション」や身体に関するワークショップの指導経験も豊富。

Monochrome Circus ウェブサイト

<http://www.monochrome-circus.com/>

★スタッフ

演出・構成	坂本公成	照明オペレーター	鈴木年文
舞台監督	森神子	音響オペレーター	赤井登和
舞台美術補佐	奥田加奈	舞台オペレーター	今野貴司
舞台美術補佐	北方こた子		

★演目・解説

『夏の庭 2015』

演出・出演 森裕子+坂本公成+創作ワークショップ参加メンバー

田舎の白いあざ道で、ほこりっぽい娘が舞い上がる。

ざんざんざらざらの、夏なんです

ざんざんざらざらの、夏なんです

98年の夏、パリに滞在し、日本の夏を思っていたデュエットをWS参加者も交えて踊ります。

～ 休息 ～

『怪物』

演出・振付 坂本公成 出演 野村香子

— What is monster for you? What is monster in your body? —

ハンガリーの亡命作家アゴタ・クリストフによる同名戯曲とイギリスの現代劇作家フランシス・ペーコンの絵巻をサブテキストに、野村香子の強靱でしなやかな身体が主軸。いわば「拒否された身体」をヴィジュアル化した作品。音響に真鍮人が楽曲提供。08年度にはフランス人ダンサーに振付を行い、アンジェ国立振付センターでの上演を行う「怪物」プロジェクトへと発展している。

『きざし』

演出・出演 坂本公成+森裕子

意図しようが意図しまいが人々が人々存在するだけで互いに繋がって行く。お互いの存在にさえ気付かないような顔(きざし)に立って来てそのことに気付く。言葉にならない言葉、聞き取れない発声。150本のナイフ、テーブルの上の少女、身体の対話を重視してきた坂本公成による対話のない対話。コンタクトの極北。

★創作ワークショップ参加メンバー(『夏の庭 2015』出演メンバー)

高山文子 (7)	佐藤かい (16)
みんなといろんなことが出来ました。たのしかったです。	貴重な体験と、たくさんの人と交流ができて、楽しかったです。
小西直史 (7)	鈴木裕希 (17)
なにをするかわからなかったけど、おもしろかったです。	初めて体験することが多かったり、沢山の人と交流できて楽しかったです。
武藤進 (8)	中川ゆふみ (25)
いろんなことをして、楽しかったです。	沢山の方と出会えて、帰国前まで楽しい時間が過ごせました。ありがとうございました。
川内未来 (10)	小坂匠子 (39)
いろいろなことをして、楽しかったです。	関わったあと、どんな記憶が残るか楽しみです!!
新沼風美 (12)	中村愛 (39)
初めて体験して、とてもたのしかったです。	新しい体験ができて、楽しかったです。

平成 26 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱

1 趣旨

財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

2 対象団体

原則として、当該事業を実施したことのない市町村等を対象とする。

※「市町村等」とは、次の団体をいう（以下同様）。

- ① 市区町村（政令指定都市を除く。）
- ② 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、市町村の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③ 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益法人制度改革三法*による特例民法法人、公益財団法人等（②を除く。）のうち、市町村が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

*「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」

3 事業内容

実施市町村等は、次の事業を実施する。なお、(1)と(2)は、原則として、合わせて6泊7日以内の事業日程で行うものとする。ただし、企画の内容等により、当該日程の範囲内で事業を実施することが難しい場合は、関係者間で協議のうえ、地域創造が認めた場合においては、現地下見（個別研修）を含め、地域創造が認める日数の範囲内で行うことができるものとする。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティスト（ソロ、またはデュオ）の中から、実施市町村等の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

(1) 公演（ダンス公演）

公共ホール等で開催する有料のコンテンポラリーダンス公演（以下「公演」という。）を1回実施する。

なお、入場料収入は実施市町村等に帰属するものとする。

(2) 地域交流プログラム

学校や福祉施設等でのアウトリーチ^(※1)及び公募等によるホール内で実施するワークショップ^(※2)（対象には学校の教職員等を含む。）を5～6回実施する。なお、アウトリーチは最低3回、ワークショップは最低1回実施する。

※1 1回90分を目安とする。

※2 1回120分を目安とする。

(3) 関係者向けワークショップ

現地下見（個別研修）時において、アウトリーチ先（候補を含む。）の学校や福祉施設等の職員及びホールスタッフを対象としたワークショップ^(※)を1回実施する。

※ 60分を目安とする。

4 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、別紙2に定める額を上限として地域創造が負担する。ただし、下記以外の現地移動費、舞台制作費、広報宣伝費、会場要員費その他の諸経費及び実施市町村等が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、実施市町村等の負担とする。

(1) 公演、地域交流プログラム及び関係者向けワークショップに係る経費

登録アーティスト、アシスタント^(※1)、公演の共演者及びテクニカルスタッフ等^(※2)の出演料又は謝金、交通費（実施市町村が負担する現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料を地域創造が負担する。

※1 地域交流プログラムのアシスタント及び公演の共演者である者をいう。

※2 公演準備（地域交流プログラムを除く。）のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手及び制作者等をいう。

(2) 現地下見（個別研修）に係る経費

登録アーティスト及びテクニカルスタッフ等の交通費（実施市町村が負担する現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料を地域創造が負担する。

5 事業実施に対する支援

(1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施市町村等を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施市町村の負担とする。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施市町村等に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターを派遣する。

コーディネーターの派遣は、現地下見（最大2回まで）及び実施時に行う。

6 提出書類等

(1) 事業申込書 …別記様式1-1、1-2、1-3

平成26年度に本事業の実施を希望する市町村等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、平成25年8月16日（金）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

なお、2②及び③に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること。（別記様式1-4）

(2) 事業実施計画案 …別記様式2-1、2-2

全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。

(3) 事業実施計画書 …別記様式3-1、3-2

事業実施2ヶ月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。

(4) **実績報告書** …別記様式 4-1、4-2

事業終了後30日以内に、事業実施にあたり制作したチラシ・パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。

ただし、平成27年3月17日（日）以降に事業が終了する場合には、平成27年4月15日（月）までに提出することとする。

(5) **変更承認申請書** …別記様式 5-1、5-2

実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。

なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

7 その他

(1) **共催に関する表示**

実施市町村等は、対象事業実施会場及び対象事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。

（表示例） 共催：財団法人地域創造、共催：（財）地域創造

(2) **損害賠償の免責**

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

(3) **関係書類の提出**

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施市町村等の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。

(4) **情報提供**

地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施市町村等は協力するものとする。

(5) **その他**

事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。

また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施市町村等が協議して決定する。

登録アーティスト

- ・平成 25・26 年度 登録アーティスト（計 7 組）
田畑真希、田村一行、矢内原美邦、山賀ざくろ、赤丸急上昇（赤松美智代＋丸山陽子）、
勝部ちこ＋鹿島聖子、坂本公成＋森裕子（Monochrome Circus）

参考

事業の流れ・手続き等

●平成 25 年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
7 月～8 月上旬	申込み受付（8 月 16 日（金）締切）	事業申込書 （別記様式 1-1、1-2、1-3*） （*要綱 2②及び③に該当する団体は、地方公共団体の長の副申書（別記様式 1-4）を添付）
10 月上旬	事業内定通知	
11 月上旬	第 1 回全体研修会（入門編）の開催 （11 月 11、12 日 開催場所：ティアラこうとう）	
1 月上旬	第 2 回全体研修会（アーティストレベル編）の開催 （1 月 7 日、8 日 開催場所：ティアラこうとう）	
1 月中旬	事業実施計画書の提出	事業実施計画書 （別記様式 2-1、2-2）
3 月上旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・通知	

●平成 26 年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4 月上旬	事業実施団体の決定通知	
4 月～	現地下見（個別研修）の実施 （関係者向けワークショップの実施）	
事業実施 2 ヶ月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の提出 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者 で契約の締結	事業実施計画書 （別記様式 3-1、3-2）
事業終了後 30 日以内	実績報告	事業実績報告書 （別記様式 4-1、4-2）

地域創造が負担する経費

1 公演事業、地域交流プログラム及び関係者向けワークショップに係る経費

①登録アーティスト（ソロまたはデュオ）

- ・ 1回の公演及び5～6回の地域交流プログラム並びに1回の関係者向けワークショップにかかる出演料
- ・ 6泊7日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

※出演料に含まれる経費

（ワークショップ講師・公演出演料、振付・演出料、衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費、照明・音響プラン料、制作費、稽古場代、公演に使用する映像ソフト代、写真使用料、広報・宣伝及びプレ・アフタートーク等関連企画への協力、個別研修、経常経費、飲食費

※関係者向けワークショップに係る宿泊費及び日当、交通費、損害保険料は、現地下見（個別研修）に係る経費で支給する。

②アシスタント（登録アーティストがソロの場合に限り1名まで対象とする。）

- ・ 1回の公演及び5～6回の地域交流プログラムにかかる出演料
- ・ 6泊7日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

※「3 事業内容」のただし書きにより事業を行う場合には、上記に加え、必要に応じて現地移動費を除く1往復分の交通費、宿泊費及び日当を負担する。

③公演の共演者（1名）

- ・ 1回の公演出演料
- ・ 3泊4日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

④テクニカルスタッフ等（1名）

- ・ 公演準備にかかる謝金
- ・ 3泊4日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

2 現地下見（個別研修）に係る経費

①登録アーティスト（ソロまたはデュオ）

- ・ 1泊2日以内で2回分までの宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く2往復分までの交通費
- ・ 損害保険料

②テクニカルスタッフ等（1名）

- ・ 1泊2日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

コーディネーター

●佐東 範一(プロデューサー、NPO 法人 JCDN 代表)

1980年舞踏グループ「白虎社」の創立に参加。以後1994年の解散までの国内公演、海外ツアーにて舞踏手兼制作者として活動。1996年アメリカ・ニューヨーク、ダンス・シアター・ワークショップにて1年間のアートマネージメント研修。1998年から3年間の準備期間を経て、2001年NPO法人JCDNを京都にて設立。ネットワーク型NPOとして、「踊りに行くぜ!!!」開催、「コミュニティダンス」の普及、ダンス・イン・レジデンスの推進、ダンスによる復興支援活動など、日本全国にて社会とダンスをつなぐ様々な活動を行っている。

●志賀 玲子(プロデューサー)

2005～2009年度大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教授。1990～2008年兵庫県伊丹市立演劇ホール(アイホール)プロデューサー。2000～2007年びわ湖ホール夏のフェスティバルプログラムディレクター。2003～2006年京都造形芸術大学舞台芸術研究センタープロデューサー。他、一般財団法人地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」コーディネーター、岩下徹制作、等。2005年6月より、神経難病ALS発病の友人の支援を開始。現在、京都/西陣で織屋建の町家を改造しダンスの稽古場を併設した空間で、24時間他人介護による独居生活<ALS-Dプロジェクト>をコーディネート。介護福祉士。

●菊丸喜美子(プロデューサー)

アートマネージメント、文化政策全般に関する講座の企画・運営のほか、国内外のコンテンポラリーダンスの企画制作に早期から携わる。フォーサイスカンパニーを初めとする海外アーティストの招聘、国内アーティストのプロデュースを手がける一方、地域の公共ホールとアーティストを結ぶ活動にも積極的に取り組み、地域滞在型(アーティスト・イン・レジデンス)のワークショップと公演、市民参加型の事業にも実績を持つ。また、演劇、音楽、美術をはじめとするジャンルを超えた芸術・文化活動全般にも意欲的に取り組んでいる。

●花光 潤子(パフォーミングアーツプロデューサー、NPO 法人魁文舎代表)

演劇・ダンス・ビデオアート・現代音楽などの現代芸術から伝統芸能まで、ジャンルを越えた実験的な舞台芸術作品を多数企画プロデュースする。海外との芸術交流も多く、1984年エジンバラ演劇祭招待参加を皮切りに日本人アーティストの外国公演のオーガナイズや外国のカンパニーの招聘公演、国際共同製作などを手がける。アジア女性演劇会議、日韓友好記念舞踏フェスティバル等の事務局長を歴任。1990～1992年オルタナティブスペース「246CLUB」の海外部門ディレクター、1992～1997年まで藤沢市湘南台市民シアターで芸術監督太田省吾氏の下、自主事業の企画制作に従事。その経験を活かし、地方都市の文化行政や施設運営に関する芸術環境整備の提言、調査研究などの仕事にも携わる。1996年から10年間大阪のIMI大学院スクールにてアートマネージメントの人材育成に務め、現在多くの卒業生が全国各地の文化施設で活躍している。

●平岡久美(Dance in Deed! 代表)

主にコンテンポラリーダンスの制作として、黒沢美香、川村美紀子をはじめ多くのアーティストの公演やワークショップの開催に携わるほか、トヨタコレオグラフィーアワード、青山劇場・青山円形劇場(こどもの城)等の制作に参加。2003年「フランスダンス2003」事務局次長、2009・2012年「ダンストリエンナーレトーキョー」プロデューサー、2014年～「Dance New Air - ダンスの明日」プロデューサーを務め、ダンスフェスティバルの企画・運営も行う。近年は、篠原聖一、下村由理恵、キミホ・ハルバートなどバレエ公演の制作も手がけている。

サブコーディネーター

●清水幸代(LANDSCAPE 代表)

京都出身。2001年日本女子体育大学(体育学科/芸術スポーツコース)卒業。慶應義塾大学アート・センター主催「アート・マネジメント・エキスパート・セミナー」修了。文化庁インターンシップ国内研修員として、新国立劇場、日本芸能実演家団体協議会などで研修。トヨタ自動車株式会社主催「トヨタコレオグラフィーアワード」の立上げ及び事務局運営に携わる。2007年～2011年Dance Company BABY-Q(東野祥子)の企画・制作。2004年より世田谷パブリックシアターに勤務。企画・制作スタッフとして公演事業、教育普及事業、フェスティバル運営やアーティストの支援などに多数携わる。2014年8月より京都に移住。独立しフリーランスで活動をスタートする。資格:2001年高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得。2013年日本体育協会マスターコース修了。

●小倉由佳子(プロデューサー)

兵庫県生まれ。神戸女学院大学文学部卒業。2001年から2006年6月まで、アイホール(伊丹市立演劇ホール)ダンス担当者として勤務。2008年4月から2014年3月まで、アイホールディレクターとして同劇場の主にダンスプログラムの公演、ワークショップを企画制作。2010年からKYOTO EXPERIMENT(京都国際舞台芸術祭)制作スタッフ。2011年～2013年国際舞台芸術ミーティング in 横浜 TPAM ディレクション/ディレクター。舞台芸術制作者オープンネットワーク ON-PAM 理事。トヨタコレオグラフィーアワード2010、2012 審査委員。ほか、海外公演のコーディネート等、ダンスを中心にさまざまな公演やイベントに関わる。

平成 26 年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階

Tel.03-5573-4055、4077 Fax.03-5573-4060

発行日／平成 27 年 6 月